

科目名	インターンシップ実習		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日 (60時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 (心構え、情報や資料の収集等) をしっかり行うことが重要である。従って 本件で、単位修得の為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事を原則とする。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。又、確実な成果を上げるために、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事。

評価

受け入れ先の評価 (A)、インターンシップレポート (B)、それに巡回指導 (C) に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】 特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

【参考図書】

科目名	インターンシップ実習		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日 (60時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 (心構え、情報や資料の収集等) をしっかり行うことが重要である。従って 本件で、単位修得の為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事を原則とする。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。又、確実な成果を上げるために、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事。

評価

受け入れ先の評価 (A)、インターンシップレポート (B)、それに巡回指導 (C) に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】 特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

【参考図書】

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

5日 (35時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 (心構え、情報や資料の収集等) をしっかり行うことが重要である。その為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事が望ましい。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

授業外学習

- 【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。
- 【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】 特にない。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。
- 【参考図書】

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

5日 (35時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 (心構え、情報や資料の収集等) をしっかり行うことが重要である。その為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事が望ましい。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

授業外学習

- 【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。
- 【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】 特にない。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。
- 【参考図書】

科目名	メディア社会論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科専門科目「メディア社会論」と同時開講

情報を伝える「メディア」の発展が、私たち人間の「社会」をどう変えてきたかを考えます。例えば、今や女子大生なら持っていない人がいないであろう、ケータイ。この新たな情報伝達手段の登場で、「待ち合わせ」とか「約束の時間」という行為や考え方が変化してきたのは、皆さん自身が最もよく知ることでしょう。このように、新たな情報伝達手段の登場が私たちの行動パターンやひいては社会のあり方にまで影響を与えてきたことを歴史的に学んでいくことで、未来の社会の姿のヒントを得ることが狙いです。

内容

1	イントロダクション
2	「メディア・社会・論」って何？
3	「ことば」の誕生 「文字」の発明1
4	「ことば」の誕生 「文字」の発明2
5	「大量印刷」法の発達1
6	「大量印刷」法の発達2
7	「電気通信・電氣的記録機器」の発明1
8	「電気通信・電氣的記録機器」の発明2
9	「コンピュータ」の登場1
10	「コンピュータ」の登場2
11	インターネットの時代1
12	インターネットの時代2
13	現代の社会とメディアの課題
14	現代の社会とメディアの課題
15	まとめ

評価

逐次、小レポートを書いてもらいます (60%)。最後にテストまたはレポート課題をします (40%)。

授業外学習

【事前予習】ニュースなどでメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書 『メディア用語基本事典』 (世界思想社)

科目名	言語表現論		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

*参加型のアクティブラーニングで授業を進めます。

社会で求められているコミュニケーション能力とは何かを理解し必要なスキルを実践的に学び、「書く」「考える」「伝える」「理解する」力の基礎を身に付ける。

グループワークで、アウトプット、フィードバックの訓練をおこないます。

自分の考えを言語化し、見える状態にすることから始めます。
マインドマップを基本ツールとしてマスターしてもらいます。

内容

- 1 この授業の意味と評価の方法。
- 2 コミュニケーション能力とは何か。
- 3 マインドマップというツール
- 4 メディア力を高める
- 5 考える、書く、実行する方法 1
- 6 考える、書く、実行する方法 2
- 7 相手理解と伝える行為 1
- 8 相手理解と伝える行為 2
- 9 伝わる・揺さぶる 1
- 10 伝わる・揺さぶる 2
- 11 アウトプットとフィードバック
- 12 社会が求める言語運用能力とのギャップ
- 13 続けるコツと学びあい
- 14 継続的マップ化
- 15 振り返り

評価

獲得したポイントにより評価します。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント (提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント (6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・
D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】1週間の体験・経験からの気づきの言語化

【事後学修】獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	ニュースと社会		
担当教員名	大西 正行、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代社会で起きている主要なニュースを知ることと併せ、これをメディアがどう報じているかにも注目し、時事問題への基礎的理解を深める。

科目の概要

社会・政治・経済・文化等の各分野を鳥瞰しつつ、取り上げたそれぞれのテーマを理解し掘り下げていくための土台をつくる。

学修目標 (=到達目標)

社会・政治・経済・文化はそれぞれが分断されているのではなく、相互に関連し合っってニュースは生まれ、メディアを通して私たちは伝えられた情報の意味を自分なりに受けとめている。単なる暗記的理解を超えて、「表に現れた事象の奥に潜んでいるもの」を洞察できる力を養いたい。

内容	
1	ガイダンス
2	政治ニュース
3	政治ニュース
4	政治ニュース
5	政治ニュース
6	経済ニュース
7	経済ニュース
8	国際ニュース
9	社会ニュース
10	社会ニュース
11	社会ニュース
12	社会ニュース
13	文化ニュース
14	文化ニュース
15	まとめ

評価

授業への取り組み 70 点、2 名の担当者が出すによる課題執筆等 30 点とし、60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】常日頃、新聞、テレビ等でニュースに接することが肝要である。

【事後学修】授業の最後に書いてもらう「感想文」などから自己の理解を発展させる習慣付けを求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『ニュース検定 3・4 級』（毎日新聞社）

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・学科基礎専門科目での位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

- ・この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。おすすめです。
- ・授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。
- ・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。
- ・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

内容

1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションの基本概念
3	プレゼンテーションマインドを高める
4	プレゼンテーションの設計
5	プレゼンテーションの極意
6	プレゼンテーションの評価
7	ビジュアルプレゼンテーション演習
8	グループプレゼンテーション課題 1
9	グループプレゼンテーション課題 2
10	グループプレゼンテーション課題 3
11	プレゼンテーション制作 1
12	プレゼンテーション制作 2
13	プレゼンテーション制作 3
14	発表・評価
15	まとめ

評価

毎回授業後48時間以内に、まとめ&感想（質問含む）と Self-evaluationをメールで送信（提出 基礎
点... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・
...3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題...5~10ポイント合計ポイントと評価
...D<60 C<70 B<80 A（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

授業外学習

【事前予習】制作発表における事前課題の実施

【事後学修】授業に関する事後評価の実施

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山崎紅，説得できるプレゼンの鉄則（PowerPoint上級極意編），日経BP

【参考図書】中澤務・森貴史・本村康哲編，『知のナビゲーター』，くろしお出版(入門ゼミナールと同じ)

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・学科基礎専門科目での位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。
- ・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。
- ・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

内容

- ・『PowerPoint』の基本操作
- ・プレゼンテーションのプランニングと構成
- ・スライドの作成
- ・人前で話すための基本姿勢
- ・プレゼンテーション演習

1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションの基本概念
3	プレゼンテーションマインドを高める
4	プレゼンテーションの設計
5	プレゼンテーションの極意
6	プレゼンテーションの評価
7	ビジュアルプレゼンテーション演習
8	グループプレゼンテーション課題 1
9	グループプレゼンテーション課題 2
10	グループプレゼンテーション課題 3
11	プレゼンテーション制作 1
12	プレゼンテーション制作 2

13	プレゼンテーション制作3
14	発表・評価
15	まとめ

評価

毎回授業後48時間以内に、まとめ&感想（質問含む）と Self-evaluationをメールで送信（提出 基礎点... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・...3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題...5~10ポイント合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

授業外学習

【事前予習】制作発表における事前課題の実施

【事後学修】授業に関する事後評価の実施

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山崎紅，説得できるプレゼンの鉄則（PowerPoint上級極意編），日経BP

【参考図書】中澤務・森貴史・本村康哲編，『知のナビゲーター』，くろしお出版(入門ゼミナールと同じ)

科目名	脳とコミュニケーション		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この講義は、私たちのコミュニケーションを操る脳についてのものです。私たちが誰かに自分の気持ちを伝えるとき、相手に「伝える内容」ばかりを考えますが、本当に何が伝わっているのか不明な部分が多いのです。

科目の概要

扱うのは、(1) 言葉に込められた私たちの感情の情報、(2) 発話方法が伝える感情、(3) さらには私たちの顔に現れた感情、これらの背景を分析していきます。

学修目標 (=到達目標)

私たちが、何かを想像し、行動し、結果を得るとき、いったい脳の中で何が起きているのでしょうか。言語だけではなく、視覚、聴覚、触覚など様々な角度から脳をとらえて行こうと思う。なるべく平易な授業を心がけますが、しっかり聴いて下さい

内容

前半は脳とコミュニケーションの基本的な知識、後半はその応用例を考察します。

1	脳にとってコミュニケーションとは何か 導入
2	脳はどう進化し、成長するか
3	脳にとって視覚と聴覚とは何か
4	脳と味覚、嗅覚、触覚とは何か
5	脳の可逆性と成長
6	脳の中で感情はどう生まれるか
7	脳に言語はどう組み込まれるか
8	脳はどこまで騙せるか (微表情の分析)
9	脳と性格：人によって判断が違うのはなぜか。
10	脳と世界：広告や記事
11	脳に男女の脳の差はあるのか
12	知能と記憶と先入観
13	「私」はどこにいるのか。
14	脳とコミュニケーション
15	まとめ

評価

授業への取り組み、リアクションペーパー (40%) と課題レポート (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前週に指定された頁を読んでくる。30分程度。

【事後学修】理解を深めるために再読20分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】森田勝之 『0歳から育てる脳と心』創元社

【推薦書】

【参考図書】

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人の心をとらえる文章はどう書くか。「読み、書き、聞き、話す」トータルな常識と文章のスタイルを押さえて、説得力を持つ文章を書けるように指導する。

意思伝達の基本として、手紙の書き方、敬語の使い方等の文章作法から入り、さまざまな文章スタイルを認識したうえで、内容があり、相手を引きつける文章が書けるように努める。

学修目標

- 1 文章への苦手意識を克服し、日常の各場面で文章を活かす発想を身に付けてもらう。
- 2 文章を書くことの楽しさを味わい、文章を作りながら事象に対する見方を深める。

内容

1	手紙の書き方から文章作りを始める
2	敬語の使い方
3	企画書のポイント（「何を書くか」「どう書くか」と深く関わる文章の型）
4	洞察力という池に「人間を磨く物差し」を入れる
5	文章を書くために基礎知識を蓄え、たえず補給しよう
6	語感を伴ったボキャブラリーを増やそう
7	分かりやすく、説得力のある文章のテイスト
8	「どう書くか」とは、5W1Hの1つをクローズアップすること
9	見出しをつけてから文章を書き始める癖をつけよう
10	見出しができたなら、次はリードに凝りなさい
11	文章作りのツボとなり、見識を高める社説を読もう
12	名文に惚れる、同化する。スターライターの志を持とう
13	誤字・脱字・思い込み等を避ける文章の自己防衛と推敲
14	人物論と自己観察で磨く文章力（文章は書き手自身を映す鏡）
15	まとめ

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人の心をとらえる文章はどう書くか。「読み、書き、聞き、話す」トータルな常識と文章のスタイルを押さえて、説得力を持つ文章を書けるように指導する。

意思伝達の基本として、手紙の書き方、敬語の使い方等の文章作法から入り、さまざまな文章スタイルを認識したうえで、内容があり、相手を引きつける文章が書けるように努める。

学修目標

- 1 文章への苦手意識を克服し、日常の各場面で文章を活かす発想を身に付けてもらう。
- 2 文章を書くことの楽しさを味わい、文章を作りながら事象に対する見方を深める。

内容

1	手紙の書き方から文章作りを始める
2	敬語の使い方
3	企画書のポイント（「何を書くか」「どう書くか」と深く関わる文章の型）
4	洞察力という池に「人間を磨く物差し」を入れる
5	文章を書くために基礎知識を蓄え、たえず補給しよう
6	語感を伴ったボキャブラリーを増やそう
7	分かりやすく、説得力のある文章のテイスト
8	「どう書くか」とは、5W1Hの1つをクローズアップすること
9	見出しをつけてから文章を書き始める癖をつけよう
10	見出しができたなら、次はリードに凝りなさい
11	文章作りのツボとなり、見識を高める社説を読もう
12	名文に惚れる、同化する。スターライターの志を持とう
13	誤字・脱字・思い込み等を避ける文章の自己防衛と推敲
14	人物論と自己観察で磨く文章力（文章は書き手自身を映す鏡）
15	まとめ

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人の心をとらえる文章はどう書くか。「読み、書き、聞き、話す」トータルな常識と文章のスタイルを押さえて、説得力を持つ文章を書けるように指導する。

意思伝達の基本として、手紙の書き方、敬語の使い方等の文章作法から入り、さまざまな文章スタイルを認識したうえで、内容があり、相手を引きつける文章が書けるように努める。

学修目標

- 1 文章への苦手意識を克服し、日常の各場面で文章を活かす発想を身に付けてもらう。
- 2 文章を書くことの楽しさを味わい、文章を作りながら事象に対する見方を深める。

内容

1	手紙の書き方から文章作りを始める
2	敬語の使い方
3	企画書のポイント（「何を書くか」「どう書くか」と深く関わる文章の型）
4	洞察力という池に「人間を磨く物差し」を入れる
5	文章を書くために基礎知識を蓄え、たえず補給しよう
6	語感を伴ったボキャブラリーを増やそう
7	分かりやすく、説得力のある文章のテイスト
8	「どう書くか」とは、5W1Hの1つをクローズアップすること
9	見出しをつけてから文章を書き始める癖をつけよう
10	見出しができたなら、次はリードに凝りなさい
11	文章作りのツボとなり、見識を高める社説を読もう
12	名文に惚れる、同化する。スターライターの志を持とう
13	誤字・脱字・思い込み等を避ける文章の自己防衛と推敲
14	人物論と自己観察で磨く文章力（文章は書き手自身を映す鏡）
15	まとめ

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人の心をとらえる文章はどう書くか。「読み、書き、聞き、話す」トータルな常識と文章のスタイルを押さえて、説得力を持つ文章を書けるように指導する。

意思伝達の基本として、手紙の書き方、敬語の使い方等の文章作法から入り、さまざまな文章スタイルを認識したうえで、内容があり、相手を引きつける文章が書けるように努める。

学修目標

- 1 文章への苦手意識を克服し、日常の各場面で文章を活かす発想を身に付けてもらう。
- 2 文章を書くことの楽しさを味わい、文章を作りながら事象に対する見方を深める。

内容

1	手紙の書き方から文章作りを始める
2	敬語の使い方
3	企画書のポイント（「何を書くか」「どう書くか」と深く関わる文章の型）
4	洞察力という池に「人間を磨く物差し」を入れる
5	文章を書くために基礎知識を蓄え、たえず補給しよう
6	語感を伴ったボキャブラリーを増やそう
7	分かりやすく、説得力のある文章のテイスト
8	「どう書くか」とは、5W1Hの1つをクローズアップするということ
9	見出しをつけてから文章を書き始める癖をつけよう
10	見出しができたなら、次はリードに凝りなさい
11	文章作りのツボとなり、見識を高める社説を読もう
12	名文に惚れる、同化する。スターライターの志を持とう
13	誤字・脱字・思い込み等を避ける文章の自己防衛と推敲
14	人物論と自己観察で磨く文章力（文章は書き手自身を映す鏡）
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人の心をとらえる文章はどう書くか。「読み、書き、聞き、話す」トータルな常識と文章のスタイルを押さえて、説得力を持つ文章を書けるように指導する。

意思伝達の基本として、手紙の書き方、敬語の使い方等の文章作法から入り、さまざまな文章スタイルを認識したうえで、内容があり、相手を引きつける文章が書けるように努める。

学修目標

- 1 文章への苦手意識を克服し、日常の各場面で文章を活かす発想を身に付けてもらう。
- 2 文章を書くことの楽しさを味わい、文章を作りながら事象に対する見方を深める。

内容

1	手紙の書き方から文章作りを始める
2	敬語の使い方
3	企画書のポイント（「何を書くか」「どう書くか」と深く関わる文章の型）
4	洞察力という池に「人間を磨く物差し」を入れる
5	文章を書くために基礎知識を蓄え、たえず補給しよう
6	語感を伴ったボキャブラリーを増やそう
7	分かりやすく、説得力のある文章のテイスト
8	「どう書くか」とは、5W1Hの1つをクローズアップするということ
9	見出しをつけてから文章を書き始める癖をつけよう
10	見出しができたなら、次はリードに凝りなさい
11	文章作りのツボとなり、見識を高める社説を読もう
12	名文に惚れる、同化する。スターライターの志を持とう
13	誤字・脱字・思い込み等を避ける文章の自己防衛と推敲
14	人物論と自己観察で磨く文章力（文章は書き手自身を映す鏡）
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	ディベート		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次前期音声表現コミュニケーション(基礎)で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指しています。

科目の概要

特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

学修目標(=到達目標)

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものです。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分です。

内容

授業は、3クラス同時進行し、適宜3クラス合同1教室で行うこともあります。

1	導入：デーベートとは (3クラス共通)
2	ディベートのしくみ
3	ディベートの流れ
4	ディベートの目的と立論
5	課題：データカードの提出
6	論題の内容理解
7	論題の検討と分析
8	反論の準備
9	評価の方法 (3クラス共通)
10	課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11	課題による立論強化
12	フローシート作成
13	フローシート完成
14	課題 クラス代対抗ディベート
15	まとめ クラス対抗ディベート

評価

3回の課題20%×3とディベート実践(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1時間。前週に指定された課題を検討

【事後学修】チェックされた部分の訂正を30分程度で復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅくみから試合の練習まで』あさ出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	ディベート		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次前期音声表現コミュニケーション (基礎) で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指しています。

科目の概要

特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

学修目標 (=到達目標)

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互に見出していこうとするものです。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分です。

内容

授業は、3クラス同時進行し、適宜3クラス合同1教室で行うこともあります。

1	導入：デーベートとは (3クラス共通)
2	ディベートのしくみ
3	ディベートの流れ
4	ディベートの目的と立論
5	課題：データカードの提出
6	論題の内容理解
7	論題の検討と分析
8	反論の準備
9	評価の方法 (3クラス共通)
10	課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11	課題による立論強化
12	フローシート作成
13	フローシート完成
14	課題 クラス代対抗ディベート
15	まとめ クラス対抗ディベート

評価

3回の課題20%×3とディベート実践(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1時間。前週に指定された課題を検討

【事後学修】チェックされた部分の訂正を30分程度で復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の練習まで』あさ出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	ディベート		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次前期音声表現コミュニケーション(基礎)で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指しています。

科目の概要

特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

学修目標(=到達目標)

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互に見出していこうとするものです。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分です。

内容

授業は、3クラス同時進行し、適宜3クラス合同1教室で行うこともあります。

1	導入：デーベートとは (3クラス共通)
2	ディベートのしくみ
3	ディベートの流れ
4	ディベートの目的と立論
5	課題：データカードの提出
6	論題の内容理解
7	論題の検討と分析
8	反論の準備
9	評価の方法 (3クラス共通)
10	課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11	課題による立論強化
12	フローシート作成
13	フローシート完成
14	課題 クラス代対抗ディベート
15	まとめ クラス対抗ディベート

評価

3回の課題20%×3とディベート実践(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前週に指定された課題を検討

【事後学修】チェックされた部分の訂正を30分程度で復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の練習まで』あさ出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	情報倫理		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「情報倫理」は様々な角度から論じられているが、本講ではメディアからの情報を的確に受け取り、活用できる「情報の賢い受け手」になることを主眼に置く。

科目の概要

情報に関わるということは、「受け手」と「送り手」の2つの側面がある。今後、メディアや情報を専門に学ぶ上で、まずは情報の上手で賢い「受けて」になることが必要と思われる。新聞、テレビの情報（主としてニュース）がどのように収集、編集、発信されるかを学ぶとともに、自ら必要とする情報を的確に選択し、自分なりに解説を加えられる能力を磨く。そのために、毎回の授業では新聞記事のスクラップ作業等を通じて、情報の的確な選択と分析作業に取り組む。また、第一線にいる法律専門家（弁護士）を招き、情報が持つ正と負の側面を実際の事例を通じて学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

情報化時代に生きる学生、特にメディア・情報を学ぶ学生があふれる情報の中から、自ら必要とする情報を選び、活用する能力を授業を通して培う。今後、専門を学ぶ上で自立した情報の受け手になることを目標とする。

内容

1	授業ガイダンス 講義の進め方・新聞スクラップ作業の説明
2	講義 = 新聞情報の収集、編集、発信の過程 スクラップ作業
3	講義 = テレビ情報の収集、編集、発信の過程 スクラップ作業
4	スクラップ作業と記事解説の発表
5	スクラップ作業と記事解説の発表
6	法律の専門家による事例解説 スクラップ作業
7	スクラップ作業と記事解説の発表
8	スクラップ作業と記事解説の発表
9	法律の専門家による事例解説 スクラップ作業
10	スクラップ作業と記事解説の発表
11	スクラップ作業と記事解説の発表
12	法律の専門家による事例解説 スクラップ作業
13	スクラップ作業と記事解説の発表
14	スクラップ作業と記事解説の発表
15	まとめ テーマを設定したスクラップ作業

評価

毎回のスクラップ内容60点 + 最終回の記事分析レポート40点 = 100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業では新聞を用意するが、事前に新聞を読むことを勧める(新聞は特に問わない)

【事後学修】授業で興味・関心を持った記事に関し、関連事項を検索し、理解を進める

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし

【推薦書】 授業時に指示

【参考図書】 授業時に指示

科目名	メディア文化論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、「メディア」というものが社会においてどのような文化的基盤として機能しているのかを考えていく。書籍、ラジオ、テレビ、インターネットといったさまざまな媒体の形をとりながら、メディアは私たちの社会において「文化」、「コミュニケーション」、「ネットワーク」、「コミュニティ」などのさまざまな機能を果たしている。本講義では、伊藤守編『よくわかるメディア・スタディーズ』を教科書としながら「メディア文化」について広く学んでいく。受講者それぞれが、教科書のなかから関心のある項目を選んで発表し、その内容について受講者全員で討論し、毎回、ミニレポートを作成してもらう。

内容

1. メディア文化論とはなにか？
2. メディアの物質性と歴史性
3. 文字メディアの誕生
4. 音声メディアの誕生
5. 映像メディアの誕生
6. インターネットとウェブ
7. メディア社会の構造
8. メディア産業とその特徴
9. メディア文化のグローバル化
10. メディアの表象 (1) 人種
11. メディアの表象 (2) ジェンダー
12. メディアの表象 (3) 若者
13. メディア文化と都市空間
14. メディアの政治経済学
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】教科書の指定された範囲を読んでおくこと

【事後学修】授業の内容を踏まえて具体的な事例について考察してみること

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書

伊藤守・よくわかるメディア・スタディーズ・ミネルヴァ書房

その他、必要な教材については授業内で適宜、説明します。

科目名	放送概論		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格・・・放送の役割や課題について学び、テレビなどの放送メディアとのかかわり方を考える。

科目の概要・・・私たちはマスメディアによって世の中の情報を入手している。一方インターネットを活用することで、私たち一人ひとりが情報発信者として世の中の動きに参加できる時代になっている。テレビ放送が始まって60年。放送を取り巻く環境の変化や放送の歴史を学び、放送現場で働く人々の姿を知ること、私たちは放送とどのようにかかわれば良いのかを考えていく。外部の講師を招く可能性もあるので、特に熱心な学生の参加を希望する。

学修目標(=到達目標)・・・自分の判断で放送やインターネットを上手に利用し情報社会と関わっていく姿勢を身につける。

内容	
1	放送とはなにか
2	放送の歴史
3	放送は何を伝えてきたか
4	視聴者は放送とどう関わってきたのか
5	放送の現場～アナウンサーの仕事・役割
6	放送の現場～番組制作の仕事と内容
7	放送の現場～報道と記者の仕事
8	放送技術の歴史～放送博物館
9	メディア・リテラシー
10	現代の放送番組の課題・問題点について議論する
11	放送とインターネットについて
12	放送の世界で活躍する女性たち
13	放送の世界で活躍する女性たち
14	放送の未来と私たちの暮らし
15	まとめ

評価

期末試験(40%)日頃の授業への取り組み(20%)ミニレポート(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】プリントなど資料を読む。指定された番組を視聴して疑問点などをまとめる。

【事後学修】ミニレポートなどを書く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【参考図書】『データブック世界の放送2013』NHK放送文化研究所編 NHK出版

『改訂版メディア文化論』吉見俊哉著 有斐閣アルマ

『テレビ視聴の50年』NHK放送文化研究所編 NHK出版

『放送メディア研究』日本放送協会放送文化研究所

『叢書現代のメディアとジャーナリズム1～6』ミネルヴァ書房

『放送ウーマンのいま』日本女性放送者懇談会編 ドメス出版

科目名	環境と社会		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1.2年生対象メディア群科目として、地球環境問題の様々な側面について考える。

地球閉居問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作りなおすという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム (生態系) という視点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な対策について検討するとともに、エコシステムに注目する行動の基礎になった環境倫理学の視点も紹介して、生態系を重視する環境保護政策のあり方について考える。

環境問題の多様性を理解し、「環境学」の基礎を学ぶ。

内容	
1	地球環境問題をどう捉えるか
2	環境を考える4つの視点 (1) : 市場優先派と制度重視派
3	環境を考える4つの視点 (2) : 生態系優先派と緑の社会正義派
4	環境保護対策の考え方
5	国際協力体制の始まり
6	国際協力体制の発展
7	環境問題における国際対立
8	環境問題と経済格差
9	環境問題とジェンダー
10	環境問題と民主主義
11	環境NGO
12	環境倫理学
13	生態系を守る環境保護政策
14	環境学への視座
15	まとめ

評価

レポート (60%)、試験 (40%) で総合評価。再試験は行わない。

授業外学習

【事前予習】新聞・ニュース等で、環境関連の出来事について情報を集める。

【事後学修】授業で説明された政治経済社会的背景を踏まえて、集めた情報を整理する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】関礼子他 『環境の社会学』有斐閣アルマ 2009年

【推薦書】京都大学地球環境学研究会 『地球環境学へのアプローチ』丸善 2008年；東京商工会議所編 『eco検
定公式テキスト』日本能率協会 2011年

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』明石書店 2003年

科目名	アジア入門		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代社会に生きる日本人の基本的教養である、アジアにおける日本の歴史的な位置づけを確認する

科目の概要

映画で学ぶ、アジア史。「生き証人」のゲストスピーカーを招く。

学修目標 (= 到達目標)

現代社会に生きる日本人の基本的教養である、アジアにおける日本の歴史的な位置づけを理解する

内容

アジアと日本との国際的な近現代史を扱った、内外の映画資料を利用する。

基本的な進め方は、映画の背景解説、映画視聴、内容に関するDiscussion、というサイクルで行う。

現代史に関わる部分では、「生き証人」を教室にお招きして、歴史を証言していただくことも盛り込んでいきたい。

評価

隔週に提出してもらう小レポートを50点、Discussionを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】アジアに関するニュースや動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	エンターテインメントメディア論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、グローバル化が進むにつれて世界中で視聴されるようになったハリウッド映画のいくつかの作品を視聴し、その面白さの根源がどこにあるのか、また世界中で見られる映像としてそこで描かれている事物がどのような意味を持ちうるのか、といった点について分析していく。授業で扱うのは、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』、『スター・ウォーズ』、『タイタニック』、『ターミネーター2』など、誰もが一度は見たことがある（だろう）作品である。授業内では、実際に映画を視聴し、映画理論に関する論文を輪読し、「ハリウッド脚本術」と呼ばれるその独特の脚本構成の分析や映像表現技術の検討を通じて、エンターテインメント性とはなにか、またその概念が孕む問題点について考えていく。

内容

1. エンターテインメントメディアとは何か？
2. エンターテインメントメディアの構造 (1) ストーリーと脚本
3. エンターテインメントメディアの構造 (2) キャラクター
4. エンターテインメントメディアの構造 (3) フレームと編集
5. エンターテインメントメディアの構造 (4) イデオロギー
6. エンターテインメントメディアの分析 (1)
7. エンターテインメントメディアの分析 (2)
8. エンターテインメントメディアの分析 (3)
9. エンターテインメントメディアの分析 (4)
10. エンターテインメントメディアの分析 (5)
11. エンターテインメントメディアの分析 (6)
12. エンターテインメントメディアと映画理論 (1)
13. エンターテインメントメディアと映画理論 (2)
14. エンターテインメントメディアと映画理論 (3)
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】配布された文献を読んでおくこと

【事後学修】授業の内容を踏まえて文献を参照しながらワーキングペーパーを作成すること

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書

藤井仁子『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院

ルイス・ジアネッティ 『映画技法のリテラシー 1』 フィルムアート社

ルイス・ジアネッティ 『映画技法のリテラシー 2』 フィルムアート社

純丘曜彰 『エンターテインメント映画の文法 : ヒットを約束する脚本からカメラワークまで』 フィルムアート社

ニール・D.ヒックス 『ハリウッド脚本術 : プロになるためのワークショップ101』 フィルムアート社

* 必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	マンガ・アニメ論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

戦後日本の代表的なポピュラー文化として、マンガとアニメーションは相互に影響を与え合いながら発展してきました。その結果、マンガやアニメは、「ソフト・パワー」として現在日本の産業を支える重要なコンテンツになっています。日本ではどうして、こんなにもマンガとアニメが普及したのでしょうか？ その歴史的な文脈を探りながら、わたしたちの社会や文化、日常生活の中でマンガとアニメが果たしてきた役割を、文化社会学的な視点から考察します。そのために、広く社会学、歴史学、文化研究、メディア論、表象論、文学理論など、分析のために役立つ理論や方法論を毎週の講義を通じて紹介していきます。最終的には、受講者が実際にレポートなどを作成する際に使えるような知識を学んでもらうことが本講義の目的となります。また、製作現場が実際にはどのように展開されているかを学んでもらうために、実際にマンガやアニメーションの製作に関わっている特別講師の方を招いて特別講義をしてもらうことになっています。

内容

1. ポピュラー文化としてマンガとアニメをどう考察するか
2. 戦後マンガの歴史 (1) 手塚治虫が開いた世界
3. 戦後マンガの歴史 (2) 少年マンガの世界
4. 戦後マンガの歴史 (3) 少女マンガの世界
5. マンガと表象 (1) ジェンダーの視点から
6. マンガと表象 (2) 恋愛 の視点から
7. マンガとその製作現場 特別講師の授業
8. 戦後アニメの歴史 (1) テレビアニメの世界
9. 戦後アニメの歴史 (2) SFアニメの世界
10. 戦後アニメの歴史 (3) アニメ映画の世界
11. アニメと表象 (1) ハイブリディティの視点から
12. アニメと表象 (2) テクノロジーの視点から
13. アニメとその製作現場 特別講師の授業
14. 「クール・ジャパン」現象を再検討する
15. まとめ

特別講師の講義日程によって、順番については多少の変更があります。

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】教科書の指定された場所を読んでおくこと

【事後学修】授業で配布された資料などをノートにまとめておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

津堅信之・アニメーション学入門・平凡社新書

推薦書

大塚英志 + ササキバラゴウ・教養としての まんが・アニメ

米沢嘉博・戦後少女マンガ史 ・ちくま文庫

その他、必要に応じて、授業の中でテキストとプリントを配布します。

科目名	インターネット社会論		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。高度情報社会といわれる現代社会では、インターネットに関する正しい知識と社会における役割を理解することが重要とされており、それに対応した科目である。

科目の概要

大きな柱として、次の2つの内容で構成する。

- ・インターネットの概要と仕組みの理解

インターネットに関する技術的な基本となる知識・理解を中心に構成する。インターネット検定 .com Master BASIC 相当の内容とする。

- ・インターネットが社会に与える影響

インターネットを取り巻く社会環境の変化や新しい技術が世の中に展開していく上での、社会的諸問題についても議論及び考察を行い、我々が認識すべき課題について明らかにする。

学修目標

- ・インターネットの概要と仕組み、利活用方法について理解する。
- ・インターネットのコンテンツやサービスの正しい知識を身につけ、社会との関わりを考察できる。
- ・高度情報社会での変容に的確に対応できる能力を身につける。

内容	
1	オリエンテーション
2	インターネットの概要と歴史
3	インターネットの接続
4	情報機器の活用
5	インターネットの活用 1
6	インターネットの活用 2
7	インターネット社会の安全性・モラル
8	インターネットのセキュリティ
9	インターネット関連のサービス利用と関係の法律
10	情報行動の意味と捉え方/情報行動と情報社会とのつながり
11	インターネットや携帯電話の利用と効果
12	SNSとオンラインコミュニティーの生成
13	インターネットに見る事件
14	インターネット社会と流動性 / 情報倫理の根本
15	まとめ

評価

レポート50%、試験50%により評価をおこない、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に提供するWeb教材での予習

【事後学修】事後に実施する小テスト

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定する。

科目名	メディア産業論		
担当教員名	大西 正行、岩本 昭治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディア4媒体と新領域メディアに至るメディアビジネスを概観し、コンテンツの重要性を押さえながら、今後を展望する。「メディア産業論」は、各メディア企業の良質のコンテンツ発信を支える「広告」の役割を抜きにしては、考えられない。各メディアの広告ビジネスとはいかなるものかを解明する。

科目の概要

新聞、テレビ、雑誌、ラジオという既存メディアの厳しいビジネス環境とともに、インターネット、電子書籍、携帯電話等の展開を学ぶ。主要媒体の概観ごとに、大手広告会社の中枢をになった企業人による「広告ビジネスのアプローチ」を設け、メディア産業を多面的にとらえる。

学修の目標

- 1 日々、現代人が水のように接するメディアのビジネス構造を理解し、ビジネス面からメディアリテラシーを高める。
- 2 メディアビジネスの現場で働く人の現実を的確に把握し、メディアへの就職を志向する学生のモチベーションをアップさせる。

内容

1	ガイダンス (ネット社会における新聞の明日から説き起こす)
2	メディアの変貌の中のロマンとソロバン
3	広告会社とは何か (広告ビジネス概観)
4	全国紙の今
5	通信社と地方紙の今
6	広告から新聞業界を見る
7	雑誌・出版界と編集者の今
8	本ができるまでと本の出版、電子書籍と紙の本
9	広告から出版業界を見る
10	テレビ概論
11	テレビの番組制作と視聴率
12	広告からテレビ業界を見る
13	ニューメディアの時代と広告
14	ラジオ概説
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	国際マスコミュニケーション論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目分類 マスメディアコースメディア理論群選択必修

概要：「国際マスコミュニケーション」とは、マス・メディアを中心にした国を越えた社会の間のコミュニケーションをいいます。例えば、高校のときに韓国に旅行にいかれた方は、向こうでNHKを見ることが出来るのに驚いたのではないのでしょうか。また、今や日本のマンガやアニメは世界中で人気があるのはよくご存じだと思います。グローバル化の進展に伴い、こうした国際マスコミュニケーションは質・量共に増大しつづけており、それが国家および社会にとってどのような影響を与えているのかを考えるのが本講義の目的です。「国境を越えるマス・コミュニケーションのインパクト」が講義のサブタイトルです。

取り扱うテーマは、前半は、「国際マスコミュニケーション」を議論していく上で必要な、基本的な事象や概念について、具体的な事例を交えながら解説していきます。取り扱う主な事象・概念は、文化帝国主義、情報主権、国境を越えるテレビ、集团的帰属意識などです。後半は、ヨーロッパ・北米などにおける具体的な「国際マスコミュニケーション」の状況を紹介しながら、前半で解説した概念の理解を深めていきます。講義の締めくくりでは、現在の日本を含めたアジアを取り巻く「国際マスコミュニケーション」の状況を考えてみたいと思っています。

目標：現代における国際マスコミュニケーションの意義と問題点を理解する。

内容	
1	イントロダクション
2	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
3	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
4	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
5	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
6	国境を越えるマスコミュニケーション(TV)は何を伝えるのか
7	中間まとめ
8	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
9	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
10	世界情報秩序をめぐる議論と情報主権・文化帝国主義
11	北アメリカにおける国際マスコミュニケーション
12	ヨーロッパにおける国際マスコミュニケーション
13	日韓間の国際マスコミュニケーション
14	アジアにおける国際マスコミュニケーション
15	まとめ

評価

中間テスト (40%) および期末レポート (60%)

授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】ジョン・トムリンソン 『文化帝国主義』 青土社 361.6/T

田中浩編著 『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』 龍星出版、1996年

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門選択科目として、人間のコミュニケーション行動に興味をもつ学生を対象とする。コミュニケーション行動を科学的に理解する基礎を身につける。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション (要請承諾・説得)
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

評価

授業内の小課題10点、テスト90点、の計100点満点により評価を行う

授業外学習

【事前予習】学習予定である教科書の該当章を読み、概要を理解するように努める

【事後学修】学習内容を整理し直すとともに、日常生活での身近な行動に当てはめてみる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	教育とメディア		
担当教員名	安達 一寿、加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。教育分野とメディアに関わる内容となるので、教職履修者、あるいは教育分野でのメディア活用に興味関心のある学生に向いている。

科目の概要

学校教育・生涯学習などの教育分野では、新しいメディア活用に関する研究やメディアリテラシー育成のための教育が実践されている。例えば、インターネットの活用、デジタル教科書、電子黒板、e-ラーニング、クラウドサービスの活用などがある。またICTの活用に伴い、メディアリテラシー教育なども重要な課題である。本科目では、教育メディアの歴史からはじめ、情報機器端末、アプリケーション、メディアリテラシー教育、最新のICTを利用した教育環境をテーマとして取り上げる。

また、ICTを活用した簡単な教材作成の方法と開発を行い、教育とメディアへの理解を深める。

学修目標

- ・教育とメディアの関係やそれぞれの特徴が理解できる。
- ・メディアや情報に関わる教育の現状について考察を深めることができる。
- ・教材の開発を通して、ICTを活用した教育の理解を深める。

内容

1	オリエンテーション
2	メディアとメッセージ
3	教育モデルとメディア
4	教育とメディアの歴史と関係
5	子どもと情報メディア (1)
6	子どもと情報メディア (2)
7	情報教育とメディアリテラシ (1)
8	情報教育とメディアリテラシ (2)
9	メディアを活用した新しい学習 (1)
10	メディアを活用した新しい学習 (2)
11	メディアを活用した教材の設計
12	メディアを活用した教材の開発 (1)
13	メディアを活用した教材の開発 (2)
14	教材の評価
15	まとめ

評価

各テーマ毎にレポート課題 (3 ~ 4) を合計 6 0 % と、教材開発 4 0 % で評価をおこなう。

授業外学習

【事前予習】事前に提供するWeb教材での予習

【事後学修】事後に実施する課題レポートの実施

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する。

科目名	政治とメディア		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年生以上対象のメディア群科目として、政治についての情報の流れについて学ぶ。

人々が政治についての情報を入手する方法は色々ある。その中でも、職業として政治にかかわる人々 (政治家、官僚) も、素人として政治に参加する人々 (有権者) が最近特に注目しているのがマスメディアとインターネットメディアである。授業では、この2つを取り上げ、それぞれの特徴や問題点を議論する。また、情報のグローバル化が政治コミュニケーションに及ぼす影響についても考察する。

人々がメディアを通じてどのように政治情報を発信、受信しているか、発信している側の意図は何か、それを受信する側は何を感じるかなど、政治コミュニケーションの現状を理解する。

内容	
1	政治コミュニケーションとは何か
2	発信者と受信者の関係 (1) : 直接対話
3	発信者と受信者の関係 (2) : 間接対話
4	マスメディアの自由
5	マスメディアの制約
6	マスメディアと世論
7	インターネットメディアの発展
8	インターネットメディアの影響力
9	メディアの政治的影響
10	政治参加の方法としてのメディア (1) : 選挙キャンペーン
11	政治参加の方法としてのメディア (2) : 政治的動員
12	選挙報道
13	政治コミュニケーションの国際比較 (1) : 欧米諸国
14	政治コミュニケーションの国際比較 (2) : アジア諸国
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) で総合評価。再試験は行わない。

授業外学習

【事前予習】マスコミやネットで伝えられる政治ニュースをフォローする。

【事後学修】授業で説明された分析的視点からニュースを分析する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】蒲島郁夫他 『メディアと政治』有斐閣アルマ 2007年

【推薦書】遠藤薫 『間メディア社会における世論と選挙』東京電機大学出版局 2011年

【参考書】平田オリザ、松井孝治 『総理の原稿』岩波書店 2011年

科目名	地域メディア論		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

時折り見受けられる首都圏在住者の錯覚は、いわゆる全国紙、いわゆるテレビのキー局がメディアの総称と考えがちな点であり、実際の世論形成は、全国にあっては、その地域の有力地方紙、地域民放などの影響力が強く、県民・市民の評価を受けていることが多い。

本講義では、こうした実態を踏まえて、特に、本学キャンパスのある埼玉県メディア企業(埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、ジェイコムさいたま、地方出版社、コミュニティFM)等の具体的な活動、ビジネスからメディアを見つめ、地域メディアの意義と活性化への展望、地域メディアが培う県民性、メジャーマスコミとの違いはもちろん、SNS、ニューメディアとの関係性などを学ぶ。

なお首都圏のエリアは広く、埼玉県のみならず関東の地域メディアの展開を視野に入れて授業を進める。

内容

1	ガイダンス
2	地方紙の展開に見るメディア論 1
3	地方紙の展開に見るメディア論 2
4	地方出版論 1
5	地方出版論 2
6	地方テレビ局の展開に見るメディア論 1
7	地方テレビ局の展開に見るメディア論 2
8	地域のラジオ局の展開に見るメディア論 1
9	地域FMのニューメディア論 2
10	地域とニューメディア
11	首都圏の地域メディアと文化状況
12	首都圏の地域メディアと県民性
13	地域メディアの意義と役割 1 (メジャーマスコミとの比較の中で)
14	地域メディアの意義と役割 2 (メジャーマスコミとの比較の中で)
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度指示。

科目名	生活と政治行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

マスメディアの報道の前提となっている基礎知識のうち、政治・行政などに関わる基礎知識を学ぶ

科目の概要

政治的決定のルール、行政のしくみ、時事問題などを学ぶ。現在の課題(例えば、景気問題、少子高齢化と福祉の問題、財政赤字、憲法改正、原発と復興、TPP、安全保障など)がどのように決められていくか、どのように決めていくべきかを考える。

学修目標(=到達目標)

現在の日本の課題を題材として政治行政の基礎知識を修得するのみでなく、その課題を知識を生かして論じる力を身につけることを目標とする

内容

- 1 ガイダンス
- 2 政治・行政とは 政治のしくみ-国会・内閣、議院内閣制・大統領制-
- 3 政治・行政とは 行政のしくみ-中央省庁・地方自治体の役割-
- 4 政策決定システム 選挙と政権交代、与党と野党、官僚制度
- 5 政策決定システム 連立政権
- 6 立法過程 予算と法律、予算と法律ができるまで
- 7 立法過程 ねじれ国会、1年で交代する首相、安倍内閣による変化
- 8 前半まとめ
- 9 財政赤字と諸問題 福祉国家論と小さな政府
- 10 財政赤字と諸問題 財政危機と社会保障、景気対策、ヨーロッパ・アメリカ
- 11 現代日本政治の諸問題 安倍首相の目指すもの-積極的平和主義、戦後レジームからの脱却
- 12 現代日本政治の諸問題 安全保障、外交、憲法改正、原発再稼働・震災復興問題
- 13 現代日本行政の諸問題 景気対策とアベノミクス、財政赤字、雇用問題、
- 14 現代日本行政の諸問題 タテ割り行政がはばむもの、規制緩和、TPP、復興
- 15 後半まとめ

評価

小試験2回など(70%)、平常点(30%)の総合評価による

授業外学習

【事前予習】事前に予告された授業内容、関連する時事問題等について予習する

【事後学修】授業で学習した内容を復習し、それについての自分の意見・考え方をまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

堀江湛『政治学・行政学の基礎知識 第2 版』一藝社

岩井奉信『立法過程』東京大学出版会

科目名	国際関係論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年生以上対象のメディア群科目として、国際社会の全体像を理解する。

国際問題を、国際社会という舞台に現れる登場人物 (アクター)、出来事 (ストーリー) という視点でとらえ、20世紀後半の国際問題の流れを再考する。その上で21世紀の国際社会が直面している問題の特徴を探る。新たな情報手段や科学技術の登場によって、これまでとは異なる国際問題が発生する可能性についても論じる。

国際社会の動きと日本、さらに日本国内で身の回りに起きている出来事との関連性を理解し、国際社会が日本から遠いところで、自分に関係なく動いているのではないことを学ぶ。

内容	
1	国際社会への視点：日本の役割
2	20世紀の国際関係 (1) : 冷戦の始まり
3	20世紀の国際関係 (2) : 冷戦の終結
4	地域紛争 (1) : 歴史
5	地域紛争 (2) : 現状
6	テロリズム
7	南北問題 (1) : 格差
8	南北問題 (2) : 貧困
9	環境問題 (1) : 地球環境問題
10	環境問題 (2) : 国際協力
11	人権問題
12	国際社会の協力関係 (1) : グローバリゼーション
13	国際社会の協力関係 (2) : リージョナリゼーション
14	21世紀の国際社会と日本
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) で総合評価。再試験は行わない。

授業外学習

【事前予習】個々に選択した国あるいは指導者についてのニュースを集める。

【事後学修】授業で説明された国際政治の背景に重ねて、選択した国・指導者の動きについて考える。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】原彬久 『国際関係学講義（第4版）』有斐閣 2011年

【推薦書】渡邊啓貴編 『新版ヨーロッパ国際関係史』有斐閣アルマ 2008年

【参考図書】猪口孝 編 『国際関係リーディングズ』東洋書林 2004年

東大作 『平和構築 - アフガン、東ティモールの現場から』 岩波新書 2009年

科目名	映像文化論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、イギリスおよびその関連諸地域で製作されたいくつかの映画を視聴し、映像を通じた文化の表現とその広がりについて分析していく。だれもが見て楽しむことのできる映画には、実は、社会問題や文化と政治に関係するトピックスがたくさん隠されている。特に、イギリスとその関連諸地域で製作された映画には、「ジェンダー/セクシュアリティ」、「ファッションと音楽」、「階級と教育」、「帝国主義と人種、ナショナリズム」、「食文化とライフスタイル」、などの様々な論点を読み取ることができる。個々のテーマが映像の中でどのように表現され、視聴する私たちにどのような知識や争点を与えてくれるか、という点に着目しながら、具体的に映像を分析・理解していく。

内容

1. イギリス映画の歴史とその特徴
2. 階級と教育 (1)
3. 階級と教育 (2)
4. ファッションと音楽 (1)
5. ファッションと音楽 (2)
6. ジェンダー/セクシュアリティ (1)
7. ジェンダー/セクシュアリティ (2)
8. ジェンダー/セクシュアリティ (3)
9. 食文化とライフスタイル (1)
10. 食文化とライフスタイル (2)
11. 帝国主義と人種、ナショナリズム (1)
12. 帝国主義と人種、ナショナリズム (2)
13. 帝国主義と人種、ナショナリズム (3)
14. 映像文化とイデオロギー
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】配布された文献を読んでくること

【事後学修】視聴した映像と文献をもとにワーキングペーパーを作成すること

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書

板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子 『映画でわかるイギリス文化入門』松柏社

狩野良規 『スクリーンの中に英国が見える』 国書刊行会

吉田徹夫、村里好俊、高瀬文広 『映画で楽しむイギリスの歴史』 金星堂

* 必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	雑誌文化論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターネットなどの電子メディアが勢いを増しつつある今日、紙媒体のメディアである「雑誌」と雑誌が形成する文化は衰退の危機にあるとも言われている。本講義では、衰退しつつある雑誌文化が、現在、電子メディアに対抗(ないしはそれと共存)するためにどのような手法を用いているのか、という視点から、現在までの雑誌文化の歴史とその役割について学習し、グループワークを通じて紙の雑誌と電子媒体による雑誌、それぞれの特徴について検証し、電子媒体による新しい形態の雑誌のあり方も含めた今後の雑誌文化のありかたについて考察していく。実際に、編集や出版に携わっている特別講師を招いて、雑誌文化の現状について具体的に講義をしてもらう予定である。

内容

1. 雑誌とその周辺の文化に関する基礎講座
2. 雑誌文化の歴史 (1) 戦前編
3. 雑誌文化の歴史 (2) 戦後編
4. 雑誌文化の現状 特別講師による講義
5. 雑誌文化の研究 (1) [女性誌編]
6. 雑誌文化の研究 (2) [女性誌編]
7. 雑誌文化の研究 (3) [男性誌編]
8. 雑誌文化の研究 (4) [男性誌編]
9. 雑誌文化の研究 (5) [文化系編]
10. 雑誌文化の研究 (6) [情報誌編]
11. 雑誌文化の研究 (7) [文芸誌編]
12. 雑誌文化の研究 (8) [電子メディア編]
13. 雑誌文化の研究 (9) 比較と検討
14. 今後、雑誌文化はどのように展開していくのか？
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】授業に必要な資料や題材を集めておくこと

【事後学修】授業で配布されたプリントで復習しておくこと

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書

* 必要に応じて、授業内で紹介し、プリントなどを配布します。

科目名	インターネットビジネス		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門科目である。

科目の概要

インターネット上では様々な経済取引が拡大している。そこで、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げる。

学修目標(=到達目標)

インターネットに関わるビジネスモデルを理解する。

内容

1	ガイダンス
2	インターネットの歴史としくみ
3	情報通信産業の規制緩和と競争
4	スマートフォン
5	インターネットと広告
6	SNSと無料通話アプリ
7	検索サイトと広告
8	インターネットと政府
9	ビッグデータとビジネス
10	ポイントサービスとマーケティング
11	インターネットのショッピングサイト
12	仮想通貨
13	インターネットとセキュリティ
14	インターネットと法律
15	まとめ

評価

毎回の課題(30%)と最終レポート(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次週取り上げるテーマのサイト確認。

【事後学修】プリントやサイトで確認。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定なし。

【推薦書】特に指定なし。

【参考図書】授業中に指示する。

科目名	ブランド戦略		
担当教員名	崎山 嗣夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

当該授業は企業が長年に渡り社会で事業を営む上で必須となる「ブランド」の開発・育成について講義を行う。従って、企業活動を理解する上で必要な知識を得るため、「経営学」「マーケティング」「組織論」等の科目を履修することは大切。

科目の概要

企業の維持・成長は多くの顧客からの支持なくして成立しない。従って、顧客から評価される「ブランド」の確立は重要な要件。そのため当該授業では「ブランド」の開発・育成に必要な全ての概念・考え方・手法について説明する。

学修目標 (= 到達目標)

「ブランド戦略」を通して企業活動の多くを理解することで、就職活動時の大きな助けとなる。

企業が市場で展開している様々な商品の意義を知ること、日常の消費生活を豊かに出来る。

ブランド開発時に必要なアイデアが生まれる過程を修得することで、社会を見る目を養うことが出来る。

内容	
1	講義の全体像の説明、及び「ブランド」とは何かについて解説。
2	ブランド開発に必要なマーケティングへの理解 マーケティングの理解
3	ブランド開発に必要なマーケティングへの理解 マーケティングと企業活動
4	ブランド開発に必要な「今、日本で「何が」起きているか」を具体的な事例を上げて解説
5	ブランド開発に必要な「今、日本で「何が」起きているか」を具体的な事例を上げて解説
6	今日の日本における「ブランド」開発・育成の必要性について解説
7	今日の日本における「ブランド」開発・育成の必要性について解説
8	「マーケティング」を活用した「ブランド」開発・育成の全体像について解説
9	「ブランド」を確立させるために必要な要素・要件を様々な視点から解説
10	グローバルで代表的なブランドである「ルイ・ヴィトン」の成功について解説
11	「ブランド」確立に必要な「商品開発」の具体的手法・考え方について解説
12	開発した「ブランド」の育成に関する考え方・手法について様々な角度から解説
13	「商品開発」の際に重要な要件となる「リサーチ」との関係について解説
14	「ブランド」確立に必須な創造的な組織のあり方について解説
15	まとめ

評価

授業への参加30%・数回にレポート20%・筆記試験50%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

毎回の講義終了時に、次回の講義内容を説明し、予習の要点を指示する。

【事後学修】

毎回配布する資料で、講義内容を復習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

「目盛りを変えろ日本が見える」著者：崎山 嗣夫（日本経済新聞社刊）

「企業改革への道－消費者視点からの発想－」著者：崎山 嗣夫（日本経済新聞社刊）

【推薦書】

講義の都度、教室で紹介

【参考図書】

講義の都度、教室で紹介

科目名	広告デザイン		
担当教員名	木村 政司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

企業イメージ、ブランドイメージ、メディア戦略を、益々変容する広告表現とその手法に学ぶことで、これからの人や社会に対してどんな価値を提供でき、影響を与えることができるのかを学ぶ。また、ここでは特にデザインのチカラが発想と思考、ライフコンセプトを他領域の知とセンスよく融合することによって提案できる可能性を掴む。

科目の概要

今までの常識が覆される新しい時代の広告の役割、メディアの種類、コミュニケーションの基本戦略を理解し、広告表現とデザインの具体的な手法を視覚的に体験する。

学修目標 (= 到達目標)

毎回配布される画像資料や解説シートを確認しながら講義を進行し、ノートを取り、リテラシーを深める。出題された課題を次の講義までに仕上げ、学習効果を確認していく。

1. 自らを知るためのデザインを体験する。
2. 広告の基礎と役割を理解する。
3. 表現手法としてのコミュニケーションデザインを理解する。
4. 知的、グッドセンス、お洒落をデザインすることで影響を与える。
5. 自分自身を戦略的にデザインする。

内容

- 01 セルフプレゼンテーション 自分の未来をデザインする
- 02 広告にとってデザインは如何に機能しているのか？ 私の好きな広告デザイン
- 03 日本の広告デザインから学ぶ 広告を分類する
- 04 ヨーロッパの広告デザインから学ぶ 広告表現に基準と常識は存在しない！
- 05 ヨーロッパの広告デザインから学ぶ いい広告、わるい広告、つながる広告
- 06 ヨーロッパの広告デザインから学ぶ デザインの発想とメディアの役割
- 07 アメリカの広告デザインから学ぶ ヒットをつくるためのデザイン戦略
- 08 アメリカの広告デザインから学ぶ 言葉のチカラを掴む
- 09 ブランディング ブランドそのものの広告力から文化を創造する
- 10 テレビCMに見る日本とアメリカの違い スーパーボウルの高視聴率
- 11 日本をデザインする 企画力を鍛える：企画書をプレゼンテーションする
- 12 キャッチコピーとボディ コピー、写真を撮る
- 13 デザインが広告の未来をどう変えるのか？
- 14 クールなジャパンのプレゼンテーション マイ・アドの鑑賞・批評会
- 15 まとめ

評価

各回の課題レポート（50%）広告表現課題提出と質（40%）レポート（10%）により評価し、60点以上を合格とする。また、三分の二以上の出席をすることで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】

出題された課題の調査・資料収集を行ない毎回提出する。

【事後学修】

講評からリメイクまたは新しいアイデアの蓄積を行ない、最終まとめ課題に応用する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

使用しない（配布するプリントのみ使用）

【推薦書】

【参考図書】

科目名	雑誌・ミニコミ編集		
担当教員名	大西 正行、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

文章に見出しや写真を組み合わせることにより一覽性の紙面を作り上げることが「文章力」「編集力」を高める。この相互メリットを生かし、2つの力量とともに、取材力ひいては就職力・就業力に繋がるコミュニケーション能力、洞察力も養う。DTP編集の実際も学ぶ。

内容

タブロイド判4ページを基本ツールとして、埼玉県メディア企業を中心として首都圏の地域メディアの取り組みを取材し、成果物として「十文字メディアニュース夏季号」(仮称)を受講者全員で作りに上げる。執筆取材対象として埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、ジェイコムさいたまなどが考えられる。(履修の人数を制限します)

本学の学生が埼玉はもとより、東京、千葉・神奈川等からも通学していることも併せ、埼玉を軸とし地域メディアにこだわりつつ視野を拡げて取材にあたっている。

学生はメディアの第一線で活躍する人たちと緊張感がみなぎる仕事の現場で、文章力向上と取材先とのコミュニケーションスキルアップという就職就業に大い役立つ「取材・執筆(写真撮影も)」の醍醐味と、皆の英知と現場で得た感性を絞り多くの人に読んでもらえる完成物を作り上げたあとの達成感を味わえるまたとない機会を得ることになる。

もとより、通常授業の座学にとどまらず、キャンパスの外での取材(交通費支給)も一時的に求められ、スケジュールを守って成果物を出す性格の授業であることを認識したうえで受講をしてほしい。

評価

授業の取り組み姿勢という基本を踏まえ、それぞれが発展レベルにふさわしい質の高い成果物を完成させることができたかどうか、成果物により力量のアップを評価する。

授業外学習

【事前予習】インタビュー前の下調べ等を行う。

【事後学修】取材を踏まえたテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書:『新聞用字用語集(記者ハンドブック)』(共同通信社):教室に常備

科目名	DTP基礎		
担当教員名	海保 透		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「メディア」を介し、情報を発信するさまざまな知 (科学) を学ぶメディアコミュニケーション学科の基本的・代表的な視覚言語表現手法の一つである「DTP」の基礎課程。

科目の概要

「DTP」とは、コンピュータをツールとして、意図して伝えたい情報を目的や方針・条件のもとに収集・整理し、文章や写真などの素材を用いて、書物 (冊子類) や新聞などの印刷誌面形態 (メディア) に組み立てる『編集・構成 (デザイン) 作業』である。

学修目標 (= 到達目標)

共通テーマを設定し、実験的演習制作作業を通じて、基礎的な知識と発想表現力の習得、コンピュータソフト (Adobe イラストレータ・フォトショップなど) の基本的操作の把握、更に、実践的応用展開 (マガジンやブックレット制作) に向けてのスキルアップへ繋げる。

内容

第1週 オリエンテーション

具体的な学習内容 / スケジュール / 履修上の注意事項などの提示。

第2週 「DTP」 = 編集構成作業 (レイアウトデザイン) の基本プロセスを解説。

視覚表現の手法。基礎知識・実例作品の紹介・解説。

第3週 ~ 準備演習 = WORK.0

- 1) コンピュータソフト (Adobeイラストレータ・フォトショップなど) の基本的操作
- 2) 誌面を設定する / 文字を組む / 色を付ける
- 3) 画像 (写真・イラストなど) を創る (処理・加工する)

第6週 ~ 基礎演習 = WORK.1 作品制作 (スモールグラフィック)

制作作業 (提供素材 ~ 発想イメージ ~) 経過報告 (素材・サムネール提出) など

第9週 WORK.1 作品提出 / プレゼンテーション発表 / データ保存

第10週 ~ 基礎演習 = WORK.2 作品制作 (リーフレットなど)

制作作業 (発想イメージ ~ 情報・素材収集 ~) データ更新・経過報告・出力見本の提出 / 検討

第14週 ~ WORK.2 作品提出 / プレゼンテーション発表・講評

第15週 ~ 総括

評価

提出された [課題作品] [ミニレポート] また授業内でテスト形式での課題制作など演習作業 = 理解力 / 計画力 / 構成力 / 技術力 / 発表力 / 総合力を評価 80% 、その他、授業に臨む姿勢 = 関心・意欲・提出状況など 20% 総合評価6

0点以上を合格とする。

授業外学習

毎回連続した演習授業形態を執りますので、課題制作においては、翌週へ向けての事後学修・事前準備作業などの宿題ミニレポートを課します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特定したテキストは用いないが、授業内容に応じて、毎回資料プリントを配付。

また私自身の参考作品素材を提示・解説。参考資料・文献など周辺関連情報の提供を心掛ける。

科目名	DTP基礎		
担当教員名	海保 透		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「メディア」を介し、情報を発信するさまざまな知 (科学) を学ぶメディアコミュニケーション学科の基本的・代表的な視覚言語表現手法の一つである「DTP」の基礎課程。

科目の概要

「DTP」とは、コンピュータをツールとして、意図して伝えたい情報を目的や方針・条件のもとに収集・整理し、文章や写真などの素材を用いて、書物 (冊子類) や新聞などの印刷誌面形態 (メディア) に組み立てる『編集・構成 (デザイン) 作業』である。

学修目標 (= 到達目標)

共通テーマを設定し、実験的演習制作作業を通じて、基礎的な知識と発想表現力の習得、コンピュータソフト (Adobe イラストレータ・フォトショップなど) の基本的操作の把握、更に、実践的応用展開 (マガジンやブックレット制作) に向けてのスキルアップへ繋げる。

内容

第1週 オリエンテーション

具体的な学習内容 / スケジュール / 履修上の注意事項などの提示。

第2週 「DTP」 = 編集構成作業 (レイアウトデザイン) の基本プロセスを解説。

視覚表現の手法。基礎知識・実例作品の紹介・解説。

第3週 ~ 準備演習 = WORK.0

- 1) コンピュータソフト (Adobeイラストレータ・フォトショップなど) の基本的操作
- 2) 誌面を設定する / 文字を組む / 色を付ける
- 3) 画像 (写真・イラストなど) を創る (処理・加工する)

第6週 ~ 基礎演習 = WORK.1 作品制作 (スモールグラフィック)

制作作業 (提供素材 ~ 発想イメージ ~) 経過報告 (素材・サムネール提出) など

第9週 WORK.1 作品提出 / プレゼンテーション発表 / データ保存

第10週 ~ 基礎演習 = WORK.2 作品制作 (リーフレットなど)

制作作業 (発想イメージ ~ 情報・素材収集 ~) データ更新・経過報告・出力見本の提出 / 検討

第14週 ~ WORK.2 作品提出 / プレゼンテーション発表・講評

第15週 ~ 総括

評価

提出された [課題作品] [ミニレポート] また授業内でテスト形式での課題制作など演習作業 = 理解力 / 計画力 / 構成力 / 技術力 / 発表力 / 総合力を評価 80% 、その他、授業に臨む姿勢 = 関心・意欲・提出状況など 20% 総合評価6

0点以上を合格とする。

授業外学習

毎回連続した演習授業形態を執りますので、課題制作においては、翌週へ向けての事後学修・事前準備作業などの宿題ミニレポートを課します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特定したテキストは用いないが、授業内容に応じて、毎回資料プリントを配付。

また私自身の参考作品素材を提示・解説。参考資料・文献など周辺関連情報の提供を心掛ける。

科目名	DTP応用		
担当教員名	海保 透		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「メディア」を介し、情報を発信するさまざまな知(科学)を学ぶメディアコミュニケーション学科の基本的・代表的な視覚言語表現手法の一つである「DTP」の応用課程。

科目の概要

「DTP」とは、コンピュータをツールとして、情報を目的や方針・条件のもとに収集・整理し、文章や写真などの素材を用いて、書物(冊子類)や新聞などの印刷形態(メディア)に組み立てる『編集・構成(デザイン)作業』である。原則として、前期の[DTP基礎]履修を前提とする。

学修目標(=到達目標)

基礎演習を踏まえ、社会的で興味深いテーマを発見・討論し、具体的な実習制作作業を通じて、実社会に役立つ横断的な知識・発想表現力を養い、頁レイアウト編集ソフト(Adobeインデザイン)の基本的操作の把握、スキルの習得・向上と、更にさまざまなマルチ・メディアへ対応でき得る応用展開を視座におき、社会性・協調性を持ち、正確で美しく伝えられる、創造的で魅力的な誌面表現を目指す。

内容

第1週 オリエンテーション

具体的な学習内容/スケジュール/履修上の注意事項などの提示。

第2週 「DTP」基礎知識・実例作品の紹介・解説

編集構成作業(エディトリアルデザイン)の基本プロセスを解説。視覚表現の方法論。

第3週~ 準備演習=WORK.0

1)レイアウト誌面の基本設計 マスターページ/フォーマットの作り方

2)文字の組版/色彩の設定/画像の処理・加工

第5週~ 応用演習=WORK.2 作品制作(ブックレット・マガジンなどの協働制作)

共通共有テーマの発見・提案 ~ 検討 ~ 決定 グループワーク

発想イメージ ~ 情報・素材収集 ~ 制作作業/経過報告(素材・サムネール提出)など

第8週~ WORK.2 プレゼンテーション発表 パワーポイントによる中間報告

第9週~ WORK.2 制作作業 続行/データ更新・経過報告 など

第13週~ WORK.2 出力見本の提出/検討

第14週~ WORK.2 作品提出/プレゼンテーション発表 講評

第15週~ 総括

評価

提出された[課題作品][ミニレポート](グループ/個人)および通常の演習作業=理解力/計画力/構成力/技術力/

発表力 / 総合力を評価 80% 、その他、授業に臨む姿勢 = グループワーク協働作業への参加意欲・発言・提出状況など 20% 総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

毎回連続した演習授業形態を執りますので、課題制作においては、グループとして、また個人として、翌週へ向けての事後学修・事前準備作業などの宿題ミニレポートを課します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特定したテキストは用いないが、授業内容に応じて、毎回資料プリントを配付。

また私自身の参考作品素材を提示・解説。参考資料・文献や周辺関連情報の提供を心掛ける。

科目名	Webデザイン基礎		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1年次の基礎的な情報処理演習を受けて、情報発信の手段のひとつとしてWebページによる表現力を身に着ける。

科目の概要

Webページを自分でデザインし、それを実現する能力を養う。HTML言語とスタイルシートを自分で書くことにより、その仕組みを理解する。JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページをめざす。

学修目標(=到達目標)

1. ホームページの仕組みを理解する。
2. HTMLとスタイルシートを使って、Webページのデザインができる。
3. JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページができる

内容

1	HTMLの基本のおさらいと授業の進め方について
2	配色に関する基本的な考え方
3	Webページの配色の実習
4	段落の書き方
5	マージンとパディング
6	図と文章の回り込み
7	ナビゲーションの作成
8	1段組レイアウト
9	2段・3段組レイアウト
10	z-indexを使用した自由なレイアウト
11	表(table)の利用
12	ID・Classを使った統一的なデザイン
13	自由課題作成
14	自由課題作成
15	自由課題の相互評価, 課題に関する振り返りとまとめ

評価

授業への参加度20%、毎回の授業時の提出課題60%、および最終課題への取り組み20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ネットワークフォルダに置かれている解説を読み、難解な部分をチェックしておく

【事後学修】提出課題と学習内容を再度見直し、疑問点を解消しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず，学内ネットワーク上に解説と課題を置く

【推薦書】日本工業規格、JIS X 8341-3

【参考図書】教室で紹介する

科目名	Webデザイン基礎		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1年次の基礎的な情報処理演習を受けて、情報発信の手段のひとつとしてWebページによる表現力を身に着ける。

科目の概要

Webページを自分でデザインし、それを実現する能力を養う。HTML言語とスタイルシートを自分で書くことにより、その仕組みを理解する。JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページをめざす。

学修目標(=到達目標)

1. ホームページの仕組みを理解する。
2. HTMLとスタイルシートを使って、Webページのデザインができる。
3. JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページができる

内容

1	HTMLの基本のおさらいと授業の進め方について
2	配色に関する基本的な考え方
3	Webページの配色の実習
4	段落の書き方
5	マージンとパディング
6	図と文章の回り込み
7	ナビゲーションの作成
8	1段組レイアウト
9	2段・3段組レイアウト
10	z-indexを使用した自由なレイアウト
11	表(table)の利用
12	ID・Classを使った統一的なデザイン
13	自由課題作成
14	自由課題作成
15	自由課題の相互評価, 課題に関する振り返りとまとめ

評価

授業への参加度20%、毎回の授業時の提出課題60%、および最終課題への取り組み20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ネットワークフォルダに置かれている解説を読み、難解な部分をチェックしておく

【事後学修】提出課題と学習内容を再度見直し、疑問点を解消しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず，学内ネットワーク上に解説と課題を置く

【推薦書】日本工業規格、JIS X 8341-3

【参考図書】教室で紹介する

科目名	Webデザイン応用		
担当教員名	安達 一寿、加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータソフトを使用した、創作活動に関心がある学生向けである。

科目の概要

各個人がアプリケーションを操作しながら、Web構築ソフトであるAdobe「Dreamweaver」の操作方法を具体的に学んでいく。

他の演習系授業とも連携しつつ、Webデザインに限らず、各個人の今後の創作活動に有用な基礎を養っていく。

学修目標

- ・Webサイトの基本構造を理解できる。
- ・「Dreamweaver」の基本操作が行える。

内容

1	オリエンテーション
2	Web概論(フロントエンド・バックエンド)
3	Web構築手順(Dreamweaver)の基本について
4	HTMLとCSS基礎
5	HTMLとCSS基礎
6	--課題制作・ワイヤーフレーム制作--
7	HTMLとCSS基礎
8	HTMLとCSS基礎
9	--課題制作・サイトデザイン制作--
10	HTMLとCSS応用
11	HTMLとCSS応用
12	マルチメディア・アプリケーション連携
13	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
14	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
15	まとめ

評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点40%、課題の評価点60%で評価をおこなう。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期・前年度以前に「Webデザイン基礎」「コンピュータグラフィックス」履修済であることが望ましい。

【事後学修】基本、紙の教材は仕様しない。前回までの内容を復習した状態で授業に参加することが望ましい。？

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	映像編集		
担当教員名	北川 仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門選択科目であり、映像を実践的に学ぶことに興味がある学生向けである。

科目の概要

カメラ・映像編集ソフトウェア等の操作方法を学びながら、映像撮影・編集の基礎を学習する。

各個人が企画を考え、撮影機材・PCを操作し、実際に作品を制作していきながら、カメラ・Premiere等の操作方を具体的に学んでいく。

今後の各個人での表現活動に生かせるよう、映像メディアにおける「説話的な表現」の実践・解説を積極的に講義に取り入れていく。

本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

学修目標 (= 到達目標)

- ・カメラ・編集ソフトウェア等の基本操作ができる。
- ・映像特有の表現方法を、具体的に理解できる。
- ・一定の内容を持った映像作品の制作ができる。

内容

1	オリエンテーション
2	班分け・企画立案の基礎
3	撮影実習 カメラ操作
4	撮影実習 フォーカス・照明等
5	撮影実習 録音
6	編集実習 Premiereの基本操作・取り込み・カット編集
7	編集実習 テロップ・エフェクト・カラコレ
8	編集実習 書き出し
9	企画立案・進捗報告
10	課題制作 撮影・編集
11	課題制作 撮影・編集
12	課題制作 撮影・編集
13	仕上げ 整音
14	仕上げ カラコレ・書き出し
15	上映・総評

評価

課題制作60%、授業への参加・課題の取り組み状況等の平常点40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

授業時間外も積極的にチームごとで企画立案・課題制作を行えると望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は都度、プリント等を配布する。

科目名	映像編集		
担当教員名	北川 仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門選択科目であり、映像を実践的に学ぶことに興味がある学生向けである。

科目の概要

カメラ・映像編集ソフトウェア等の操作方法を学びながら、映像撮影・編集の基礎を学習する。

各個人が企画を考え、撮影機材・PCを操作し、実際に作品を制作していきながら、カメラ・Premiere等の操作方を具体的に学んでいく。

今後の各個人での表現活動に生かせるよう、映像メディアにおける「説話的な表現」の実践・解説を積極的に講義に取り入れていく。

本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

学修目標 (= 到達目標)

- ・カメラ・編集ソフトウェア等の基本操作ができる。
- ・映像特有の表現方法を、具体的に理解できる。
- ・一定の内容を持った映像作品の制作ができる。

内容

1	オリエンテーション
2	班分け・企画立案の基礎
3	撮影実習 カメラ操作
4	撮影実習 フォーカス・照明等
5	撮影実習 録音
6	編集実習 Premiereの基本操作・取り込み・カット編集
7	編集実習 テロップ・エフェクト・カラコレ
8	編集実習 書き出し
9	企画立案・進捗報告
10	課題制作 撮影・編集
11	課題制作 撮影・編集
12	課題制作 撮影・編集
13	仕上げ 整音
14	仕上げ カラコレ・書き出し
15	上映・総評

評価

課題制作60%、授業への参加・課題の取り組み状況等の平常点40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

授業時間外も積極的にチームごとで企画立案・課題制作を行えると望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は都度、プリント等を配布する。

科目名	ラジオ番組制作		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

音声のみによるメディアであるラジオ。テレビの全盛期には長期的な凋落傾向にあったが先の震災をきっかけに再評価され、いままた注目されている。ネットラジオの普及により、スマートフォンやPCで無数のチャンネルにアクセスできるようになったことも大きい。この授業ではワークショップ形式でラジオ番組制作を体験することによって、あらためてラジオというメディアの特性や可能性を探っていく。

科目の概要

- . 報道番組、紹介番組、解説番組、キャンペーン番組のなかからひとつを選び、番組を制作する。
- . 音楽番組を制作する。

制作した番組は試聴会を行い、相互に評価をする。

学修目標 (= 到達目標)

ラジオ番組の特性を理解し、目的に沿った番組作りを考えて的確にメッセージを発信できるようになる。
また、録音や編集を通じて音声制作ツールのスキルを高める。

内容

- 第1回 オリエンテーション ラジオの特性と可能性
- 第2回 番組制作 番組企画書
- 第3回 取材 録音
- 第4回 企画構成カード、放送原稿の作成
- 第5回 制作実習(1) 構成 音声編集
- 第6回 制作実習(2) BGM、SE (効果音) 作成
- 第7回 制作実習(3) BGM、SE (効果音) 作成
- 第8回 ミックスダウン エンコード 試聴会
- 第9回 番組制作 番組企画書
- 第10回 選曲 取り込み
- 第11回 企画構成カード、放送原稿の作成
- 第12回 制作実習(1) 録音
- 第13回 制作実習(2) 構成 音声編集
- 第14回 制作実習(3) BGM、SE (効果音) 作成
- 第15回 まとめ ミックスダウン エンコード 試聴会

授業の進度は作業の進捗状況などから判断して調整することがあります。

評価

平常点、授業参加態度など40%、提出物の評価60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

なお、規定の提出物が出ていない場合は評価できません。

授業外学習

【事前予習】日常的にラジオ番組をよく聴きこんでおくこと。もしラジオを持っていなくても手持ちのスマートフォンアプリやパソコンなどで簡単に聴取できます。

【事後学修】取材や編集など、授業のペースに合わせて適宜行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、推薦書については随時紹介する。

科目名	ことばのしくみ		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「英語学」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学」「ナレーションB(英語)」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべてを履修すること。

科目の概要

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得 (英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得 (英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得 (形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

評価

期末試験70%、小テスト (毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います) 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。また、深く学びたいと思った点については推薦書・参考文献を読むこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばと文化		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

科目の概要

母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に

言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考える。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

学修目標 (= 到達目標)

単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 言語とは何？
- 第3回 日本語っていつからはじまったの？
- 第4回 言語とコミュニケーション
- 第5回 音声言語としての日本語（音声記号を書けるようにしよう！）
- 第6回 日本語音声の特徴
- 第7回 日本語方言の音声
- 第8回 音響分析と日本語
- 第9回 アクセントとイントネーション
- 第10回 方言とアクセント
- 第11回 文字の歴史
- 第12回 変体仮名を読む（古今集の恋の歌を読む）
- 第13回 表記のゆれと変化
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより評価します。日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント
（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D
<60 C <70 B <80 A <90 S（4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします）

授業外学習

【事前予習】1週間の日本語やコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。
【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」を提出。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	異文化理解		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は諸外国 (アメリカ、カナダ、イギリス等) の歴史、言語、文化の研究を通して異文化に触れ、より深く理解し、留学や研修で必要かつ十分な理解を得ようとするものです。

科目の概要

特に歴史と文化はそれぞれの国に特有の傾向と相互影響がみられるので、相違点と類似点を考察することが特に大切です。

学修目標 (= 到達目標)

多言語であるカナダと英語圏であるアメリカ、イギリスの傾向を知ることは歴史や文化、国民意識を知る上で重要です。

内容	
1	導入：異文化理解とは
2	イギリスの歴史 (1) 産業革命まで
3	イギリスの歴史 (2) 産業革命、アメリカへの移民
4	アメリカの歴史
5	カナダの歴史
6	イギリス文化
7	アメリカ、カナダ文化
8	イギリス、アメリカ、カナダの言語
9	イギリス、アメリカ、カナダの風習
10	イギリス、アメリカ、カナダの習慣
11	イギリス、アメリカ、カナダ憲法
12	イギリス、アメリカ、カナダ社会制度と価値観
13	イギリス、アメリカ、カナダにおける人種
14	イギリス、アメリカ、カナダ宗教、グローバル化
15	まとめ

評価

平常点 (30%) リアクションペーパー (20%)、レポート (50%) によし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に資料を調べるために30分は欲しい。

【事後学修】英語素材の場合が多いので、授業当日に20分は復習。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント配布

【推薦書】留学を考えている学生は『英語脳強化メソッド 速聴×速読』（DHC）

【参考図書】

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学科選択必修科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段 (言語、非言語) が充分でないからなのか、それとも、考え方 (文化) が違うからなのだろうか。授業では、コミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容	
1	異文化コミュニケーション研究の歴史 (1) : 外なる異文化
2	異文化コミュニケーション研究の歴史 (2) : 内なる異文化
3	コミュニケーション : 何を伝えるか
4	コミュニケーション : どうやって伝えるか
5	異文化 : 文化とは何か
6	非言語コミュニケーション (1) ; 動作
7	非言語コミュニケーション (2) : 外見
8	言語によるコミュニケーション (1) : 言語
9	言語によるコミュニケーション (2) : 思考
10	コミュニケーション・スタイル
11	異文化理解
12	メディアと異文化
13	国際社会における異文化コミュニケーション
14	多文化世界 : 異文化の融合と共生
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) で総合評価。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】身の回りで異文化と感ずたことを記録しておく

【事後学修】授業での説明を参考に、それが異文化と感ずた理由を確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鍋倉健悦 編著 『異文化間コミュニケーションへの招待』北樹出版、1998年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/I

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年

科目名	サブカルチャー論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、既存の社会学や政治学や文化論を批判することによって一九七〇年代以降イギリスで発展してきた「カルチュラル・スタディーズ」の理論と分析の基礎を学びながら、現代文化としてのサブカルチャーについて検討していく。対象とするのは、ヒップホップやR & Bなど (音楽)、ファッション、ライトノベルやウェブ小説など (文学)、お笑いや韓流ドラマなど (テレビ番組)、W杯やオリンピックなど (スポーツ)、携帯電話やSNSなど (インターネット) といったさまざまなサブカルチャー領域であり、これらの具体的な現象を丹念に調査・観察することを通じて、現代社会における文化の機能と役割、私たちの生活において文化が持っている意義などを探っていく。前半は理論について講義と文献輪読をし、後半は、グループに分かれてフィールドワークを行います。

内容

1. サブカルチャー論とはなにか?
2. サブカルチャーを分析するための理論 (1) 世界のサブカルチャー
3. サブカルチャーを分析するための理論 (2) 日本のサブカルチャー
4. サブカルチャーを分析するための理論 (3) スタイルと実践
5. サブカルチャーを分析するための理論 (4) プリコラージュとDIY精神
6. サブカルチャーを分析するための理論 (5) 人種とジェンダー
7. サブカルチャー調査のための計画を立てる (1)
8. サブカルチャー調査のための計画を立てる (2)
9. サブカルチャーの調査と観察 (1)
10. サブカルチャーの調査と観察 (2)
11. サブカルチャーの調査と観察 (3)
12. サブカルチャーの調査と観察 (4)
13. サブカルチャーの調査と観察 (5)
14. 合同研究発表会
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

授業外学習

- 【事前予習】調査のプラント準備
- 【事後学修】集めてきた資料やインタビューの整理

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書

佐藤郁哉・フィールドワーク〔増補版〕・新曜社

その他、必要な文献については授業内で適宜、説明する予定です。

科目名	音声表現論		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格・・・話しことばによるコミュニケーションの基本と応用を、理論の学習と実技の演習を通して学び、理解力と表現力、構成力の向上を図る。

科目の概要・・・現代は、どの社会にあっても高いコミュニケーション能力が求められる。日本語を「話す」「聞く」ことの基礎、待遇表現としての敬語の基本も学ぶ。演習形式で授業をおこなうため、受講制限がなされる場合もある。特に積極的な学生の参加を希望する。

学修目標・・・パブリックスピーキングの修得。自分のことばで自分の考えをまとめ、相手の心に届けられる話し手になるのが目標である。

内容

1	発音発声の基礎
2	聞き手の心をつかむ分かりやすい話し方
3	報告・レポート・プレゼンテーション
4	タイトルをつけてスピーチをする
5	スピーチ原稿を書き、構成力や文章力を磨く
6	「敬語の指針」を中心に敬語の基礎を学ぶ
7	待遇表現としての敬語についての考察
8	インタビューと取材
9	良い「聞き手」とは
10	子どものことばの発達
11	親子のコミュニケーションについて
12	介護・医療の現場でのコミュニケーション
13	教育現場でのコミュニケーション
14	地域・社会でのコミュニケーション
15	まとめ

評価

授業への参加意欲 (30%)、口頭発表 (30%)、レポート (30%)、授業への貢献度 (10%) により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回ミニレポートや課題が出るのでその準備をする。

【事後学修】自分の音声表現を再検討する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【推薦書】「新版NHKアナウンスセミナー」（NHK出版）

【参考図書】「話しことばの花束」（好本恵・リヨン社）など

科目名	ことばと社会		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に、言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。

みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけ作りを目指します。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 流行語・ことばの変化
- 第3回 正しいことば・間違ったことば
- 第4回 語彙1
- 第5回 語彙2
- 第6回 敬語・待遇表現
- 第7回 ことばのスタイル
- 第8回 ことばを調べる1
- 第9回 ことばを調べる2
- 第10回 ことばを調べる3
- 第11回 ワークセッション1
- 第12回 ワークセッション2
- 第13回 外国語と日本語
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより評価します。日常出席まとめ感想メール・・・1～7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation1～3ポイント） レポート・課題・・・3～8ポイント

（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5～10ポイント 合計ポイントと評価・・・D

<60 C <70 B <80 A <90 S (4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】1週間の日本語やコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	情報とデザイン		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルを発展させ、表現について考察することを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習の単位を修得していることが必要である。

科目の概要 具体的には、絵、写真、動画、サウンド、あらゆるものを含み、インタラクティブ性も持つWebページを作成する過程で、スキル等を発展してもらう。その瞬間に、まさに旬なものまたは小中高の教材を題材にして、Webページを作成する。旬なものは題材として幅が広く興味を持ちやすく時間軸を意識せざるを得ない。小中高の教材は幅が広く身近であり系統だっている。どちらも、内容によって表現のしやすさに違いが生じることが理解しやすい。表現について改めて考えるきっかけとしやすい。

学修目標 わかりやすく表現する方法としてのWebページの特性を理解する。表現しやすい題材と表現しにくい題材が存在すること、その特徴について理解する。コンピュータのスキルを発展させる。表現への興味、関心を高める。

内容

1	オリエンテーション
2	Webページの比較 多様な機関のWebページを考察し、ページの条件について考察する。
3	既存メディアとの比較 新聞、ラジオ、テレビ等の既存メディアとWebページの比較を行う。
4	サウンドの位置づけ Webページにおけるサウンドの分類、特徴等、位置付けを行う。
5	インタラクティブ性 Webページの特徴であるインタラクティブ性の考察を行う。
6	テーマの決定 (1) 各自が表現したい、過去に遡れるような時間を意識したテーマを決定する。
7	テーマの決定 (2) 各自が表現したい、その瞬間にまさに旬なテーマを決定する
8	テーマの決定 (3) 各自が表現したい、幅広く展開できるテーマを決定する。
9	素材の作成 (1) デジタルカメラやスキャナなどを用いて、必要な静止画像を作成する。
10	素材の作成 (2) デジタルビデオカメラなどを用いて、必要な動画像を作成する
11	素材の作成 (3) ICレコーダなどを用いて、必要なサウンドを作成する。
12	作成 各素材を合成して、Webページを作成する。
13	閲覧 受講生相互に作成したWebページを閲覧してもらい、評価してもらう。
14	修正 評価に基づき、Webページを修正する
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品 (15点) を、150点満点 (15X10点満点) で計算し、90点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 プリントを配布する

推薦書かつ参考図書 CGWORLD スマートイメージ（編）CG 映像しくみ事典 ワークスコーポレーション

科目名	情報とデザイン		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルを発展させ、表現について考察することを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習の単位を修得していることが必要である。

科目の概要 具体的には、絵、写真、動画、サウンド、あらゆるものを含み、インタラクティブ性も持つWebページを作成する過程で、スキル等を発展してもらう。その瞬間に、まさに旬なものまたは小中高の教材を題材にして、Webページを作成する。旬なものは題材として幅が広く興味を持ちやすく時間軸を意識せざるを得ない。小中高の教材は幅が広く身近であり系統だっている。どちらも、内容によって表現のしやすさに違いが生じることが理解しやすい。表現について改めて考えるきっかけとしやすい。

学修目標 わかりやすく表現する方法としてのWebページの特性を理解する。表現しやすい題材と表現しにくい題材が存在すること、その特徴について理解する。コンピュータのスキルを発展させる。表現への興味、関心を高める。

内容

1	オリエンテーション
2	Webページの比較 多様な機関のWebページを考察し、ページの条件について考察する。
3	既存メディアとの比較 新聞、ラジオ、テレビ等の既存メディアとWebページの比較を行う。
4	サウンドの位置づけ Webページにおけるサウンドの分類、特徴等、位置付けを行う。
5	インタラクティブ性 Webページの特徴であるインタラクティブ性の考察を行う。
6	テーマの決定 (1) 各自が表現したい、過去に遡れるような時間を意識したテーマを決定する。
7	テーマの決定 (2) 各自が表現したい、その瞬間にまさに旬なテーマを決定する
8	テーマの決定 (3) 各自が表現したい、幅広く展開できるテーマを決定する。
9	素材の作成 (1) デジタルカメラやスキャナなどを用いて、必要な静止画像を作成する。
10	素材の作成 (2) デジタルビデオカメラなどを用いて、必要な動画像を作成する
11	素材の作成 (3) ICレコーダなどを用いて、必要なサウンドを作成する。
12	作成 各素材を合成して、Webページを作成する。
13	閲覧 受講生相互に作成したWebページを閲覧してもらい、評価してもらう。
14	修正 評価に基づき、Webページを修正する
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品 (15点) を、150点満点 (15x10点満点) で計算し、90点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 プリントを配布する

推薦書かつ参考図書 CGWORLD スマートイメージ（編）CG 映像しくみ事典 ワークスコーポレーション

科目名	舞台表現A（日本）		
担当教員名	藤澤 茜		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、私たちのルーツを探ることにもなります。この授業では、能や狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃などの伝統芸能を取り上げ、現代の演劇にどう継承されているかを明らかにし、外国の演劇との比較により日本の演劇の独自性についても検証します。

特に注目するのは歌舞伎です。現代のメディアと同様に社会現象を敏感に反映し、小説や浮世絵、落語等に影響を与えた歌舞伎の検証は、大衆演劇の意義や鑑賞者が演劇に求めた要素の解明の手がかりになります。また神の祭りを起源とするため、信仰と演劇という不可分の問題も検討できると考えます。

科目の概要

能や人形浄瑠璃、海外の演劇との比較を交え歌舞伎の本質を明らかにします。宝塚、ミュージカル、現代の舞台芸術、アニメーションも取り上げエンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

学修目標（＝到達目標）

- (1)日本の伝統芸能や演劇、世界の演劇についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2)絵画資料を通じて歌舞伎の本質を探ります。浮世絵を持参する機会を設け絵画の造詣も深めます。
- (3)ビデオ観賞を通じて役者の演技、演出、舞台装置等の細かな部分に関しても理解を深めます。

内容	
1	ガイダンス・日本の伝統芸能の流れ
2	能・狂言の歴史と魅力
3	能から歌舞伎へ 「石橋」と「連獅子」
4	歌舞伎の舞台構造を知る～絵画資料による検証・現代のコクーン歌舞伎まで～
5	市川團十郎と江戸の信仰
6	歌舞伎と人形浄瑠璃 「義経千本桜」の狐忠信
7	歌舞伎と話芸 「仮名手本忠臣蔵」と落語
8	歌舞伎と広告 「外郎売」など
9	歌舞伎の海外公演 パリオペラ座公演・平成中村座ニューヨーク公演
10	歌舞伎と海外の演劇（1）京劇（中国）・パンソリ（韓国）等アジアの芸能
11	歌舞伎と海外の演劇（2）シェイクスピアと蜷川幸雄
12	海外の演劇 「ロミオとジュリエット」・ミュージカル「ウエストサイド物語」
13	現代の演劇 宝塚「ベルサイユのばら」に見る華麗な舞台
14	現代のアニメーション 「千と千尋の神隠し」と日本文化
15	まとめ 伝統芸能の舞台と現代舞台芸術の比較

評価

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】次の授業で取り上げる演劇や具体的な演目について、辞書等で各自調べておくこと。特に歌舞伎の演目については、授業内で詳細にあらすじを述べる時間がとれないこともあるので、必ず事前に予習しておくこと。予習の際に有用な文献については、授業中に指示します。

【事後学修】授業内容の不明な点は、次回の授業で質問するかコメント用紙に質問を記載して下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】開講後に指示。授業時には毎回プリントを配布します。

【参考図書】渡辺保著『江戸演劇史（上下）』講談社、2009年

科目名	舞台表現 B (欧米)		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、メディアコミュニケーション学科の選択必修科目である。本科目では、英語圏を中心とした演劇および舞台芸術について、歴史的背景や社会的文脈に位置付けつつ概観する。

ジャンル、規模において多様にひろがる舞台芸術の中から、現代社会の諸問題を読み解く視点を与えてくれる作家、作品を取り上げる。

学修目標は以下の3点とする。

1. 舞台芸術という媒体の特徴を理解する。
2. 授業で取り上げた演劇 (舞台芸術) の概要を、歴史的・文化的諸条件の中で理解する。
3. 様々な資料から、現代社会の中での芸術のあり方を多角的に考察する。

内容

1	Introduction
2	戯曲 (William Shakespeare 1)
3	戯曲 (William Shakespeare 2)
4	戯曲 (William Shakespeare 3)
5	戯曲 (アメリカ演劇 1)
6	戯曲 (アメリカ演劇 2)
7	ミュージカル 1
8	ミュージカル 2
9	オペラ 1
10	オペラ 2
11	サーカス 1
12	サーカス 2
13	バレエとモダンダンス 1
14	バレエとモダンダンス 2
15	まとめ

評価

期末テスト (60%)、授業態度 (10%)、提出物 (30%) で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】 指定された作品・作家について調べる

【事後学修】授業の考察をまとめておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	文化と文学A（日本文学）		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、人間生活学部メディアコミュニケーション学科の専門科目で、「文化と文学」という科目の一つです。日本文学を対象に、一般教養として文学を学びます。

科目の概要

日本文学の中で最も国際的にその価値が認められている「源氏物語」を取り上げます。物語の流れに沿って、全54帖の中から重要な場面をピックアップして学んでいきます。映画、漫画、アニメ、演劇など様々なメディアに翻訳されているものを副次的な資料として紹介しますが、学習の基本は紫式部が書いた原文です。

学修目標

1000年前に一人の日本女性によって書かれた文学作品が、現在も様々なメディアによって多くの人々に受け入れられているのはなぜでしょう。原作の世界に即して最後まで物語をたどり、全体の粗筋や構成、表現の特徴等を学びます。そして、作者が最も描きたかったことは何か、各自が学んだ源氏物語の知識を基にその答えを導き出しましょう。

内容	
1	ガイダンス 源氏物語はどんな作品か
2	物語の始まり 光源氏誕生
3	雨夜の品定め
4	中流女性との恋
5	怨霊事件の発端
6	怨霊事件の結末
7	紫の君の発見
8	須磨流離
9	六条院の栄華
10	玉鬘物語
11	女三宮降嫁
12	柏木の悲恋
13	紫の上の死
14	宇治の姉妹
15	物語の結末

評価

平常の受講態度および出席状況（10点）、初回から14回目までの授業で提出するリアクションペーパー（70点）、最終授業で提出するリアクションペーパー（20点）で、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】参考文献で物語の粗筋を把握しておく。

【事後学修】授業配布資料や参考文献で授業で進んだところまでの内容を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】テキストはありません。各授業時間ごとに適宜プリントを用意します。

【参考文献】『源氏物語』の参考文献は多数ありますので、ガイダンスで紹介します。

科目名	文化と文学B（英米文学の流れ）		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

英米の歴史を背景に両国の文学の流れを概観し、それぞれの時代の特徴と文学の関わりを、小説を中心にしながらいくつかの項目に絞って概説します。そして文学作品を単なる知識として歴史の中に位置付けるのではなく、各時代の潮流の中で作品が人間の生の営みをどのような形で反映し、また新しい時代をどのように切り拓いていったのかを探ってみます。とくに小説は結果が重要なのではなく、結末に至るまでの過程を味読しながら思索すべきものです。その意味からもこの講義が聞きっぱなしに終わらないで、実際に作品に当たってその面白さを直に味わいながら、さまざまな人間像についての理解を深める契機になることを望みます。そのために原則として邦訳のある作品で話を進め、また名場面をビデオで鑑賞したりして、作品を身近なものにします。

内容

《英文学》

- (1) 英米の歴史の流れおよび英語の特徴
- (2) 欽定英訳聖書と英文学
- (3) エリザベス朝演劇とシェイクスピア（人間の発見）
- (4) 18世紀・・・小説の始まり（写実と諷刺の精神）
- (5) ゴシックロマンスとジェーン・オースティン（非日常と日常）
- (6) ローマン派詩人（感情の解放）
- (7) ヴィクトリア朝の小説（ディケンズとブロンテ姉妹）
- (8) イギリス児童文学（ルイス・キャロルとベアトリックス・ポター）
- (9) 世紀末文学（審美主義）
- (10) 20世紀「意識の流れ」の小説（ジョイスとウルフ）
- (11) 生命の哲学（ロレンスとフォスター）

《米文学》

- (12) 19世紀のピューリタニズムと小説（ホーソンとメルヴィル）
- (13) 20世紀初頭の自然主義文学（アメリカの悲劇）
- (14) 20年代の「失われた世代」（虚無と退廃の戦後文学）
- (15) 30年代の社会主義文学とその後（現代文明批判）

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらいます。

【事後学修】授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来るようにします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回、プリントを配布します。

参考書については授業時に適宜紹介します。

科目名	文化と文学C（英米小説と女性）		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

近代英米小説に見る女性像の変遷についての理解を深め、それぞれの時代に新しいタイプの人間像が誕生する経緯を捉えながら、その今日的な意味を検討する。

19、20世紀の英米小説に登場するヒロインだけでなく重要な役割を演ずる脇役の女性も取りあげて、女性としてのさまざまな生き様、有りようを、時代背景と照らし合わせながら、時代を牽引する新しい生き方のできる女性、逆に旧弊に囚われた遅れた生き方しかできない女性に焦点をしばって、具体的な場面設定の中で捉える。 その結果として人間の多様な生き様を実感しながら、今日に生きる英知をさぐる。

内容

毎週、19,20世紀の英米小説を一作ずつ取り上げ、ストーリーの流れの中で女性の生き方を検討する。象徴的ないしは劇的な場面を映像で印象付けるようにする。

授業計画

- 第1回： ガイダンス
- 第2回： ジェーン・オースティン『高慢と偏見』
- 第3回： シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』
- 第4回： ウィリアム・メイクピース・サッカレー『虚栄の市』
- 第5回： チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』
- 第6回： ナサニエル・ホーソーン『緋文字』
- 第7回： ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』
- 第8回： ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』
- 第9回： トマス・ハーディ『テス』
- 第10回： E・M・フォースター『ハワーズ・エンド』
- 第11回： D・H・ロレンス『息子と恋人』
- 第12回： D・H・ロレンス『チャタレー夫人の恋人』
- 第13回： ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 第14回： マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』
- 第15回： マーガレット・ドラブル『礪白』

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらう。

【事後学修】 授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

毎回、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

科目名	文化と文学D（児童文学）		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、人間生活学部メディアコミュニケーション学科の選択科目であり、現代の英語圏児童文学を、歴史的、社会的背景と関連付けつつ概観する。

授業では、イギリス・アメリカを中心とした児童文学を、年代順に扱う。主要な作家・作品の紹介だけでなく、歴史的、社会的な位置付け、及び現代社会における受容のあり方にいたるまで、多角的に考察する。

学修目標は以下の3点である。

1. 英語圏の児童文学史の概要（作家・作品）を理解する。
2. 歴史的・社会的諸条件における児童文学の位置付けを理解する。
3. さまざまな資料から、児童文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容	
1	イントロダクション
2	児童文学とファンタジー（概論）
3	ルイス・キャロル 『不思議の国のアリス』
4	イーディス・ネズビット 『砂の妖精』
5	ベアトリクス・ポター 『ピーター・ラビットのおはなし』
6	パメラ・トラヴァース 『風にのってきたメリー・ポピンズ』
7	J.R.R.トールキン 『ホビットの冒険』
8	J.R.R.トールキン 『指輪物語』(1)
9	J.R.R.トールキン 『指輪物語』(2)
10	C.S.ルイス 『ナルニア国物語』
11	ライマン・フランク・ボーム 『オズの魔法使い』
12	ルース・スタイルス・ガネット 『エルマーの冒険』
13	モーリス・センダック 『かいじゅうたちのいるところ』
14	アーシュラ・K・ル＝グウィン 『影との戦い』（ゲド戦記）
15	まとめ

評価

期末テスト（60%）、授業態度（10%）、提出物（30%）で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】指定された作品・作家について調べる

【事後学修】授業の考察をまとめておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】桂宥子・牟田おりえ 『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房、2004年

猪熊葉子・神宮輝夫 『イギリス児童文学の作家たち：ファンタジーとリアリズム』研究社、1999年

科目名	身体・スポーツと文化		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい

科目の性格と概要：「身体」「スポーツ」「文化」をキーワードとして、毎回提示されるそれぞれの事象毎に、現状はもちろん、これまでの歴史や背景について学ぶとともに、これからの地域、日本、世界における様々な「身体・スポーツと文化」についての予測もまじえながら、私たちを取り巻く身近な「文化」について考えていく。

学修目標：科目領域の中で、問題意識を持ち、自ら考えながら理解していくことをねらいとする。

内容

取り上げる内容としては、「健康」「ダンス」「ラジオ体操」「高校野球」「オリンピック」「ワールドカップ」「駅伝とマラソン」...など、様々なトピックを取り上げ、「女性」との関係、「メディア」との関係なども交えながら、広い視野を獲得していく。知識を得るとともに、傾聴力、発信力なども自然に身に付くよう、前向きな取り組み方を期待する。

1	オリエンテーション
2	「体育」と「スポーツ」の違い (身体+スポーツ)
3	「養生」から「健康」へ (身体+文化) 1
4	「養生」から「健康」へ (身体+文化) 2
5	「身体」と「文化」 (身体+文化)
6	「ダンス」と「身体文化」 (身体+文化)
7	「体操」と「身体文化」 (身体+文化)
8	「身体」と「メディア」の関係 (身体+文化)
9	「女性」と「スポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 1
10	「女性」と「スポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 2
11	「イベントスポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 1
12	「イベントスポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 2
13	「スポーツ」と「メディア」の関係 (スポーツ+文化)
14	「身体」「スポーツ」「文化」のつながり
15	まとめ

評価

1対多の講義形式だけでなく、数回のグルーピングを通じて、問題を発見し、明確に提示しながら、理解していく形式をとるため、特に遅刻や欠席については、明確に対応する。従って、平常点および授業参加の姿勢 (60%)、毎回のアクションペーパー (25%) や提出物状況 (15%) 等を総合的に判断する。

授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	大西 正行、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

文章に見出しや写真を組み合わせることにより一覽性の紙面を作り上げることが「文章力」「編集力」を高める。この相互メリットを生かし、2つの力量とともに、取材力ひいては就職力・就業力に繋がるコミュニケーション能力、洞察力も養う。DTP編集の実際も学ぶ。

内容

タブロイド判4ページを基本ツールとして、埼玉県メディア企業を中心として首都圏の地域メディアの取り組みを取材し、成果物として「十文字メディアニュース冬季号」（仮称）を受講者全員で作りに上げる。執筆取材対象として埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、ジェイコムさいたまなどが考えられる。（履修の人数を制限します）

本学の学生が埼玉はもとより、東京、千葉・神奈川等からも通学していることも併せ、埼玉を軸とし地域メディアにこだわりつつ視野を拡げて取材にあたっている。

学生はメディアの第一線で活躍する人たちと緊張感がみなぎる仕事の現場で、文章力向上と取材先とのコミュニケーションスキルアップという就職就業に大い役立つ「取材・執筆（写真撮影も）」の醍醐味と、皆の英知と現場で得た感性を絞り多くの人に読んでもらえる完成物を作り上げたあとの達成感を味わえるまたとない機会を得ることになる。

もとより、通常授業の座学にとどまらず、キャンパスの外での取材（交通費支給）も一時的に求められ、スケジュールを守って成果物を出す性格の授業であることを認識したうえで受講をしてほしい。

評価

授業の取り組み姿勢という基本を踏まえ、それぞれが発展レベルにふさわしい質の高い成果物を完成させることができたかどうか、成果物により力量のアップを評価する。

授業外学習

【事前予習】インタビューの下調べなどを行う。

【事後学修】取材を踏まえたテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

新聞用字用語集（記者ハンドブック）』（共同通信社）：教室に常備

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：この科目ではエッセイや詩、小説など多様な文章形態の基礎を学び、文章表現に必要な知識と技術を養うことを目的とします。さらに国内外の文芸作品の読解を通じて、様々な価値観と世界観を理解し、視野と思考を広げることを目的とします。創作を構造的に理解する一環として、物語論について学びます。物語の成立に必要な要素を知ること、小説読解への思考を深めることを目指します。これらを踏まえて、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。さらに自分の選んだ文章形態で創作し、冊子としてまとめることを発展的目標とします。

科目の概要：この科目ではエッセイや詩、小説など多様な文章形態の基礎を学び、文章表現に必要な知識と技術を養うことを目的とします。さらに国内外の文芸作品の読解を通じて、様々な価値観と世界観を理解し、視野と思考を広げることを目的とします。創作を構造的に理解する一環として、物語論について学びます。物語の成立に必要な要素を知ること、小説読解への思考を深めることを目指します。これらを踏まえて、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。さらに自分の選んだ文章形態で創作し、冊子としてまとめることを発展的目標とします。

学修目標（＝到達目標）：多様な文章形態の構造を理解し、言葉による表現の特性を学びます。物語の文法を理解し、創作に必要な構造的な理解を深めます。講義のアウトプットとして、創作作品を冊子にすることを目指します。

内容

- 1 ガイダンス 言葉による表現について
- 2 観察と写生 文章を書く
- 3 エッセイ 表記の基礎
- 4 エッセイ テーマと構成
- 5 エッセイ 文体とエピソード
- 6 詩 イメージを言葉にする
- 7 小説 創作について
- 8 小説 構造を理解する
- 9 小説 テーマと材料

評価

各回の授業取り組みと課題提出などで60点、演習で40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で取り上げる作品または関連する事項（作家や同じ文章形態の作品など）に当たってください。

【事後学修】授業内で配布された資料を基に、興味関心を持った点（作品や作家、同時代の事象など）について自分なりに

アプローチをしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定せず、授業内でレジユメ及び資料を配布します。

【推薦書】授業内で適宜紹介していきます。

【参考図書】授業内で適宜紹介していきます。

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

松永のこのクラスは

自分のメディア力を高める！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

科目の概要

考える道具としての文章表現、説得するための文章表現、楽しむための文章表現、それぞれの能力を演習を通して向上させることを目的とします。Webやブログ、雑誌の中の効果的な表現を分析的に見ていきます。また、ここから学んだTipsを用い実践的な演習を積み、表現能力の向上を目指します。授業はグループワークセッションを基本に進めます。ワークの中ではMind-mapを用いたOut putの訓練も併せておこないます。

講義の性質上、授業内の演習だけでなく、たくさんの課題を課すこととなりますが、学生諸君の積極的な参加を希望します。

学修目標（＝到達目標）

自分のメディア力を高める！表現能力の向上を目指します。

内容

- 第1回 何のための文章表現？
- 第2回 Mind-mapと文章作成
- 第3回 表現とフィードバック
- 第4回 身近なメディアを使った文章表現
- 第5回 ゲスト
- 第6回 分かりやすさ分かりにくさの分析
- 第7回 Web・ブログでの文章表現分析
- 第8回 課題プレゼン1
- 第9回 コンテンツを探す
- 第10回 情報の編集とOut put
- 第11回 グループセッション1
- 第12回 グループセッション2
- 第13回～第15回 まとめOut put 1～3

評価

日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします）

授業外学習

【事前予習】1週間の中での体験経験を言語化、その中からPDCAサイクルを導き出す。

【事後学修】毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	人間関係の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間関係に焦点をあてた心理学領域の科目である。社会心理学の主要な研究トピックである対人魅力領域の話を発展させ、その観点から人間関係について考える。よって社会心理学概論の知識が基礎となり、またコミュニケーションの心理学、対人社会心理学とも密接な関連を持つ。

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。この対人魅力は対人関係進展のために欠かせない要素である。本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的な実証研究について、その方法、実験結果などを詳しく解説し、その知見に基づき人間関係の形成、進展について解説をする。

対人関係領域の知識を身につけると共に、多彩な研究例から研究の考え方ややり方などの方法論についても理解を深め、受講生自身の問題意識の明確化に活かして欲しい。また受講を通して、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけにもなるとよい。

内容	
1	ガイダンス
2	対人魅力とは何か
3	好意をいかにして測るか
4	好まれる性格
5	外見の美しさの効果
6	美しさの判断
7	自分と似ていることの効果
8	環境条件と魅力
9	相手から好かれることの効果
10	個人の内的状況
11	自己開示と好意
12	対人魅力と対人関係
13	対人関係の親密化
14	対人関係の進展・崩壊
15	まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題 (簡単な実験実施によるデータ収集) 20点により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に達しない場合再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】次の授業のキーワードについて自分で調べて予習してくる

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる科目である。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

授業外学習

- 【事前予習】次に取り上げる内容について書籍、検索などを使って自分で調べてくる
- 【事後学修】学習内容についてノートを整理し、復習する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	創作表現		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目ではエッセイや詩、小説など文芸作品に触れることで文章の基礎を学びます。文章形態に応じて、構成、内容の違いを学び、表現する際に最も適した言葉の表現形式について考えます。

さらに文学作品の読解を通じて、視野と思考を広げることを発展的目標とします。国内外の文学作品に触れることで、多様な価値観と世界観を学びます。

文学作品読解の一環として、作品の内容や構成に関する意見を交換しあうグループワークを行います。適宜、文章を書く課題を通じて、基礎的な項目をふまえた言葉によるコミュニケーション能力の向上を目的とします。

科目の概要

様々なタイプの文章を読み、対象、内容、構成の違いを学びます。エッセイでは表記の基礎、エピソードの構成 (3 , 4 , 5 , 6)、詩では言葉の表現力 (7 , 8)、小説では創作の構成 (9 , 10 , 11 , 12) を学びます。グループワークを通じて、作品への異なるアプローチについて学びます。

学修目標 (= 到達目標)

文芸作品に親しみ、様々な価値観や世界観を学びます。

文章の基礎的な知識を踏まえて、課題を通じて「表現する力」を養います。

他者との意見交換によって、異なる考え方を共有し、視野を広げることを目的とします。

内容

1	ガイダンス	言葉の表現形態について
2	自己紹介文	文章を書いてみる
3	エッセイ	文章表現の基礎
4	エッセイ	テーマと構成
5	エッセイ	材料の組み立て方
6	エッセイ	文体とエピソード
7	詩	イメージを言葉にする
8	詩	情景描写と表現力
9	小説	創作について
10	小説	出来事を描く
11	小説	関係を描く
12	小説	心情を描く
13	書評	読書体験の役割
14	演習	
15	まとめ	

評価

各回の授業取り組みと課題提出などで60点、演習で40点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】授業で取り上げる作品または関連する事項（作家や同じ文章形態の作品など）に当たってください。

【事後学修】授業内で配布された資料を基に、興味関心を持った点（作品や作家、同時代の事象など）について自分なりにアプローチをしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定せず、授業内でレジユメ及び資料を配布します。

【推薦書】授業内で適宜紹介していきます。

【参考図書】授業内で適宜紹介していきます。

科目名	コンピュータグラフィックス		
担当教員名	安達 一寿、加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータソフトを使用した、創作活動に関心がある学生向けである。

科目の概要

各個人がコンピュータでアプリケーションを操作しながら、画像編集・加工ソフトであるAdobe「Photoshop」や「Illustrator」の操作方法を具体的に学んでいく。

他の演習系授業とも連携しつつ、Webデザイン、紙のデザイン、アニメーション等、各個人の今後の創作活動に有用な基礎を養っていく。

学修目標

- ・「Photoshop」や「Illustrator」の基本操作ができる。
- ・「Photoshop」や「Illustrator」の活動場面を理解し、自分で作品を創作できる。

内容	
1	オリエンテーション
2	画像編集 (Photoshop) と画像描画 (Illustrator) の基本について
3	画像の編集 加工の基礎
4	画像の編集 合成の基礎
5	画像の編集 色調の基礎
6	--第一回 課題の制作--
7	画像の編集 レイヤーを利用した複合的編集
8	画像の編集 マスク等を利用した応用的編集
9	--第二回 課題の制作--
10	画像の描画 描画の基礎
11	画像の描画 曲線描画の基礎
12	画像の描画 立体描画の基礎
13	--最終課題の制作--
14	--最終課題の制作--
15	まとめ

評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点40%、課題の評価点60%で評価する。 総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各々、演習室にてAdobe「Photoshop」の操作にトライしておくことが望ましい。

【事後学修】基本、紙の教材は仕様しない。前回までの内容を復習した状態で授業に参加することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要...1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標（＝到達目標）...1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス スタートアップ
- 第2回 新規プロジェクトの作成 プロジェクトおよびファイルの管理
- 第3回 コピーとペースト 削除と「元に戻す」
- 第4回 基本的操作の確認 テンポと拍子の設定 トランスポーズ
- 第5回 ドラムセットの入力
- 第6回 スコア課題(1)MIDI入力
- 第7回 スコア課題(2)MIDI入力
- 第8回 スコア課題(3)MIDI入力 強弱表現について
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化 ミックスダウン
- 第10回 オーディオ素材を活用したトラック制作
- 第11回 創作課題(1)MIDI入力
- 第12回 創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
- 第13回 創作課題(3)メロディパートの創作
- 第14回 ミックスダウン オーディオCD作成 試聴
- 第15回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

提出作品の評価40% 授業への参加度60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする。

【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。

【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健 著 リットーミュージック

【参考図書】随時紹介

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要...1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標（＝到達目標）...1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス スタートアップ
- 第2回 新規プロジェクトの作成 プロジェクトおよびファイルの管理
- 第3回 コピーとペースト 削除と「元に戻す」
- 第4回 基本的操作の確認 テンポと拍子の設定 トランスポーズ
- 第5回 ドラムセットの入力
- 第6回 スコア課題(1)MIDI入力
- 第7回 スコア課題(2)MIDI入力
- 第8回 スコア課題(3)MIDI入力 強弱表現について
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化 ミックスダウン
- 第10回 オーディオループ素材を活用したトラック制作
- 第11回 創作課題(1)MIDI入力
- 第12回 創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
- 第13回 創作課題(3)メロディパートの創作
- 第14回 ミックスダウン オーディオCD作成 試聴
- 第15回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

提出作品の評価40% 授業への参加度60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする。

【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。

【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健 著 リットーミュージック

【参考図書】随時紹介

科目名	アニメーション制作		
担当教員名	安達 一寿、加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータソフトを使用した創作活動に関心がある学生向けである。

科目の概要

各個人がコンピュータを操作しながら、アニメーション・マルチメディアソフトであるAdobe「Flash」の操作方を具体的に学んでいく。

他の演習系授業とも連携しつつ、アニメーション、Webデザイン、ゲームデザイン等、各個人の今後の創作活動に有用な基礎を養っていく。

学修目標

- ・「Flash」の基本操作ができる。
- ・「Flash」の活動場面を理解し、自分で作品を創作できる。

内容

1	オリエンテーション
2	アニメーション・マルチメディア(Flash)の基本について
3	画像の編集と描画基礎
4	画像の編集と描画基礎
5	シンボル・インスタンス・トゥイーン基礎
6	--課題制作--
7	シンボル・インスタンス・トゥイーン基礎
8	アクションスクリプト
9	--課題制作--
10	アクションスクリプト
11	web・モバイル連携
12	絵コンテの基礎
13	--最終課題制作--
14	--最終課題制作--
15	まとめ

評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点40%、課題の評価点60%で評価をおこなう。 総合評価60点以上

を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各々、演習室にてAdobe「Flash」の操作にトライしておくことが望ましい。また前期・前年度以前に「コンピュータグラフィックス」履修済であることが望ましい。

【事後学修】基本、紙の教材は使用しない。前回までの内容を復習した状態で授業に参加することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	ナレーションA（日本語）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格・・・声で様々な作品をじっくり味わう実践講座として位置づけ、ナレーションや朗読を通して日本語の豊かさを学ぶ。

科目の概要・・・文章は声に出して読むことによって、その内容をより深く理解できる。さらに、黙読では得られなかった、作者の呼吸や作品の真の味わいに近づくこともできる。日本語の音声表現の基礎を学びながら、様々な作品を読み、画面に合わせてのナレーションも体験する。演習形式なので、意欲のある学生の参加を希望する。

学修目標・・・日本語の文化や文芸を声に出して鑑賞する力をつける。作品をより深く理解し人に伝える能力と姿勢を身につける。

内容	
1	音声表現の基礎（腹式呼吸・発声・発音）
2	音声表現の基礎（鼻濁音・アクセント・滑舌）
3	短い文章を読むポイント
4	画面に合わせてナレーションをする
5	文学作品を朗読するポイント
6	小説を朗読する
7	絵本の読み聞かせ
8	昔話の魅力
9	詩の朗読
10	調べを大切に読む
11	短歌・俳句の朗読
12	歌舞伎「外郎売」などから学ぶ
13	朗読発表とスピーチ
14	朗読と日本語についての考察
15	まとめ

評価

日頃の授業への参加意欲（30%）発表の成績（40%）レポート（30%）を総合して評価し、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】その日の教材を読み込む

【事後学修】学んだことを生かして復習し、課題に取り組む

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【参考図書】「話しことばの花束」（好本恵著/リヨン社）

「基礎から学ぶアナウンス」（半谷進彦・佐々木端著/NHK出版）

科目名	ナレーションB (英語)		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科の専門科目のコミュニケーション選択科目。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方のほか、英語の教職課程を履修している学生にも履修をお勧めします。なお、ランゲージスキル選択科目の「英語音声学」では、この科目よりも時間の短い個々の音 (母音・子音・半母音) を詳しくみます。

英語でナレーションをするには、個々の音 (母音・子音・半母音) の発音にある程度自信が必要ですが、英語の音連続から文の発音へと体系的にリズムとイントネーションを学んで効率よく練習をしていく必要があります。英語のリズム・イントネーションは日本語よりも変化幅が大きいので、表情豊かに朗読する表現の幅が広がります。

ネイティブスピーカーに理解してもらいやすい流暢な発話を目指します。いきなり勘に頼ってリズムをつけようと努力よりも、急がば回れの言葉通り、リズム・イントネーションの特徴を頭で理解したうえで練習した方が、効率よく目標に近づくことができます。

内容

冠詞・人称代名詞などの機能語を弱く速く自然に発音して、きいて分かり易い発音を目指します。教科書リピーティングと音読を中心にして進みます。全22のレッスンを、2週間あたり3レッスン強の進捗で練習していき、最終週にはまとめを行います。

- Lesson 1 冠詞(Articles) a, an, the, some, any
- Lesson 2 代名詞(Pronouns) I, my, me, you, your
- Lesson 3 連結(Linking) 子音+母音
- Lesson 4 連結(Linking) [r]を含む母音+母音, 子音+[j]
- Lesson 5 代名詞(Pronouns) she, her, he, his, him
- Lesson 6 代名詞(Pronouns) it, its, they, their, them, we, our, us
- Lesson 7 be動詞(BE-verbs) be, am, is, are, was, were
- Lesson 8 助動詞(Auxiliary Verbs) do, does, did
- Lesson 9 助動詞(Auxiliary Verbs)
- Lesson 10 脱落(Elision) 同じ子音の連続
- Lesson 11 脱落(Elision) 閉鎖音+子音
- Lesson 12 助動詞(Auxiliary Verbs) have, has, had
- Lesson 13 同化(Assimilation) 相互同化
- Lesson 14 同化(Assimilation) 無声化
- Lesson 15 前置詞(Prepositions) of, in, on, at, to, for, from, than, with
- Lesson 16 同化(Assimilation) nの同化
- Lesson 17 接続詞(Conjunctions) and, or, but, as, if
- Lesson 18 同化+脱落(Assimilation and Elision) tとdの同化と脱落
- Lesson 19 when, where, who, which, what, why, whose
- Lesson 20 this, that, these, those

Lesson 21 短縮形(Contracted Forms)のwill, have, has

Lesson 22 短縮形(Contracted Forms)のwould, have, had

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

- (1) まとめの成果： 60%
- (2) 平常点： 40% (小テスト(適宜)、予習、実技録音課題提出)

授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、教科書の対訳を参考に説明英文を読み、付属音声の発音をまねてみてください。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで付属音声を何度もきいてまねてください。人によりませんが毎週30分は必要と思います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】今井/米田/平岩 著『英語リダクションをリスニング中心に(Sounds Great: Listening Practice on English Reduced Forms)』英宝社.

【推薦書】

Judy B. Gilbert著、_Clear Speech Student's Book with Audio CD: Pronunciation and Listening Comprehension in American English [Student Edition]3版 (2004)、Cambridge University Press . ISBN-13: 978-0521543545

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

学修目標 (=到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字(ア～サ行)
5	名前に関する表現
6	指文字(タ～ハ行)
7	趣味に関する表現
8	指文字(マ～ワ行)
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】 授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】 ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

学修目標 (=到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字(ア～サ行)
5	名前に関する表現
6	指文字(タ～ハ行)
7	趣味に関する表現
8	指文字(マ～ワ行)
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】 授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】 ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス (地域の人々が健康のために行っているダンス) を広め、指導にあたるインストラクター (ダンスムーブメント (ダンス的運動) インストラクターライセンスの受験資格) を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

導入 (1: 本日の話題 2: グルーピング 3: グループワーク)

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション (様々なステップ)

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2 週目 ~ 5 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 6 ~ 9 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 10 ~ 13 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら 動きを大きく、みている人に伝えられるように

5) 14 ~ 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や鑑賞能力を高める。

評価

平常点 (授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める) 80%、作品の発表および鑑賞20%等から、

総合的に評価。

授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス (地域の人々が健康のために行っているダンス) を広め、指導にあたるインストラクター (ダンスムーブメント (ダンス的運動) インストラクターライセンスの受験資格) を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション (様々なステップ) ここで、工夫のトレーニングも行う。

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2? 3 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 4? 6 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 7? 9 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

5) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

創作に挑戦

6) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や評価・鑑賞能力を高める。

評価

評価 平常点（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。忘れものは減点とする。

見学者は授業内容等（指定用紙）を記入し、毎時提出する。

授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	英語学		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

言語学の関連分野については「ことばのしくみ」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学」「ナレーション B (英語)」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論 (英語の単語の構造)、統語論 (英語の文の構造)、意味論 (意味の構造) を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたい。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、(ii) 言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の内部構造、形態素
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成規則 (偶発的な語形成規則)
6	形態論(5): 語形成規則 (少し規則的な語形成規則)
7	形態論(6): 語形成規則 (規則的な語形成規則)
8	統語論(1): 統語論のめざすもの
9	統語論(2): 句・文の内部構造
10	統語論(3): 句構造規則
11	統語論(4): 変形規則
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

評価

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語音声学		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科の専門科目のランゲージスキル選択科目。なお、コミュニケーション選択科目の「ナレーションB(英語)」では、この科目よりも時間の長い発音(音連続・リズム・イントネーション)に注目して応用練習をします。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方のほか、英語の教職課程を履修している学生にも履修をお勧めします。

母語の個々の音(母音・子音・半母音)の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語の発音を日本語と比較することにより個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

この教科書の30のユニットは6つの章に分かれていますが、第2, 3章の子音(しいん)と母音(ぼいん)をいねいに練習していきます。音節・単語・文章の部分も重要ですが、要点を押さえて速く進みます。

1	1.音声とつづり -- 2.音声を生成する -- 3.子音と母音
2	4.ゴールを決める -- 5.閉鎖音と鼻音
3	6.摩擦音
4	7.破擦音と接近音 -- 8.子音のまとめ -- 9.音声学の効用
5	10.母音
6	11.前舌母音と後舌母音
7	12.二重母音と中舌母音
8	13.音声記号
9	14.音節 -- 15.子音連結
10	16.音節と言葉遊び -- 17.英語の音のパターン -- 18.リスニング練習
11	19.単語の強勢 -- 20.弱形 -- 21.音素と異音
12	22.音韻規則 -- 23.発音練習の諸方法 -- 24.英語のリズム
13	25.文の強勢 -- 26.連結音 -- 27.同化
14	28.イントネーション(抑揚) -- 29.音調のパターン -- 30.自己意識と発音
15	【まとめ】

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

(1) まとめの成果： 60%

(2) 平常点： 40% (小テスト(適宜)、予習、実技録音課題提出)

授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、教科書の対訳を参考に説明英文を読み、付属音声の発音をまねてみてください。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで付属音声を何度もきいてまねてください。人によりですが毎週30分は必要と思います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】米坂スザンヌ/田中洋也 著 『Discovering English Sounds -- Phonetics Made Easy (発音指導と音声学の融合)』 センテージ ラーニング.

【推薦書】竹林滋/清水あつ子/斎藤弘子 著 『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店.

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	ベツィー テラダ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性 科目の性格

The aim of this elementary-level English course is to help students gain confidence in their basic English communication skills. The focus will be on developing vocabulary and expression needed to talk about familiar topics.

科目の概要

Two class periods will focus on a topic from the textbook which relates to students' lives, such as family, school life, and favorite things. Students will actively engage in a variety of speaking and short writing tasks.

学修目標 (=到達目標)

Upon completion of this course, students should be able to express themselves more confidently in basic English.

内容	
1	Course overview, introductions, Unit 1 (Classroom English, Part 1)
2	Unit 1 (Classroom English, Part 2)
3	Unit 1 Vocabulary quiz, Unit 2 (School Life, Part 1)
4	Unit 2 (School Life, Part 2)
5	Unit 2 Vocabulary quiz, Unit 3 (Family, Part 1)
6	Unit 3 (Family, Part 2)
7	Unit 3 Vocabulary quiz, Unit 4 (Neighborhood & Town, Part 1)
8	Unit 4 (Neighborhood & Town, Part 2)
9	Unit 4 Vocabulary quiz, Unit 5 (Friends, Part 1)
10	Unit 5 (Friends, Part 2)
11	Unit 5 Vocabulary quiz, Unit 10 (Memories, Part 1)
12	Unit 10 (Memories, Part 2)
13	Unit 10 Vocabulary quiz, "Show and Tell" mini-presentations
14	Review, discuss summer vacation plans
15	SPEAKING TEST

評価

Students will be evaluated on: participation (25%), homework (25%), vocabulary quizzes (20%), speaking test (30%).

授業外学習

【事前予習】 Students will be assigned some light homework each week to strengthen vocabulary and expression.

【事後学修】 Students will be expected to review material covered in class each week and study for quizzes and tests.

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Within Your Reach by Cliffe, Svendson, Terada Nan'undo Publishing Co.

【推薦書】 B-5 notebook

【参考図書】 paper or electronic English-Japanese, Japanese-English dictionary

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	ベツィー テラダ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

The aim of this course is to help students gain confidence in their basic English communication skills. The focus will be on developing vocabulary and expression needed to talk about familiar topics.

科目の概要

Two class periods will focus on a topic from the textbook which relate to students' lives, such as family, school life, and favorite things. Students will actively engage in a variety of speaking and short writing tasks.

学修目標 (=到達目標)

Upon completion of this course, students should be able to express themselves more confidently in basic English.

内容	
1	Course overview, introductions, Unit 1 (Classroom English, Part 1)
2	Unit 1 (Classroom English, Part 2)
3	Unit 1 Vocabulary quiz, Unit 2 (School Life, Part 1)
4	Unit 2 (School Life, Part 2)
5	Unit 2 Vocabulary quiz, Unit 3 (Family, Part 1)
6	Unit 3 (Family, Part 2)
7	Unit 3 Vocabulary quiz, Unit 4 (Neighborhood & Town, Part 1)
8	Unit 4 (Neighborhood & Town, Part 2)
9	Unit 4 Vocabulary quiz, Unit 5 (Friends, Part 1)
10	Unit 5 (Friends, Part 2)
11	Unit 5 Vocabulary quiz, Unit 10 (Memories, Part 1)
12	Unit 10 (Memories, Part 2)
13	Unit 10 Vocabulary quiz, "Show and Tell" mini-presentation
14	Review, discuss summer vacation plans
15	FINAL SPEAKING TEST

評価

Students will be evaluated on participation (25%), homework (25%), vocabulary quizzes (20%), final speaking test (30%).

授業外学習

【事前予習】 Students will be assigned some light homework each week to strengthen vocabulary and expression.

【事後学修】 Students will be expected to review material covered in class each week and study for quizzes and tests.

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Within Your Reach by Cliffe, Svendson, Terada Nan'undo Publishing Co.

【推薦書】 B-5 notebook

【参考図書】 paper or electronic English-Japanese, Japanese-English dictionary

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	アナ ウォーカー		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The focus will be on gaining confidence at speaking out
in English on a range of topics, using a variety of sentence patterns and discussion strategies.

内容

Week 1 Introductions/Holidays
 Week 2 Unit 1 Friends
 Week 3 Review
 Week 4 Unit 2 Free Time
 Week 5 Review
 Week 6 Unit 3 The Past
 Week 7 Review
 Week 8 Unit 4 The Family
 Week 9 Review
 Week 10 Unit 5 Work
 Week 11 Review
 Week 12 Unit 6 City Life
 Week 13 Review
 Week 14 Presentations
 Week 15 Evaluation

評価

Grades will be based on course work (20%), homework exercises (15%), participation in class (15%), and a mini-presentation (50%).

授業外学習

- 【事前予習】 Students will be required to research the weeks topic on the internet
- 【事後学修】 Students will review the new vocabulary and sentences patternes.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Communication Strategies 1 by Jun Liu
 Cengage Learning

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	アナ ウォーカー		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The focus will be on gaining confidence at speaking out
in English on a range of topics, using a variety of sentence patterns and discussion strategies.

内容

Week 1 Introductions/Holidays
 Week 2 Unit 1 Friends
 Week 3 Review
 Week 4 Unit 2 Free Time
 Week 5 Review
 Week 6 Unit 3 The Past
 Week 7 Review
 Week 8 Unit 4 The Family
 Week 9 Review
 Week 10 Unit 5 Work
 Week 11 Review
 Week 12 Unit 6 City Life
 Week 13 Review
 Week 14 Presentations
 Week 15 Evaluation

評価

Grades will be based on course work (20%), homework exercises (15%), participation in class (15%), and a mini-presentation (50%).

授業外学習

- 【事前予習】 Students will be required to research the weeks topic on the internet
- 【事後学修】 Students will review the new vocabulary and sentences patternes.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Communication Strategies 1 by Jun Liu
 Cengage Learning

科目名	日常英会話		
担当教員名	ベツィー テラダ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

The aim of this low-intermediate English course is to help students improve their vocabulary and speaking skills through discussion of various social and global issues.

科目の概要

Two class periods will focus on a theme presented in the textbook, for example, health and happiness, international relationships, and climate change. Each unit includes a short reading and comprehension exercise, followed by surveys and opinion-giving discussions. At the end of the course, students will give a 3-minute presentation on their topic of choice.

学修目標 (= 到達目標)

Upon completion of this course, students should be able to express their ideas and opinions in English about various themes.

内容

1	Course overview, introductions, Unit 5 ("Forever Single") preview discussion
2	Unit 5 (Part 1)
3	Unit 5 (Part 2); Quiz on Unit 5; Unit 10 ("Why Go to School?") preview discussion
4	Unit 10 (Part 1)
5	Unit 10 (Part 2); Quiz on Unit 10; Unit 11 ("An Int'l Marriage") preview discussion
6	Unit 11 (Part 1)
7	Unit 11 (Part 2); Quiz on Unit 11; Unit 12 ("Too Little, Too Late") preview discussion
8	Unit 12 (Part 1)
9	Unit 12 (Part 2); Quiz on Unit 12; Unit 16 ("Size Discrimination") preview discussion
10	Unit 16 (Part 1)
11	Unit 16 (Part 2); Quiz on Unit 16; Unit 20 ("A Mother's Story") preview discussion
12	Unit 20 (Part 1)
13	Unit 20 (Part 2); Quiz on Unit 20; introduction to presentations

14	Work on presentations
15	3-MINUTE PRESENTATIONS

評価

Students will be evaluated on participation (25%), home work (25%), unit quizzes (20%), 3-minute presentation (30%).

授業外学習

【事前予習】 Students will be assigned some light homework each week to strengthen vocabulary and expression.

【事後学修】 Students will be expected to review material covered in class each week and study for quizzes and tests.

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Impact Issues 2 by Day, Shaules, Yamanaka Pearson Longman Asia ELT

【推薦書】 B-5 notebook

【参考図書】 paper or electronic English-Japanese, Japanese-English dictionary

科目名	日常英会話		
担当教員名	ベツィー テラダ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

The aim of this low-intermediate English course is to help students improve their vocabulary and fluency through discussion of various social and global issues.

科目の概要

Two class periods will focus on a theme in the textbook, for example, health and happiness, international relationships, and climate change. Each unit includes a short reading and comprehension exercise, followed by surveys and opinion-giving discussion. At the end of the course, students will give a 3-minute presentation on the topic of their choice.

学修目標 (=到達目標)

Upon completion of this course, students should be able to express their ideas and opinions in English about various themes.

内容	
1	Course overview; introductions; Unit 5 ("Forever Single") preview discussion
2	Unit 5 (Part 1)
3	Unit 5 (Part 2); Quiz on Unit 5; Unit 10 ("Why Go to School?") preview discussion
4	Unit 10 (Part 1)
5	Unit 10 (Part 2); Quiz on Unit 10; Unit 11 ("An Int'l Marriage") preview discussion
6	Unit 11 (Part 1)
7	Unit 11 (Part 2); Quiz on Unit 11; Unit 12 ("Too Little, Too Late") preview discussion
8	Unit 12 (Part 1)
9	Unit 12 (Part 2); Quiz on Unit 12; Unit 16 ("Size Discrimination") preview discussion
10	Unit 16 (Part 1)
11	Unit 16 (Part 2); Quiz on Unit 16; Unit 20 ("A Mother's Story") preview discussion
12	Unit 20 (Part 1)
13	Unit 20 (Part 2); Quiz on Unit 20; introduction to presentations
14	Work on presentations
15	3-MINUTE PRESENTATIONS

評価

Students will be evaluated on participation (25%), homework (25%), unit quizzes (20%), 3-minute presentation (30%)

授業外学習

【事前予習】 Students will be assigned some light homework each week to strengthen vocabulary and expression.

【事後学修】 Students will be expected to review material covered in class each week and study for quizzes and tests.

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Impact Issues 2 by Day, Shaules, Yamanaka Pearson Longman Asia ELT Publishing Co.

【推薦書】 B-5 notebook

【参考図書】 paper or electronic English-Japanese, Japanese-English dictionary

科目名	日常英会話		
担当教員名	アナ ウォーカー		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The focus will be on gaining confidence at speaking out
in English on a range of topics, using a variety of sentence patterns and discussion strategies.

内容

Week 1 Summer Vacation
Week 2 Unit 7 Beliefs
Week 3 Review
Week 4 Unit 8 The Future
Week 5 Review
Week 6 Unit 9 Transportation
Week 7 Review
Week 8 Unit10 Vices
Week 9 Review
Week 10 Unit11 Marriage
Week 11 Review
Week 12 Unit 12 Travel
Week 13 Review
Week 14 Presentations
Week 15 Evaluation

評価

Grades will be based on course work (20%), homework exercises (15%), participation in class (15%), and a mini-presentation (50%).

授業外学習

- 【事前予習】 Students will be required to research the weeks topic on the internet
- 【事後学修】 Students will review the new vocabulary and sentences patternes.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Communication Strategies 1 by Jun Liu
Cengage Learning

科目名	日常英会話		
担当教員名	アナ ウォーカー		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The focus will be on gaining confidence at speaking out
in English on a range of topics, using a variety of sentence patterns and discussion strategies.

内容

Week 1 Summer Vacation
 Week 2 Unit 7 Beliefs
 Week 3 Review
 Week 4 Unit 8 The Future
 Week 5 Review
 Week 6 Unit 9 Transportation
 Week 7 Review
 Week 8 Unit10 Vices
 Week 9 Review
 Week 10 Unit11 Marriage
 Week 11 Review
 Week 12 Unit 12 Travel
 Week 13 Review
 Week 14 Presentations
 Week 15 Evaluation

評価

Grades will be based on course work (20%), homework exercises (15%), participation in class (15%), and a mini-presentation (50%).

授業外学習

【事前予習】 Students will be required to research the weeks topic on the internet

【事後学修】 Students will review the new vocabulary and sentences patternes.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Communication Strategies 1 by Jun Liu

Cengage Learning

科目名	メディア英語		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在では、情報の多くが英語でやりとりされています。インターネットが普及した現在、様々な情報獲得手段があります。しかし、信ぴょう性という点で、今なお新聞は欠かせません。

この授業では、英字新聞を読みながら、現代社会を読み解くための基本的な知識を英語で学びます。必要に応じて、実際の英字新聞やホームページを閲覧します。辞書を片手に、やさしい英字新聞が読めるようになることが目標です。

選択科目ですので、以上のような内容に興味があり、自発的に情報を収集し、考える態度が望まれます。

内容

主にThe Japan Newsの記事を収録したテキストを使用します。

身近な話題から、グローバル化した現代世界の様々な出来事や問題にいたるまで、知識、関心を深めながら読み進めていきます。

授業では、毎週1つの記事を読み、内容について話しあっていきます。

第1週：ガイダンス

第2週：Unit 1: Willingness to support quake-hit areas fading

第3週：Unit 2: Career education

第4週：Unit 3: Leaf worries behind with LED vegetables

第5週：Unit 4: Mental effects of bullying linger for years

第6週：Unit 5: Miyagi high school girl to speak at U.N.

第7週：Unit 6: Japanese eel now endangered

第8週：Unit 7: Soaking up the benefits of onsen

第9週：Unit 8: New English paper to debut April 1

第10週：Unit 9 : GIRL POWER

第11週：Unit 10: For a tasty deal, pay your 'hometown taxes'

第12週：Unit 11: Samurai spirit

第13週：unit 12: Roundabouts hit the streets

第14週：unit 13: Author Kanako Nishi talks about her novels and the stories behind them

第15週：まとめ

受講者の関心の高いユニットから順次読めるよう調整したいと思います。

評価

参加態度 50%

テスト 50%

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、おおまかな内容を読んでおいてください。

【事後学修】テキストで学んだ内容を、新聞やインターネットなどでさらに深めてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『メディアで学ぶ日本と世界 2014』

若有保彦著、成美堂、2000円

科目名	ライティング		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

英語が国際語となっている現在、社会で活躍するためには英語で自分の意見を表現する力が求められます。そこでこの授業では、ひとつのまとまった内容を英語で書く訓練をすることを目的とします。もちろん、まとまった内容を表現するためには、ある程度の長さのパラグラフを書く必要がでてきます。一文一文を文法的に書くことに加えて、英文エッセイにおけるパラグラフの概念を学び、論理的な文章を書くことをめざします。

内容

英文では論理的な思考が重視されます。そのため、英語で書かれる文章のパターンは論理の流れにしたがうことが多くなります。逆に言うと、英文エッセイのパターンに習熟していれば、論理展開のしっかりした文章を書くことができるわけです。授業では、「意見と理由」「観察と分析」「実験と結果」「賛成と反対」「比較と対比」「分類」「指示」「歴史」「原因と結果」などのパターンを取り上げ、それぞれの文章に応じた書き方を練習していきます。また、教室での演習に加えて、課題を行うことによって、実践的な英文読解のスキルを身につけていきます。

第1週：ガイダンス

第2週：Unit 1: Conclusions/Reasons(Model Essay)

第3週：Unit 1: Conclusions/Reasons(Original Essay)

第4週：Unit 2: Analysis(Model Essay)

第5週：Unit 2: Analysis(Original Essay)

第6週：Unit 3: Theory/Proof(Model Essay)

第7週：Unit 3: Theory/Proof(Original Essay)

第8週：Unit 4: Controversy(Model Essay)

第9週：Unit 4: Controversy(Original Essay)

第10週：Unit 5: Comparison/Contrast(Model Essay)

第11週：Unit 5: Comparison/Contrast(Original Essay)

第12週：Unit 7: Instructions(Model Essay)

第13週：Unit 7: Instructions(Original Essay)

第14週：Unit 8: Chronological Order(Model Essay)

第15週：まとめ

評価

期末テスト50%、平常点(課題、参加態度)50%

授業外学習

【事前予習】ライティング・パターンを読み、文章の構成を予習してきてください。

【事後学修】授業で学んだパターンにしたがって、自分のエッセイの構想を考えておいてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

『Skills for Better Writing 構造で書く英文エッセイ（改訂版）』（石谷由美子他、南雲堂、1900円＋税）

科目名	ビジネス英語		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、共通科目のうちの選択科目で、ビジネス英語を基礎から学習するクラスです。

科目の概要

ビジネスの世界で必要とされる英語力を養成することを目標とします。

学修目標 (= 到達目標)

様々なビジネスの場面で役立つ会話表現や英文ビジネス文書に関する基礎知識を習得し、実際に活用できるようになることを目指します

内容

実物とTOEICで使用されるビジネスレター、メール、ファックスを利用しながら演習していきます。

1	ビジネス通信 (ファックス)
2	ビジネス通信 (電子メール・電話)
3	ビジネス通信 (手紙)
4	社交関連英語 (ホテルの予約)
5	社交関連英語 (移転通知)
6	社交関連英語 (招待)
7	社交関連英語 (面会)
8	社交関連英語 (会議の通知)
9	社内の英語 (資料の送付)
10	社内の英語 (購入)
11	社内の英語 (報告)
12	取引関係の英語 (引合い)
13	取引関係の英語 (注文)
14	雇用関係の英語 履歴書・応募の手紙
15	まとめ

評価

授業への取り組み(20%)、平常点(20%)、最終チェック(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】最低30分で課題を解いておく

【事後学修】間違えた箇所をチェックし、次回からクリアできるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Andrew Vaughan, Dorothy Zemach, Get Ready for Business, Book 2, Macmillan

【推薦書】

【参考図書】

科目名	ビジネス英語		
担当教員名	宮崎 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、メディアコミュニケーション学科の選択科目で、ビジネス英語を基礎から学習するクラスです。リスニングとライティングに重点を置いて、ビジネスの世界で必要とされる英語力を養成します。様々なビジネスの場面で役立つ会話表現や英文ビジネス文書に関する基礎知識を習得し、実際に活用できるようになることを目指します。

内容

リスニングは、さまざまなビジネスシーンや話題を取り扱った実用的な会話を聞いて、英語の聴解に慣れるとともに、ビジネス英語特有の表現や語彙を学習していきます。ライティングは、ビジネスレター・電子メール・ファックス等で用いられる文体や形式を学習した上で、問題演習に取り組みます。必要に応じて、基本的な文法事項等について解説を加えていきます。また、学習したことをもとに、簡単な会話の練習も行う予定です。

3 ~ 4 週ごとに単語や表現等の小テストを実施します。

各自予習・復習をして、積極的に授業に参加してください。

講義計画

- 第1週 Job Hunting (1) - Writing a Resume
- 第2週 Job Hunting (2) - Writing an Application Letter
- 第3週 Job Hunting (3) - Arranging an Interview
- 第4週 Job Hunting (4) - A Job Interview
- 第5週 Job Offer
- 第6週 The First Day at Work
- 第7週 Preparing to Work
- 第8週 Telephoning (1) - Answering
- 第9週 Telephoning (2) - Taking a Message
- 第10週 Telephoning (3) - Making an Appointment
- 第11週 Visting a Client
- 第12週 Receiving a Visitor (1) - Preparation
- 第13週 Receiving a Visitor (2) - Meeting at an Narita Airport
- 第14週 まとめ (1)
- 第15週 まとめ (2)

評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。また、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) 期末試験： 60%
- (2) 平常点： 40% (授業への参加度、小テスト、課題提出)

授業外学習

【事前予習】教科書の指定箇所を必ず予習して授業に臨んでください。

【事後学修】授業で学習した単語や表現を再確認し覚えてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】城由紀子・島田拓司・Edward J. Schaefer 『Business Talk やさしいオフィス英語』成美堂

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、共通科目の実践英語科目の選択・選択必修科目で、英語での受信力・発信力の基礎となるリスニング力を養成することを目的としている。

科目の概要

全15回の授業では、おもに、現代の日本を海外に紹介する番組(NHK衛星放送)を扱う。各回で、ニュース英語のリスニングに必要なボキャブラリーや重要構文などを確認する。それらの知識に基づき、視聴覚メディアから英語を総合的に理解するスキルを習得することを目指す。

学修目標

英語力養成のために、予習・復習は不可欠である。テキストには事前に目を通し、積極的な態度で授業に参加してほしい。

1. 授業で扱う英語ニュースを聞き取り、要点を把握することができる。
2. 重要なボキャブラリーを習得する。(毎回単語テストを実施する。)
3. 英語の受信力・発信力養成における国際的な視野の重要性を理解する。

内容

指定の教科書に基づき、以下のスケジュールで授業を行う。

1	イントロダクション
2	Unit1 Ramen Revolution
3	Unit2 Top Twirler
4	Unit3 Hope for the Future
5	Unit4 How to Beat the Heat
6	Unit5 Party, Brazilian-style
7	Unit6 Smart Phones, Smart Kids
8	Unit7 Frozen Frontier
9	Unit8 Top Skills on Display
10	Unit9 Reality Check
11	Unit10 Saving the Rain Dance
12	Unit11 Building a Better Ball
13	Unit12 Clean-up Relay
14	Unit13 Music for a Silent World
15	まとめ

評価

期末試験（50％）、単語テスト（30％）、平常点[課題提出、授業態度]（20％）により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストの予習

【事後学修】授業後の課題

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山崎達朗・他著 『What 'on Japan 8』金星堂

【参考図書・辞書等】授業で適宜紹介する。

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、共通科目の実践英語科目の選択・選択必修科目で、英語での受信力・発信力の基礎となるリスニング力を養成することを目的としている。

科目の概要

全15回の授業では、おもに、現代の日本を海外に紹介する番組(NHK衛星放送)を扱う。各回で、ニュース英語のリスニングに必要なボキャブラリーや重要構文などを確認する。それらの知識に基づき、視聴覚メディアから英語を総合的に理解するスキルを習得することを目指す。

学修目標

英語力養成のために、予習・復習は不可欠である。テキストには事前に目を通し、積極的な態度で授業に参加してほしい。

1. 授業で扱う英語ニュースを聞き取り、要点を把握することができる。
2. 重要なボキャブラリーを習得する。(毎回単語テストを実施する。)
3. 英語の受信力・発信力養成における国際的な視野の重要性を理解する。

内容

指定の教科書に基づき、以下のスケジュールで授業を行う。

1	イントロダクション
2	Unit1 Ramen Revolution
3	Unit2 Top Twirler
4	Unit3 Hope for the Future
5	Unit4 How to Beat the Heat
6	Unit5 Party, Brazilian-style
7	Unit6 Smart Phones, Smart Kids
8	Unit7 Frozen Frontier
9	Unit8 Top Skills on Display
10	Unit9 Reality Check
11	Unit10 Saving the Rain Dance
12	Unit11 Building a Better Ball
13	Unit12 Clean-up Relay
14	Unit13 Music for a Silent World
15	まとめ

評価

期末試験（50％）、単語テスト（30％）、平常点[課題提出、授業態度]（20％）により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストの予習

【事後学修】授業後の課題

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山崎達朗・他著 『What 'on Japan 8』金星堂

【参考図書・辞書等】授業で適宜紹介する。

科目名	アドバンスト・リーディング		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、英語での受信力・発信力の基礎となるリーディング・スキルズを養成することを目的としている。

科目の概要

授業では、近年国際的な注目を集めている日本のポップカルチャーに関する文章を取り上げる。各回で、リーディングの基礎となるボキャブラリーや文法事項を扱い、それらの文法知識を、ある程度の長さのある英文解釈に応用する。授業計画には、各回で扱う文法項目を挙げている。

学修目標

英語力養成のために、予習・復習は不可欠である。テキストには事前に目を通し、積極的な態度で授業に参加してほしい。

1. 授業で扱う英文を読み取り、概要を把握することができる。
2. 重要なボキャブラリーを習得する。(毎回単語テストを実施する。)
3. 英語の受信力・発信力養成における国際的な視野の重要性を理解する。

内容	
1	イントロダクション
2	日本の映画のスク립ト (英語版) (1)
3	日本の映画のスク립ト (英語版) (2)
4	日本の映画のスク립ト (英語版) (3)
5	日本の映画のスク립ト (英語版) (4)
6	日本の映画のスク립ト (英語版) (5)
7	日本の映画のスク립ト (英語版) (6)
8	アメリカの映画のスク립ト (1)
9	アメリカの映画のスク립ト (2)
10	アメリカの映画のスク립ト (3)
11	アメリカの映画のスク립ト (4)
12	アメリカの映画のスク립ト (5)
13	アメリカの映画のスク립ト (6)
14	アメリカの映画のスク립ト (7)
15	まとめ

評価

期末試験 (50%)、単語テスト (30%)、平常点 [課題提出、授業態度] (20%) により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指定された文章を読む

【事後学修】単語や文法事項を覚える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考図書・辞書等】授業で適宜紹介する。

科目名	英語資格試験準備講座		
担当教員名	宮崎 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、英語能力試験の1つであるTOEICテスト受験のための、準備クラスです。

語彙、文法、リスニング、読解を総合的に学習して、実用的な英語運用能力を向上させ、TOEICテストに対応できる力を養成します。

TOEICテストにおいて、450点以上のスコア取得を目指します。

内容

授業ではユニットごとに、TOEICテストの出題形式に沿った問題を解いたのち、語彙、基本的な文法事項、リスニングとリーディングのためのストラテジーなどを学んでいきます。仕上げとして、再度同じ形式の問題に挑戦します。知識の定着を図るために、授業で使用するテキストから隔週で語彙に関する小テストを実施します。授業には積極的に参加し、予習・復習を行うようにしてください。

講義計画

- 第1週 Listening / Office Situation
- 第2週 Reading / Present perfect, vocabulary (gerund)
- 第3週 Listening / Shopper asking for service
- 第4週 Reading / Phrasal verb
- 第5週 Listening / Co-workers discussing the outcome of a meeting
- 第6週 Reading / Adverb, vocabulary (noun)
- 第7週 Listening / Talking about an award ceremony at work
- 第8週 Reading / Passive voice, vocabulary (noun)
- 第9週 Listening / Delivery company telephoning a customer
- 第10週 Reading / Present perfect, preposition
- 第11週 Listening / Making an arrangement for visitors to company
- 第12週 Reading / Transitive verb, vocabulary (noun)
- 第13週 Listening / Company problems related to technology
- 第14週 Reading / Subjunctive mood, conjunctions
- 第15週 まとめ

評価

以下の割合で点数化し、60%以上を合格とします。また、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) 期末試験： 60%
- (2) 平常点： 40% (授業への参加度・小テスト・課題提出)

授業外学習

【事前予習】教科書の指定箇所を必ず予習して授業に臨んでください。

【事後学修】授業で学習した単語や表現を再確認し覚えてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】Jonathan Lynch, Atsuko Yamamoto, Kanako Watanabe 『BEFORE-AFTER PRACTICE FOR THE TOEIC TEST』 Cengage Learning

【参考図書・辞典等】授業で適宜紹介します。

科目名	英語資格試験準備講座		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、英語能力試験の1つであるTOEICテスト受験のための、準備クラスです。

語彙・文法・リスニング・読解を、一つの映画という素材を通して総合的に学習し、実用的な英語運用能力を向上させ、TOEICテストに対応できる力を養成します。

TOEICテストにおいて、500点以上のスコア取得を目指します。

内容

この教科書の各ユニットには、聴き取りのポイントと文法の説明とTOEICのPart 1からPart 7までのすべての形式の問いがあります。英語の難易度としては中級の映画を素材として、TOEICで500点台の力をめざします。

1	導入・映画の前半を視聴
2	Unit 1 Secrecy (1) スキー場での出逢い ? 英語のリズムなど
3	Unit 2 Secrecy (2) 招かれざる客 ? 機能語の聞き取りなど
4	Unit 3 Danger (1) アメリカ大使館 ? 動詞と文型など
5	Unit 4 Danger (2) ナイトクラブの恐怖 ? 時制など
6	Unit 5 Best Spy (1) 極秘の依頼 ? 名詞など
7	Unit 6 Best Spy (2) 正体を追え! -- 形容詞・副詞など
8	Unit 7 Who's Lying? (1) 真実はどこに? -- 不定詞・動名詞など
9	Unit 8 Who's Lying? (2) 深まる謎 -- 分詞など
10	Unit 9 Still Hungry (1) セ-ヌ川の恋人たち -- 比較など
11	Unit 10 Still Hungry (2) 25万ドル、発見!! -- 接続詞など
12	Unit 11 Charade (1) 深夜の決闘 ? 地名の聞き取りなど
13	Unit 12 Charade (2) お遊び (シャレード) はこれまで -- 数字などの聞き取りなど
14	映画の後半を視聴
15	まとめ

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。また、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) まとめの成果： 60%
(2) 平常点： 40% (小テスト、予習、課題提出)

授業外学習

【事前学習】予習として、リスニングを含めて教科書の各ユニットの問題を30分程度かけ自力で解いた後、辞書を使ってもう30分程度解いてください。

【事後学修】リスニングのスク립トと、教科書に載っている文章問題の中の単語を完璧に覚えてください。まとめや適宜行う小テストで確認します。毎週30分以上必要です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中郷/小沢/太田/二村/Curran著『名作映画でTOEIC (R) (2) めざせ！500 ? シャレード』英宝社.

科目名	英語資格試験準備講座		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、三つある「英語資格試験準備講座」のうち英検2級対策の準備講座になります。すでにTOEIC対策の「英語資格試験準備講座」を受講した人でも繰り返し受講が可能な科目ですので、再度受講できます。(英検対策の「英語資格試験準備講座」を受講した人は受講できません。)

英検2級合格を目指し、その過程で基本的な英語力の復習と確認をし、日常生活に必要な程度の、聞く・書く・話す・読む能力を身に付け、企業が求める英語力の基礎を築きます。

科目の概要および 学修目標

- (1)卒業後の進路や就職活動に向けて自分の価値を高めたい。
- (2)努力して何かを成し遂げる能力があるという根拠ある自信が欲しい。
- (3)英語力をさらに伸ばしたい。

どれかに当てはまる人は、英検2級ないしは準2級を目指してみたいはいかがでしょうか？

これらの英検で問われるのは、日常生活に必要な英語力です。試験では、聴く・書く・話す・読む能力が試されます。

内容

このクラスは、英検2級合格を目指します。

教科書は英検2級・準1級の筆記対策・リスニング対策用に編まれています。準1級を受けない人にとっても、難しい問題を丁寧に解くことは良い練習になるものです。そのため、難易に変化を持たせる様、次の順番で進めます。

1	導入
2	Unit 1 2級 Campus Life
3	Unit 8 準1級 Language Learning
4	Unit 2 2級 Sports and Hobbies
5	Unit 9 準1級 Mass Media
6	2級面接問題サンプルテスト 1
7	Unit 3 2級 Health and Body
8	Unit 7 準1級 Environmental Issues
9	Unit 4 2級 Travel
10	Unit 10 準1級 Volunteer Activities and Japanese Society
11	2級面接問題サンプルテスト 2
12	Unit 5 2級 Food
13	Unit 6 2級 Natural Science
14	準1級ナレーション問題サンプルテスト
15	まとめ

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。また、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) まとめの成果： 60%
- (2) 平常点： 40% （小テスト、予習、課題提出）

授業外学習

【事前学習】予習として、リスニングを含めて教科書の各ユニットの問題を30分程度かけ自力で解いた後、辞書を使ってもう30分程度解いてください。

【事後学修】リスニングのスク립トと、教科書に載っている文章問題の中の単語を完璧に覚えてください。まとめや適宜行う小テストで確認します。毎週30分以上必要です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】津田/MacDonald/Pennington/Pennington著 『テーマで学ぶ英検2級・準1級
(STEP up to Success)』 鷹書房弓プレス。

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は、「インターンシップ」及び「短期インターンシップ」履修の事前授業である（「インターンシップ」「短期インターンシップ」を履修する場合は原則として本講義を履修すること。

科目の概要

企業が求めている人材像（ビジネスマナー、社会人としての基本動作他）、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識更には、インターンシップの内容、インターンシップを受ける際の基本的な常識などについて指導する。

学修目標

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職には必ずしも直結しないが、インターンシップを経験することで積極的な就職活動が可能となる。

内容	
1	ガイダンス（講義の進め方の説明、注意事項など）
2	企業とはなにか、企業が期待する女性社員像
3	企業のインターンシップについて（インターンシップに参加した先輩社員の報告）
4	企企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介1
5	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介2
6	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介3.
7	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介4
8	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介5
9	企自治体のインターンシップ 内容紹介
10	ビジネスマナー講座1
11	ビジネスマナー講座2
12	ビジネスマナー講座3
13	資生堂 Top Beauty Specialist 西島悦さんのメイク実演
14	インターンシップの応募手続き方法（学内、学外）
15	まとめ

評価

授業への参加姿勢（40%）、適宜行うテストの結果（30%）、最終テストの評価（30%）

授業外学習

【事前予習】各回の発表企業、自治体名を事前に通知するのでその会社、団体の事前調査

【事後学修】当日発表のあった企業、団体と同じ業界の関連事項及びインターンシップ等の調査

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、提示する。

科目名	社会人基礎力		
担当教員名	松永 修一、川口 英俊、北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

即戦力の人材がもとめられている現在、専門知識と同時に、様々な問題を解決する力や、実行力、協調性などの「社会人基礎力」を学生に身につけてもらうための授業。

豊かな人生とは何かを考え、実践、学び続ける力を身につけることを目標とする。

内容

- 1回 社会人基礎力養成(前に踏み出す力)
- 2回 社会人基礎力養成(考え抜く力)
- 3回 社会人基礎力養成(チームで働く力)
- 4回 インターンシップ報告
- 5回 FPによるマネー講座
- 6回 ライフデザインを考える
- 7回 ライフデザインワークショップ(モデルを探す)
- 8回 ライフデザインワークショップ(イメージから実践へ)
- 9回 メディアの変革と情報メディアの発展
- 10回 情報サービスとリテラシー
- 11回 ソーシャルメディア活用術
- 12回 演習
- 13回 演習
- 14回 演習

評価

課題を基に総合的に評価します。授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート25%、提出物50%で総合して評価する。

授業外学習

- 【事前予習】1週間のなかでの気づきの言語化、PDCAサイクル化
- 【事後学修】振り返りの言語化

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示

科目名	キャリア基礎力入門		
担当教員名	松永 修一、角田 真二、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するための基礎科目である。本授業では、就職活動の基礎となる学力向上のために、特に非言語領域(数学、算数)の授業・問題演習を能力別クラスに分かれて2年次に実施する。

科目の概要

本授業では、就職活動の基礎となる学力向上のために、特に非言語領域(数学、算数)の授業・問題演習を能力別クラスに分かれて2年次に実施する。

学修目標

基礎的な非言語領域(数学、算数)および言語領域の演習を中心に行い、基礎的な学力の向上を図る。3年次には「キャリア基礎力応用」を履修して就職試験に対応する力を養う。

内容

1	ガイダンス、チェックテスト 必ず受験してください。
2	非言語 テキスト
3	非言語
4	非言語3
5	非言語
6	非言語
7	非言語
8	非言語
9	非言語
10	非言語
11	言語
12	言語
13	言語
14	前期まとめ 必ず受験してください。
15	非言語

評価

テストの結果ならびに受講態度とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストによる理解度チェック

【事後学修】テキストによる練習問題

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

1回目の授業で指示する

科目名	キャリア基礎力入門		
担当教員名	松永 修一、角田 真二、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するための基礎科目である。本授業では、就職活動の基礎となる学力向上のために、特に非言語領域(数学、算数)の授業・問題演習を能力別クラスに分かれて2年次に実施する。

科目の概要

本授業では、就職活動の基礎となる学力向上のために、特に非言語領域(数学、算数)の授業・問題演習を能力別クラスに分かれて2年次に実施する。

学修目標

基礎的な非言語領域(数学、算数)および言語領域の演習を中心に行い、基礎的な学力の向上を図る。3年次には「キャリア基礎力応用」を履修して就職試験に対応する力を養う。

内容

- 1回 ガイダンス、チェックテスト 必ず受験してください。
- 2回 非言語 テキスト
- 3回 非言語
- 4回 非言語3
- 5回 非言語
- 6回 非言語
- 7回 非言語
- 8回 非言語
- 9回 非言語
- 10回 非言語
- 11回 言語
- 12回 言語
- 13回 言語
- 14回 前期まとめ 必ず受験してください。
- 15回 非言語

評価

小テスト(50点)、期末試験(50点)等をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストでの未習ポイントの学習

【事後学修】テキストを中心とした練習問題

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示

科目名	キャリア基礎力応用		
担当教員名	松永 修一、角田 真二、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。

科目の概要

就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

学修目標 (= 到達目標)

就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指す。

内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など

2. 非言語分野の学習

年齢算、仕事算、旅人算、流水算

グラフ・領域、資料解釈、空間把握

順列組み合わせ、確率、n進法

運動力学など

3. 言語分野の学習

同意語、反対語、ことわざ・慣用句

包含関係、行為関係、原料関係、用途関係

複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

小テスト (50点)、期末試験 (50点) 等をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストによる理解度チェック

【事後学修】テキスト練習問題演習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリア基礎力応用		
担当教員名	松永 修一、角田 真二、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。

科目の概要

就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

学修目標 (= 到達目標)

就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指す。

内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など

2. 非言語分野の学習

年齢算、仕事算、旅人算、流水算

グラフ・領域、資料解釈、空間把握

順列組み合わせ、確率、n進法

運動力学など

3. 言語分野の学習

同意語、反対語、ことわざ・慣用句

包含関係、行為関係、原料関係、用途関係

複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

小テスト (50点)、期末試験 (50点) 等をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストによる理解度チェック

【事後学修】テキスト練習問題演習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	演習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目 (必修)

科目の概要

卒業研究につながる演習として、メディアと教育、社会に関する様々な事柄を幅広く学びます。

学修目標

- ・メディアと教育に関する理論背景を理解する
- ・関連するICT技術を習得する

内容

ICT (情報通信技術) の普及により、教育分野 (学校、生涯学習) では、e-learningに代表される様々な教育方法が実践されています。その目的は、メディアは情報を伝えるコミュニケーションの手段と捉え、それを効果的活用することにより如何に高い教育効果をあげることができるか、ということです。そのためには、単にコンピュータやインターネットを活用することだけでなく、対象となる学習者の状況を知ること、どのような教材 (コンテンツ) であればいいのか、活用の方法はどうか等、様々なこと (要因) を検討する必要があります。ゼミでは、こうしたICT活用に関する教育の背景や理論とICT活用の技術 (Webページ、アニメーション、編集) を学びます。

演習は、毎回のテーマに沿って担当学生を決め、その担当学生がレポートする形式で進める予定である。

空き時間などは積極的に学習の機会を作り、目的意識を持って問題に取り組んでほしい。

評価

レポートの状況、および日常の学習の状況で判断する。当然のことながら、毎回出席すること。

日常のゼミでの取り組み状況30%、ゼミでの課題50%、プレゼンテーション20%とし、合計60%以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】テーマに関する資料の準備

【事後学修】事後評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

指定しない

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次演習として、卒業論文執筆の準備を行う。

この演習では、国際社会の諸問題を取り上げる。グローバル化が進む中、国際社会の出来事と日本国内の動きが密接な関係を持つようになってきた。政治、経済、社会、文化の側面で今何が起きているのか。地域社会、国、国際社会などのレベルでの動きを検討し、個々の問題の特徴を捉えていく。個人のレベルでの行動が国や国際社会の動向にどのように関連しているか、現代社会の問題を体系的に捉える視点を重視したい。

テーマ設定と同時に、問題設定から調査法、結果のまとめ方など、レポート、論文の書き方の基本について学ぶ。

内容

第1回～第5回：基本的文献についての討論

第6回～第10回：参考文献、情報の収集方法

第11回～第13回：論文のまとめ方（ゼミ・レポート執筆）

第14回：ゼミ・レポート提出

第15回：レポート講評

評価

発表、討論への参加（30%）、レポート（70%）で総合的に評価。再試験は行わない。

授業外学習

【事前予習】課題の文献を読んで、内容をまとめ、わからなかった点をメモしておく。

【事後学修】演習での議論を参考にして、わからなかった点についての説明を加える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】阿部和重 『幼少の帝国 - 成熟を拒否する日本人』新潮社、2012年

【参考書】大澤真幸、姜尚中（編）『ナショナリズム論・入門』有斐閣アルマ、2009年

加藤陽子 『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社、2009年

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代社会の諸問題その政治的意味を考える。

科目の概要

時事問題の議論、学外訪問、学生の希望を聞いて選んだ本を読みレジюмеを作成しての発表などを予定している。

学修目標 (=到達目標)

現代社会の諸問題を把握し自分の視点でものを考えること、卒業論文を作成する技法を身につけることをねらいとする。

内容

- ・時事問題-各自の関心に沿ってテーマを選び発表する。お互いに質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・学外訪問-少子高齢化に関わる行政や介護・保育の現場、裁判の傍聴など学生の関心によって訪問先を決め現場の人に学ぶ
- ・本を読みレジюмеを作成しての発表-学生の関心に沿って本を選び発表する。著者の主張の理解、自分の視点からの問題提起を行う。
- ・自分の問題意識から自由にテーマを選びレポートを書きながら、論文の書き方を学ぶ

評価

平常点 (40%) とゼミでの発表・提出物 (60%) の総合評価による

授業外学習

- 【事前予習】予告された授業内容の基礎知識を学ぶ
- 【事後学修】授業内容について検討し、授業の流れ・自分の考えや意見などを記録する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】鈴木伸元「新聞消滅大国アメリカ」幻冬舎新書

科目名	演習		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年の必修科目

担当教員の専門である、国際コミュニケーションやトランスナショナル・ジャーナリズムについて、講義では詳しくできなかった部分を、ビデオ、インターネット、現地で蒐集した資料などを見せながら、より深く学んでいきます。最終的には、マスメディアと社会、文化の関係を理解して、マスメディアと賢く付き合えるための能力＝メディア・リテラシーを身につけることができれば、と考えています。

内容

3年生の前半は各人の問題関心に関連する書籍を各人がこちらの指定する図書の中から選び、それを順番に発表してもらいます。

3年生の後半では、「マスメディアやマスコミをどのようにすれば研究できるか」という方法論＝産業研究、ジャーナリスト研究、送り手研究（メディア組織論）、内容分析（量的・質的）、受け手研究など＝を身につけてもらいます。同時進行で夏合宿で発表した卒論のテーマに関連する資料の発表をしてもらい、卒業論文のテーマを絞っていきます。

ゼミイベント計画

3年春学期：

新歓！

夏合宿（伊豆？）

3年秋学期：

ポーリング大会？

卒研発表会参加＋最終コンパ！

評価

ゼミでの発表、提出物など。

授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」（共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年）

「グローバル・ジャーナリズム」（共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年）

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著（新曜社、2008年）

科目名	演習		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本来芸術表現の一分野である身体表現は、人間の精神面、身体面を同時に発育調和させる最適な運動文化である。

また、身体表現・ダンスは身体を動かすことで各人の思想や感情を表現することであるが、日常にも様々な「種」がごろがっている。

そこで、このゼミでは、「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」など、様々なキーワードをもとに、ダンスから大きな意味での身体表現までアプローチしていく。

更に、人間として生きていく上で大切にしていきたいものをきちんと個々の立場から見つめ、今から一歩でも二歩でもステップアップした女性をみざして、そのためには何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする力をつけられるようにしていくことも目指している。

内容

- 1) オリエンテーション (自己紹介、面接等)
- 2) 様々なキーワードをもとに、自らの卒論にするべきテーマを探す
- 3) 提示された本の中から、自ら選択し、それらの内、最も他のゼミのメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明
それをもとにゼミのメンバーで議論する
- 4) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 5) 桐華祭における身体表現発表を企画段階からプロデュースし、そのための必要な情報や技術、コンテンツを準備する
(実技から裏方の準備まで)

評価

平常点 60% 準備、調査、発表 40% その他議論の際の発言や、準備や発表に対する姿勢など総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】ゼミ内容に関連する内容の資料を準備し、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう予習する。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適宜授業内で提示する

科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする。心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。情報環境に限らず、具体的な道具を取り上げ、有効な道具の条件について考察したい。

学修目標 使いやすく、わかりやすく、使ってみたくなる、具体的な道具を制作したい。実際に制作する過程で、使いやすくする工夫が難しいことを理解して欲しい。さらに、弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書かつ参考図書 野島久雄 (訳) 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	演習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次に専門科目の「ことばのしくみ」「英語学」を履修していない学生は、できるだけ3年次に履修してください。この演習を通して各自興味のあるテーマを見つけ、4年次の卒業研究につながるようにします。

科目の概要

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、ことばを科学的に分析する力を養います。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 形態論、統語論、意味論、語用論の基本的知識を身につける、(ii) 資料を自分で集め、整理、分析できることを目標とします。

内容

基本文献の内容をレポーターが報告し、全員で問題点を検討するという形式で演習を行います。また、コーパスを使った資料の検索の方法、インフォーマントチェックの方法を実際の作業を通して身につけることも行いたいと思います。

評価

(1) 期末レポート： 50%

(2) 授業内での発表： 50%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回読む部分の事前準備シートを各自準備すること。

【事後学修】読んだ部分に関する疑問点をメモすること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

言語音声やその習得・パーソナルコミュニケーションに関するについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

研究日誌を付ける習慣をつくる。

内容

もし、言語音声に関連する科目である「ことばの心的メカニズムB, D」をまだ履修していなければ、演習Iと並行して履修してほしい。

本科目と演習IIとを合わせて、4年次の卒業研究へとつなげられるようにしたい。

【3年次前期】： 紙のノート（ルースリーフでないほうが望ましい）でもパソコンのファイルのプリントアウトでも良いので、ゼミ研究日誌をつける。このようなノートは、就職活動でゼミでは何をしているかと聞かれたときに役立つであろう。ゼミ担任と関心が合わない場合は、研究日誌は自分の関心に沿ったことだけを書いてもよろしい。

これまでの演習Iでは日本語音韻に関する本を読んだり、英語の絵本で朗読CDがついているものを使って、英語の学習を兼ねて朗読の練習をしたりした。また、TOEICの問題集にゼミの時間を割いたこともある。就職活動を前に、基礎的な学力の養成にも力を入れたいものである。

なお、設楽ゼミではこれまで懇親会や旅行を催して、協力関係を育てている。

【3年次夏休み】： 次年度の卒業研究のための実験・調査を行うことが望ましい。最低限でも、シラバスで「演習II」の内容を参照のこと。

評価

研究日誌を50点、授業中のゼミへの積極的な参加度を50点として、合計60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1時間程度を考えています。教材をゼミ生と話し合って決めたのち、指定します。

【事後学修】30分程度を考えています。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教材】ゼミ生と話し合っ決めてます。

【推薦書】川越 いつえ 著(2007)、『英語の音声を科学する』新装版、大修館書店。

窪園 晴夫 著、西光 義弘 編(1998)、『音声学・音韻論 (日英語対照による英語学演習シリーズ)』、くろしお出版。

ジョン・カニソン キャットフォード 著、竹林 滋・設楽 優子・内田 洋子 訳 (2006)、『実践音声学入門』、大修館書店。

科目名	演習		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は脳と脳内外コミュニケーションのメカニズムを研究する演習です。

科目の概要

呼吸することから始まり食事、運動、考える、話す、芸術活動に至まで私たちは「脳」に依存しています。

学修目標 (= 到達目標)

「脳」の働きは私たちの感情や心理とどのような関係にあるのでしょうか。脳の発達の側面から、多岐にわたる活動までを卒業研究ゼミでは演習します。

内容	
1	導入
2	心理学と脳科学
3	現象から見える脳科学
4	実験できる脳科学
5	観察でみる脳科学
6	理論整理する脳科学
7	心理の技法と脳科学
8	知性を分類する
9	推敲方法
10	比較検討
11	前頭連合野の働き
12	側頭部の働き
13	小脳
14	海馬と記憶
15	まとめ

評価

ゼミへの意欲(20%)、発表(30%)、レポート50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】発表時には1時間程度の準備。

【事後学修】指摘された部分の復習30分程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】脳のなんでも小事典 技術評論社（ゼミ時に教師が用意）

【推薦書】

【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ (就活での自己PRの内容) を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得！」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

評価

獲得したポイントにより評価します。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント (提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント (6回以上 [授業2回につき 1つ程度] 課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・
D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S (4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】1週間の中での体験経験を言語化、その中からPDCAサイクルを導き出す。

【事後学修】毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究の前段階として、ひとつのテーマについて必要な情報・資料を収集し、レポートにまとめる力を身につける。

科目の概要

何らかの自然環境に関する調査をテーマにして、実際に調査を行う。調査方法、内容についてはゼミナールの中で議論し、よりよいものにしていく。

学修目標 (= 到達目標)

1. 自然環境に関して問題意識を持ってテーマを見つけ、それについて調査する意義を見出すことができる。
2. 調査方法を理解し、よりよい調査に向けてグループで議論ができる。
3. 調査方法を習得する。

内容

自然環境と人間とのかかわりについてテーマをひとつ決める。

つぎの2つのテーマから選択する予定である。

- ・太陽からくる紫外線について
- ・携帯電話やその他電子機器から出てくる電磁波について

紫外線・電磁波の性質と体に与える影響について学習を行い、調査の意義について考える。その後、現在の環境ではどの程度の紫外線・電磁波を受ける可能性があるのか、学内外で調査する。それらの量が場所、時間、天候、建物、身につけるものなどの条件によってどのように変わるかを調べる。調査は小グループに分けて行う。調査の意味や方法についてはグループ内で話し合ったのち、ゼミナール全体でも議論を行い、よりよい調査が行えるようにする。

評価

授業への参加度20%、提出物40%、調査結果40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】前回までの進捗を確認し、今回やるべきことを整理しておく
- 【事後学修】調査結果等について再確認し、資料を整理しておく

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】使用しない
- 【推薦書】環境省、紫外線環境保健マニュアル2008、http://www.env.go.jp/chemi/uv/uv_manual.html
- 【参考図書】教室で紹介する

科目名	演習		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアはよく「第4権力」と言われるが、この言葉の響きを必ずしもマイナスイメージだけでなく「国会・行政・司法」という3権をより成熟して自由な民主主義社会に導くための大切なもの」と捉えたい。そのためにはメディアが日々の活動を通して生み出す「コンテンツの自由と質」と「メディアの屋台骨を支えるビジネス（いわばメディア産業論的視点）」の二面性（ロマンとソロバン）の吟味が欠かせないのであり、より実際に即して、その具体的な理解を図る。新聞社・テレビ局等マスメディアの現場にも出向くことにより、コンテンツを発信する側の志と苦勞にも触れ、メディア及び広告等を含めた関連企業で働くことの意義も考える。

内容

本ゼミでは、上記の基本的認識に立って、旧マスコミ4媒体（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌）及びこれと関わるニューメディアの動静を意識し、「メディアのコンテンツ比較」や「メディアのコンテンツ制作の現場体験学習」等を行う。コンテンツ比較は、例えば新聞社説の読み比べ等であり、現場体験は、実際に新聞社、出版社、テレビ局等の見学に加え、本学で展開しているフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として積極的に関わり、これら座学・学外授業の連環性と相乗効果の中で、一年後の「卒業研究」テーマの構築深化はもとより、一生の一大事である「就職力・就業力アップ」を図り、「社会で逞しく生きる力」（リアリズム）を身に付ける。

評価

授業への積極的な取り組み姿勢と、授業を踏まえ自分で考え行う力の達成度で評価

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の時に随時提示。

科目名	演習		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究を作成するために、調査や文献講読、発表などを行う。

科目の概要

- 1) 卒業研究に必要な資料収集、データ収集、レジュメ作成、発表、討論の方法や、レポート作成技法などについて学ぶ。
- 2) インタビューをしてさまざまな文化現象に関わる人たちと交流し、文献や映像資料を集めて内容を分析することを通じて、社会のなかで、文化やメディアがどのように機能しているかを学ぶ。
- 3) 自分自身の研究対象について書かれた本や関連する資料 (雑誌、映像、サイトなど) を読み、調査してきた内容とつぎ合わせながら、レジュメをまとめ、最終的に、ひとつの論文にまとめていく。

学修目標

みなさんが興味を持っている現代社会のさまざまな文化現象を、メディアとの関係を中心に調査したり討論したりしていく。実際に街に出てインタビューをしたり、さまざまな文化現象に関わる人たちとの交流を通じて、社会のなかで文化やメディアがどのように機能しているかを学び、コミュニケーション能力、交渉力や調整能力を高めていくことがこのゼミの目標になる。

内容

15回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

- (1) イントロダクション 1
- (2) イントロダクション 2
- (3) ~ (14) 文献講読
- (15) まとめ

評価

平常点 (25%) 授業への参加 (25%) 提出物や課題 (50%)

授業外学習

- 【事前予習】使用する文献を読みレジュメを作成すること
- 【事後学修】ゼミでの議論を受けて論文を作成すること

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一、小笠原 典子、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

授業名称は「日本の四季・生活ニュース(食・自然・旅)」とする。コミュニケーション力、および日本語力向上を目指す留学生を対象とする。

科目の概要

日本の四季、生活ニュースに関する事柄を学ぶことで、日本語の力と日本のメディアから伝えられる言葉の背景理解を最高レベル(1級)まで高める。

学修目標 (=到達目標)

日本語能力の特段のアップと日本文化理解の一層の向上によって、人間力を身に着け、社会に役立つ人材(就職力・就業力)となることを目指す。

内容

春夏秋冬で食が変わり、目の前の自然が変わり、旅情を掻き立てる日本は、四季の移ろい(歳時記)そのものが生活ニュースであり、美しい日本文化をはぐくんだ源である。

世界の文化が融合する現代、日本の文化に惹かれて日本で学ぶ女子留学生に、「食・自然・旅」を中心テーマに深く日本を感じてもらい、同時に文化の国際比較も豊かに発信できる力を養うことを眼目とする。

日中の食文化比較をテーマにした雑誌での発表実績がある教員のデータをはじめ、日本の歳時記等を用いて受講生の日本理解に努め、日本の文化を体感できるゼミを展開する。折々のニュースで取り上げられる埼玉や東京の文化スポット散策も折に触れて実施する。

さらに、7月、12月の日本語能力試験、6月・11月の時事問題検定試験(毎日新聞)の試験対策も実施し、キャリアアップも行う。

評価

授業への参加度40%、毎回の課題完成40%、授業を踏まえたキャリアアップの達成度20% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】提示される課題について予習を行う。

【事後学修】学習したテーマ、および添削された提出物について復習を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示。

【推薦書】授業時に指示。

【参考図書】授業時に指示。

科目名	演習		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Qクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究に向けての応用力を高める。

科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

学修目標 (=到達目標)

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。

情報発信者としてのリテラシーを身につける。

内容

- 1.MIDI入力とエディット
- 2.音源 (ソフトシンセ) のエディット
- 3.オーディオ素材のエディット
- 4.エフェクト研究
- 5.ミキシング、エンコード
- 6.SoundCloudへのアップロードとシェア スマートフォンアプリとの連携

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ。

【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高 著 リットーミュージック

【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目(必修)

科目の概要

卒業研究につながる演習として、メディアと教育、社会に関する様々な事柄を幅広く学びます。

学修目標

- ・メディアと教育に関する理論背景を理解する
- ・関連するICT技術を習得する

内容

ICT(情報通信技術)の普及により、教育分野(学校、生涯学習)では、e-learningに代表される様々な教育方法が実践されています。その目的は、メディアは情報を伝えるコミュニケーションの手段と捉え、それを効果的活用することにより如何に高い教育効果をあげることができるか、ということです。そのためには、単にコンピュータやインターネットを活用することだけでなく、対象となる学習者の状況を知ること、どのような教材(コンテンツ)であればいいのか、活用の方法はどうか等、様々なこと(要因)を検討する必要があります。ゼミでは、こうしたICT活用に関する教育の背景や理論とICT活用の技術(Webページ、アニメーション、編集)を学びます。

演習は、毎回のテーマに沿って担当学生を決め、その担当学生がレポートする形式で進める予定である。

空き時間などは積極的に学習の機会を作り、目的意識を持って問題に取り組んでほしい。

評価

レポートの状況、および日常の学習の状況で判断する。当然のことながら、毎回出席すること。

日常のゼミでの取り組み状況30%、ゼミでの課題50%、プレゼンテーション20%とし、合計60%以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】テーマに関する資料の準備

【事後学修】事後評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

指定しない

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 に続けて履修し、卒業研究の準備を行う。

国際社会における政治、経済、文化の動きに関連したテーマを取り上げて話し合い、個々に論文のテーマになりそうな分野を絞り始める。それぞれのテーマについてさらに話し合い、卒業論文につながる研究、調査の計画を立てていく。個々のテーマ、調査法について互いに意見を述べ合う機会を重視して、議論中心に演習を進める。

学期末に発表する論文を、卒業研究の第1段階と位置づけられるものとする。要望があれば、学園祭等でそれまでの調査結果を発表することも支援する。

内容

第1回～第4回：後期ゼミ・レポートのテーマ選択、問題提起

第5回：テーマ発表

第6回～第13回：リサーチの経過報告・卒論への展開

第14回：レポート体裁確認・提出

第15回：レポートの最終発表

評価

発表・討論への参加(30%)レポート(70%)で総合的に評価。再試験は行わない。

授業外学習

【事前予習】 それぞれのテーマについての情報を集める。

【事後学修】 発表に対するコメントを参考に、情報を整理、分析する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】 白井利明・高橋一郎 『よくわかる卒論の書き方』第2版 ミネルヴァ書房 2013年

【参考図書】 藤田真文 『メディアの卒論』 ミネルヴァ書房 2011年

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代社会の諸問題、メディア等について政治学的を混じえながら考える

科目の概要

時事問題の発表、ディベート、ゼミ論と呼ぶレポートの発表などを予定

学修目標(=到達目標)

現代社会の諸問題を通じて自分の視点でものを考えること、卒業論文を作成する技法を身につけることをねらいとする

内容

- ・時事問題 - ニュースについて自分の視点・関心による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める
- ・ディベート - ディベートの技法を学ぶことにより自分の主張を効果的に展開すること、討論の仕方を学ぶ。
- ・ゼミ論 - 自分の問題意識によりテーマを選び、ゼミ論と呼んでいるレポートを作成、卒論の書き方を学び、卒論の下準備をする

評価

平常点(40%)とゼミでの発表・提出物(60%)の総合評価による。

授業外学習

- 【事前予習】予告された授業内容の基礎知識を学ぶ
- 【事後学修】授業内容について検討し、授業の流れ・自分の考えや意見などを記録する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】立花隆「知のソフトウェア」講談社現代新書

科目名	演習		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース3年の必修科目

担当教員の専門である、国際コミュニケーションやトランスナショナル・ジャーナリズムについて、講義では詳しくできなかった部分を、ビデオ、インターネット、現地で蒐集した資料などを見せながら、より深く学んでいきます。最終的には、マスメディアと社会、文化の関係を理解して、マスメディアと賢く付き合えるための能力＝メディア・リテラシーを身につけることができれば、と考えています。

内容

3年生の前半は各人の問題関心に関連する書籍を各人がこちらの指定する図書の中から選び、それを順番に発表してもらいます。

3年生の後半では、「マスメディアやマスコミをどのようにすれば研究できるか」という方法論＝産業研究、ジャーナリスト研究、送り手研究（メディア組織論）、内容分析（量的・質的）、受け手研究など＝を身につけてもらいます。同時進行で夏合宿で発表した卒論のテーマに関連する資料の発表をしてもらい、卒業論文のテーマを絞っていきます。

ゼミイベント計画

3年春学期：

新歓！

夏合宿（伊豆？）

3年秋学期：

ボーリング大会？

卒研発表会参加＋さよならコンパ！

評価

ゼミでの発表、提出物など。

授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」（共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年）

「グローバル・ジャーナリズム」（共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年）

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著（新曜社、2008年）

科目名	演習		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この授業は、社会情報人間生活学部メディアコミュニケーション学科の演習である。

「身体表現」を中心に「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」「身体活動」など様々なキーワードをもとに、「ダンス」から広い意味での「身体表現」までアプローチして行く。

科目の概要

直接身体活動を行ったり、DVDや舞台鑑賞をしたり、関連書籍を読み議論し合い、感性を養って行く。

後期の「演習II」となると、動き中心から、ワークショップ形式を多く取り入れ、ゼミ生自身で問題発見、解決を導くような手法をとるようにする。

学修目標

- 1) 卒業研究のための「素材」「種」を見つける
- 2) そのために、様々なアプローチを試みる
- 3) 卒業後の成長も見据え、一歩でも二歩でも今よりステップアップした女性を目指し、そのために何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする能力を育てて行く

内容

- 1) 様々なキーワードをもとに、自らの卒業論文にすべきテーマを探す
- 2) 提示された本の中から、最も他のメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明する。
- 3) それをもとにゼミのメンバーで議論する。新しい考え方や、他者の考え方（場合によっては相容れないこともあること）を受け入れつつ、取捨選択できるようにする。
- 4) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 5) 発表場面における、身体表現活動の発表を企画段階からプロデュースし、必要な情報や技術、コンテンツを準備する。（実技から裏方の技術まで）この部分は少しウェイトが軽くなる。
- 6) 本などの依頼により、様々な地域の現場における身体活動の指導者に直接インタビューを行い、記事にまとめる。
- 7) 実技だけでなく人に伝える力、自ら考える力を備えるため、必要な知識、情報収集、共有、議論を経てプレゼンを行う。

評価

平常点60%、準備、調査、発表40%。その他議論の際の発言や、準備・発表に対する姿勢など総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】自らの研究テーマに関連する資料を収集し、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう準備する。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度適宜提示する。

科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする。心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。情報環境に限らず、具体的な道具を取り上げ、有効な道具の条件について考察したい。

学修目標 使いやすく、わかりやすく、使ってみたくなる、具体的な道具を制作したい。実際に制作する過程で、使いやすくする工夫が難しいことを理解して欲しい。さらに、弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書かつ参考図書 野島久雄 (訳) 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	演習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次に専門科目の「ことばのしくみ」「英語学」を履修していない学生は、できるだけ3年次に履修してください。この演習を通して各自興味のあるテーマを見つけ、4年次の卒業研究につながるようにします。

科目の概要

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、ことばを科学的に分析する力を養います。

学修目標 (=到達目標)

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的知識を身につける、(ii)資料を自分で集め、整理、分析できることを目標とします。

内容

基本文献の内容をレポーターが報告し、全員で問題点を検討するという形式で演習を行います。また、コーパスを使った資料の検索の方法、インフォーマントチェックの方法を実際の作業を通して身につけることも行いたいと思います。

評価

(1) 期末レポート： 50%

(2) 授業内での発表： 50%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回読む部分の事前準備シートを各自準備すること。

【事後学修】読んだ部分に関する疑問点・コメントなどをメモすること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	安達 一寿、設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科専門必修科目。

言語音声やその習得・パーソナルコミュニケーションに関するについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

研究日誌を付ける習慣をつくる。

内容

もし、言語音声に関連する科目である「ナレーションB (英語)」をまだ履修していなければ、演習IIと並行して履修してほしい。

本科目の研究内容を4年次の卒業研究へとつなげるために、演習Iに引き続いてゼミ研究日誌をつけ、それを使って学期末のレポートを作成する。

これまでの演習Iでは日本語音韻に関する本を読んだり、英語の絵本で朗読CDがついているものを使って、英語の学習を兼ねて朗読の練習をしたりした。また、TOEICの問題集にゼミの時間を割いたこともある。就職活動を前に、基礎的な学力の養成にも力を入れたいものである。

【3年次夏休み】： 各自、自分の関心を第一に考えて、演習 I のレポートのテーマを考え、4年次の卒業研究の一部とするように心がける。自分の好きな事柄でないと卒業論文につながらないので、言語音声に関係ないテーマでもよい。テーマをきめるために、当然この時期の読書や取材・実験・調査も必要である。

【3年次後期】： ゼミ生の関心にできるだけ沿った書籍の一部分や論文を数点読む。ゼミ生はその都度研究日誌に書き足していく。研究日誌を使って、演習 I の最終レポートをつくる。これは、卒業研究論文の一部とすることが望ましい。

なお、最近3年次後期にはゼミ旅行は企画しないようにしているが、以前は一泊旅行をしたこともある。つらい就職活動の合間に、簡単な懇親会をして激励しあうのはいいと考える。

評価

最終レポートを60点、研究日誌を40点として、合計60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1時間程度を考えています。ゼミ生と決めた教材により指定する。

【事後学修】30分程度を考えている。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】川越 いつえ 著(2007)、『英語の音声を科学する』新装版、大修館書店

窪園 晴夫 著、西光 義弘 編(1998)、『音声学・音韻論（日英語対照による英語学演習シリーズ）』、くろしお出版

ジョン・カニソン キャットフォード 著、竹林 滋・設楽 優子・内田 洋子 訳 (2006)、『実践音声学入門』、大修館書店

科目名	演習		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は脳と脳内外コミュニケーションの演習です。

科目の概要

呼吸することから始まり食事、運動、考える、話す、芸術活動に至まで私たちは「脳」に依存しています。

学修目標 (= 到達目標)

そんな「脳」の働きは私たちの感情や心理とどのような関係にあるのでしょうか。脳の発達の側面から、多岐にわたる活動までを卒業研究ゼミでは演習します。

内容

1	導入
2	論文の形式と発表
3	論文内容の検討と発表
4	引用に着いてと発表
5	参考文献の取り扱いと発表
6	他の研究領域との関係と発表
7	インターネットからの引用の注意点
8	下書きと発表
9	推敲方法と発表
10	比較検討と発表
11	誤字脱字の避け方と発表
12	論文の仕上げと発表
13	首尾一貫性と発表
14	完成への注意点と発表
15	まとめ

評価

ゼミへの取り組み (20%)、発表 (30%)、レポート (50%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】発表時には1時間程度の準備。

【事後学修】指摘された部分の復習30分程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】脳の何でも小事典（ゼミ時に用意します）

【推薦書】

【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ (就活での自己PRの内容) を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得！」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

評価

日常出席まとめ感想メール・・・1～7ポイント (提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation1～3ポイント) レポート・課題・・・3～8ポイント (6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5～10ポイント 合計ポイントと評価・・・D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S (4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】1週間の中での体験経験を言語化、その中からPDCAサイクルを導き出す。

【事後学修】毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の中で指示

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究の前段階として、ひとつのテーマについて必要な情報・資料を収集し、レポートにまとめる力を身につける。

卒業研究に向けてテーマを決める

科目の概要

1. 演習 で調査したデータを論文にまとめる。論文の作成方法について学習する。
2. 卒業研究に向けてテーマを決め、参考文献を集める。

学修目標 (=到達目標)

1. 論文執筆にあたっての基本的な作法を身につける。
2. 意義, 調査方法, 結果・考察までの流れを描くことができる。
3. 卒業研究へ向けてテーマを設定できる。

内容

演習 で行った調査を論文にまとめる。

改めて関連書籍をよく読み, 調査の意義を確かなものにする。

使用するデータを取捨選択し, その表現方法を考える。

レポートの作法について学ぶ。

レポートのあらすじを作成し, 執筆する。

レポートを推敲し, 完成版を作る。

卒業研究についてテーマを設定し, 関連の文献を集める。

評価

授業への参加度30%、論文50%、卒業研究への準備20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前回までの進捗を確認し、今回の作業について確認しておく。

【事後学修】自分の計画に沿って論文作成、資料収集等を進める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】木下是雄、理科系の作文技術、中公新書

【参考図書】教室で紹介する

科目名	演習		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアはよく「第4権力」と言われるが、この言葉の響きを必ずしもマイナスイメージだけでなく「国会・行政・司法」という3権をより成熟して自由な民主主義社会に導くための大切なもの」と捉えたい。そのためにはメディアが日々の活動を通して生み出す「コンテンツの自由と質」と「メディアの屋台骨を支えるビジネス（いわばメディア産業論的視点）」の二面性（ロマンとソロバン）の吟味が欠かせないのであり、より実際に即して、その具体的な理解を図る。新聞社・テレビ局等マスメディアの現場にも出向くことにより、コンテンツを発信する側の志と苦勞にも触れ、メディア及び広告等を含めた関連企業で働くことの意義も考える。

内容

本ゼミでは、上記の基本的認識に立って、旧マスコミ4媒体（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌）及びこれと関わるニューメディアの動静を意識し、「メディアのコンテンツ比較」や「メディアのコンテンツ制作の現場体験学習」等を行う。コンテンツ比較は、例えば新聞社説の読み比べ等であり、現場体験は、実際に新聞社、出版社、テレビ局等の見学に加え、本学で展開しているフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として積極的に関わり、これら座学・学外授業の連環性と相乗効果の中で、一年後の「卒業研究」テーマの構築深化はもとより、一生の一大事である「就職力・就業力アップ」を図り、「社会で逞しく生きる力」（リアリズム）を身に付ける。

評価

授業への積極的な取り組み姿勢と、授業を踏まえ自分で考え行う力の達成度で評価

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の時に随時提示。

科目名	演習		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究を作成するために、調査や文献講読、発表などを行う。

科目の概要

- 1) 卒業研究に必要な資料収集、データ収集、レジュメ作成、発表、討論の方法や、レポート作成技法などについて学ぶ。
- 2) インタビューをしてさまざまな文化現象に関わる人たちと交流し、文献や映像資料を集めて内容を分析することを通じて、社会のなかで、文化やメディアがどのように機能しているかを学ぶ。
- 3) 自分自身の研究対象について書かれた本や関連する資料 (雑誌、映像、サイトなど) を読み、調査してきた内容とつぎ合わせながら、レジュメをまとめ、最終的に、ひとつの論文にまとめていく。

学修目標

みなさんが興味を持っている現代社会のさまざまな文化現象を、メディアとの関係を中心に調査したり討論したりしていく。実際に街に出てインタビューをしたり、さまざまな文化現象に関わる人たちとの交流を通じて、社会のなかで文化やメディアがどのように機能しているかを学び、コミュニケーション能力、交渉力や調整能力を高めていくことがこのゼミの目標になる。

内容

15回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

- (1) イントロダクション
- (2) 調査 1
- (3) 調査 2
- (4) 調査 3
- (5) 調査 4
- (6) 発表 1
- (7) 発表 2
- (8) 発表 3
- (9) 発表 4
- (10) 分析 1
- (11) 分析 2
- (12) 分析 3
- (13) 分析 4
- (14) まとめ 1
- (15) まとめ 2

評価

平常点（25%）授業への参加（25%）提出物や課題（50%）

授業外学習

【事前予習】使用する文献を読みレジユメを作成すること

【事後学修】ゼミでの議論を受けて論文を作成すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一、小笠原 典子、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Pクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

授業名称は「日本の四季・生活ニュース(食・自然・旅)」とする。コミュニケーション力、日本語力向上を目指す留学生を対象とする。

科目の概要

日本の四季、生活ニュースに関する事柄を学ぶことで、日本語の力と日本のメディアから伝えられる言葉の背景理解をより高いレベル(1級)にまで高める。

学修目標

日本語力の特段のアップと、日本文化理解の一層の向上によって、人間力を身に付け、社会に役立つ人材(就職力・就業力)となることを目指す。

内容

春夏秋冬で食が変わり、目の前の自然が変わり、旅情をかきたてる日本は、四季の移ろい(歳時記)そのものが生活ニュースであり、美しい日本文化を育んだ源である。

世界の文化が融合する現代、日本の文化に魅かれて日本で学ぶ女子留学生に「食・自然・旅」を中心テーマに深く日本を感じてもらい、同時に文化の交際比較も豊かに発信できる力を養うことを眼目とする。

日中食文化比較をテーマにした雑誌での発表実績がある教員のデータをはじめ、日本の歳時記、視聴覚教材を用いて受講生の日本理解に努め、日本の文化を体感できるゼミを展開する。折々のニュースで取り上げられる埼玉や東京の文化スポット散策も折に触れて実施。

さらに7月・12月の日本語能力試験、6月・11月の時事検定試験(毎日新聞)対策も実施し、キャリアアップも行う。

評価

授業への参加度:40%、毎回の課題完成40%、授業を踏まえたキャリアアップの達成度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】提示される課題について予習を行う。

【事後学修】学習したテーマ、および添削された提出物について復習を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の時に提示。

科目名	演習		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Qクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究に向けての応用力を高める。

科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

学修目標 (= 到達目標)

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。

情報発信者としてのリテラシーを身につける。

内容

1. ブラウザによる音楽制作

...Webアプリ、audiotoolを用いた音楽作品制作

2. ボーカロイド演習

...ボーカロイドのエディット、作品制作、アップロード

3. BGM制作

...映像付随音楽の研究。オーディオループ素材、MIDI入力などを総合的に活用して動画に対してBGMを制作する

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ。また、映画鑑賞やテレビ番組を視聴する際も背景の「音」に着目してみることを習慣にする。

【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高 著 リットーミュージック

ボーカロイドを思い通りに歌わせる本 Nagie 著 リットーミュージック

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科専門科目の必修科目である。

科目の概要

3年次までに修得した知識・技術に基づき、学生自らが特定の具体的課題に対して主体的に取り組み、最終的にその成果を卒業研究としてまとめる。学部での学修の集大成として、この1年間を実りあるものにすることを期待する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究、卒業論文を仕上げる。

内容

内容としては、メディア、インターネットなどといった情報技術を応用して、主に教育分野 (学校、生涯) へ適応できる情報システム、コンテンツのあり方、及び開発を念頭に置く。

方法は、実験を主とした研究、調査を主とした研究、測定を主とした研究、資料・文献による研究、作品・コンテンツを中心とした研究、などによる。

いずれも論文と成果物 (作品、コンテンツ、プログラム) を必要とし、研究にあたり各自テーマを設定し、計画的に進めることが必要である。

3年次終了時に、仮テーマを決定する。

4年前期は、基本的な情報収集、開発するコンテンツやシステムの設計、研究テーマ、目的・研究方法の確立をし、夏休み前には具体的な計画に従って研究が遂行できるように準備を進める。

4年後期は、それぞれの計画に従って研究を進め、最終的な研究を仕上げる。

研究テーマは、学生各自で異なるので、適当な時間を使いながら定期的のうち合わせ、進捗状況の報告などを行うこととする。

評価

卒業研究として内容・方法が適切なものであるか、また、論文・作品が期日までに提出され、卒研発表会でのプレゼンテーションが適当であったかを評価の対象にする。論文の内容・成果物を60%、発表会でのプレゼンテーション40%とし、合計評価が60%以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究に必要な調査、実験、制作などをおこなう

【事後学修】論文等の形式で正課をまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

指定しない

科目名	卒業研究		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の「演習・」で学んだ日本及び国際社会の特徴についての知識をさらに発展させ、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。単なる情報収集の段階から、集めた情報の体系的整理・分類と分析へ進み、分析結果の社会的及び学問的意義の検証の段階へと発展させていく。

前期は情報収集と整理、後期は集めた情報の体系的分類と分析に重点を置き、分析結果の社会的及び学問的意義の検証を行う。適宜発表を行い、発表者の論文を読者として読み、理解しにくい点を指摘し、改善のための議論を行う。

議論を通じて明確な文章を備えた、わかりやすい文章作成を行う。

これまでの卒業論文のテーマ

「食と地球環境問題」、「エコロジー流行の実態」、「企業の社会的責任」、「自然と共存する経済」、「異文化理解と教育」、「世界の貧困問題」、「イラク戦争開戦の背景」、「小国の独立 - 少数民族の民族意識」など。

内容

前期

第1回～第5回：個々のテーマ選択、問題提起

第6回～第11回：テーマに関する情報収集

第12回～第14回：テーマ発表会用のプレゼンテーション準備

第15回：テーマ発表会

後期

第1回～第5回：リサーチの経過報告

第6回：テーマの最終決定

第7回～第11回：リサーチ及び論文執筆

第12回～第14回：論文形式の最終確認

第15回：卒論発表会

評価

発表・討論への参加(25%)、中間報告(25%)、卒業論文または制作物(50%)で総合的に評価

授業外学習

【事前予習】それぞれのテーマについて情報を収集し、発表の準備をする。

【事後学修】 発表後の議論で指摘された点を参考に、文章化する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

自分の問題意識から卒業研究としての卒業論文を完成させていく

科目の概要

卒業論文のテーマ、問題意識、目次構成、参考文献を記した卒論中間報告を作成、その上で卒業論文を作成していく

学修目標 (=到達目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする

内容

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

評価

- ・卒業論文(80%)、卒業論文の発表と平常点(20%)の総合評価。

授業外学習

- 【事前予習】卒業研究作成の上での問題点、相談事項などをまとめておく
- 【事後学修】授業での指導を受けた上での卒業研究についての自分の考え・方向性を明確にする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書 白井利明・高橋一郎「よくわかる卒業論文の書き方」ミネルヴァ書房

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究を完成させる中で、自分の企画力、計画性、行動力、構成力、克己心などを向上させます。

内容

各人の研究成果の進捗状況を報告し、指導を受けます。

評価

プレゼン内容 (70%) および討論内容 (30%)

授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書

『メディア用語基本事典』 (世界思想社)

田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232 龍星出版、1996年)

田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195. 世界思想社、2004年)

『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー 』 p. 40-54. 小玉美意子編著 (新曜社、2008年)

科目名	卒業研究		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

身体表現ゼミであるが、ダンスにとらわれず身体活動を通して人間のあらゆる角度から幅広く表現することの意味、実践することの意義に焦点をあて、各人が興味を持って調べ、4年間の集大成として卒業研究をまとめる。

内容

自分の興味のあることを楽しみながら調べ、知識を深めていくことが重要である。前期はそのための知識や情報を収集する期間として、各自の参考文献や共通な文献の読み合い、意見の出し合いなどしながら各自の考え方を固めていくことも同時に行っていく。

1. 研究テーマの設定
2. 研究計画作成 (卒業研究提出日までの内容計画、中間発表、研究発表)
3. テーマに応じ、文献等を活用し取り組む
4. 卒研発表パネルセッションでのプレゼン
5. 身体表現ゼミ卒業研究会における発表

(以下は、平成25年度の卒研課題例)

- オズの魔法使い～映像からみる感情の分析～
- ピーターラビットの魅力～動物らしさと人間らしさ～
- 何が第一印象に影響を与えているか～人から好感をもたれるためには～
- 聞こえない学生への支援体制の現状について～より良いノート (PC) テイクのために～
- 海外から賞賛される理由～日本の魅力について～
- ダンス経験がコミュニケーション能力に与える影響～パーソナルスペースのデータを元に～
- サービスとホスピタリティ～オリエンタルランドを事例として～
- 婚姻儀礼について～結婚に関するイメージを探る～
- スポーツ観戦 (応援) 時における身体表現～日本プロ野球パシフィックリーグの応援を事例として～

評価

準備状況等 5 0 % 卒業研究内容 5 0 % その他桐華祭参加状況、その他ゼミイベント参加状況、下級生教育等 総合的に評価する

授業外学習

【事前予習】自らの研究テーマに関連する内容に関連する資料を準備し、研究の進行を予習の中で進め、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう準備する。

【事後学修】授業で確認した内容を研究に反映し、進行のスピードが遅くならないようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする。心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。情報環境に限らず、具体的な道具を取り上げ、有効な道具の条件について考察したい。

学修目標 使いやすく、わかりやすく、使ってみたくなる、具体的な道具を制作したい。実際に制作する過程で、使いやすくする工夫が難しいことを理解して欲しい。さらに、弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書かつ参考図書 野島久雄 (訳) 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	卒業研究		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「ことばの心的メカニズムA」、「演習I・II」の内容が基礎となります。

科目の概要

前期は言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に、各自が興味を持った分野について、基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、卒業論文の執筆を始めます。後期は前期で学んだことを発展させ、各自の選んだテーマに沿った卒業論文の指導を行います。

学修目標 (= 到達目標)

前期は、(i)研究テーマの設定ができる、(ii)先行文献を批判的に読み、研究テーマの方向性を決める、(iii)先行文献の内容をまとめることができることを目標とします。後期は、(i)研究テーマに沿った資料を自分の手で集めることができる、(ii)集めた資料を分析し、自分なりの主張を論じることができることを目標とします。

内容

前期は、研究内容にかかわる先行研究を丁寧に読み、まとめるという作業を行いません。

後期は、卒研究に向けて、テーマの立て方、参考資料などの文献検索の方法、卒業論文の書き方などを指導します。卒業研究では、学生各自のテーマを設定し、それに添った形で発表をしてもらいます。毎週、それを添削します。積極的な授業参加が望まれます。

評価

(1)平常点 (レジюме、毎授業での発表) (40%)

(2)卒業論文 (60%)

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】参考図書の指定された箇所を読んでおくこと。論文作成に入ったら、執筆予定箇所の原稿をプリントアウトしてくこと。

【事後学修】論文作成に入ったら、添削、コメントの入った部分を次回までに修正してくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】各自の卒業研究のテーマに合わせて授業内で指示します。

【推薦書】なし

【参考図書】各自の卒業研究のテーマに合わせて授業内で指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

メディアコミュニケーション学科専門必修科目。

メディアやコミュニケーションについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

情報や考え方の出典の明記に特に注意する。

内容

昨年度の3年次演習Ⅰ、Ⅱでは、英語の映画を通して、英語表現やその音声について観察を行った。ゼミ研究日誌の奨励・チェックがあまりできなかったが、早くゼミレポートを卒業研究日誌へ発展させて、その充実に努めてほしい。

これまでの設楽ゼミ生の卒論の例は次の通り。

- * 中国のテレビ放送文化について
- * 久石譲が作るジブリ作品の曲
- * 文科省の学校英語教育方針について、社会の変化との兼ね合いを調べた論文
- * 映画『ハリーポッター』の面白さの分析
- * 日本の戯曲とその英訳の比較
- * 80年代、90年代、2000年代のテレビドラマのせりふに現れる日本語の男女差を終助詞に注目して分析した論文
- * 英語の同音異義語が聞き取り問題に与える影響を実験した論文

卒業研究の進捗状況のチェックは次のように行う。

- * 4年次4月～6月： 問題の分析、先行研究の分析、問題の修正、仮説の明確化、観察・実験の計画
- * 4年次7月～10月： 観察・実験・取材
- * 4年次11月～12月初旬： 文章化・添削

卒業論文執筆・就職活動・内定先研修・卒業旅行などの時間配分を計画的に行っていただきたい。他大学で卒業研究が選択制なところも多いため、就職内定企業が卒業論文執筆時期に研修を勤めることがあるので、執筆時間を確保することには特に注意していただきたい。

評価

卒業研究ノートの評価を60点、卒業研究論文（作品制作）の評価を40点とし、計60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】とにかく早期に仮説を立て、検証方針を考え、専攻研究に当たってください。就職活動で忙しいときも週1時

間は最低必要です。

【事後学修】ゼミ生やゼミ担任からの意見を考慮して、仮説や検証方針を修正して研究を続行してください。週30分は最低必要です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】授業中に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

3年生からまとめてきたテーマを絞って、具体的に実験やデータを分析する力を養成します。

科目の概要

「脳」の働きは私たちの感情や心理とどのような関係にあるのでしょうか。脳の発達の側面から、多岐にわたる活動までを卒業研究ゼミでは演習します。

学修目標 (= 到達目標)

音楽、視覚、触覚などの分野では実験を加えつつ卒業研究、卒業論文の完成を目指します。

内容	
1	導入 (プレ卒業研究反省)
2	論文の形式
3	論文内容の検討
4	引用について
5	参考文献の取り扱い
6	他の研究領域との関係
7	インターネットからの引用の注意点
8	下書き
9	推敲方法
10	比較検討
11	誤字脱字の避け方
12	論文の仕上げ
13	首尾一貫性
14	完成への注意点
15	まとめ

評価

ゼミへの取り組み (20%) 月一度の校正 (30%)、卒論内容 (50%) によって とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】発表時には1時間程度の準備。

【事後学修】指摘された部分の復習30分程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】オリジナルのプリント

【推薦書】

【参考図書】各自テーマに沿ってゼミ室の図書を利用

科目名	卒業研究		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

卒業論文作成を行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ (就活での自己PRの内容) の完成を目指します。Mind-Map思考法の発展、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得！」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 論文作成技法
- 第3回 卒論プレゼンテーション1
- 第4回 就活サポート1
- 第5回 卒論プレゼンテーション2
- 第6回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画1
- 第7回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画2
- 第8回 調査データ分析法1
- 第9回 調査データ分析法2
- 第10回 卒論プレゼンテーション3
- 第11回 共同プロジェクト準備1
- 第12回 共同プロジェクト準備2
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン完成
- 第14回 PC論文作成サポート
- 第15回 フィードバック

評価

卒業研究中間発表提出物による評価...50%

卒業研究最終提出物・卒業研究発表会...50%

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】個人の卒業研究テーマの進捗報告準備。ゼミでのプロジェクト進捗報告準備。

【事後学修】獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想 (質問えを含

む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業論文、または卒業制作を行っていく科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。これまでの4年間で学習したことを十分に生かすことが期待される。

科目の概要

卒業論文の執筆、または卒業制作を行う。年間でスケジュールをたて、目標設定から調査、章立て、執筆と計画的に行う。

学修目標 (= 到達目標)

1. 3年の演習時にたてた筋道に従い、計画的に卒業論文を書き進めることができる。
2. 卒業論文を論文の体裁に則って作成することができる。
3. 卒業論文作成後、推敲を行い、完成度を高めることができる。

内容

- ・漠然としたテーマでなく、どこまでを明らかにするのか明確な目標を設定する。
- ・仮説をたてる。その仮説に関して調査を進めることが望ましい。
- ・様々な文献を調査して、客観性の高い結論を導く。
- ・論文の体裁を理解して、それに則って書き進める。
- ・自分で推敲することができるよう、余裕をもって卒業論文の作成をする。
推敲には書き上げたのち、少し期間をおいてなるべく客観的に読むことが必要である。
- ・議論を通して、より良いものを目指していく。
- ・締め切りに間に合うよう、計画的に研究を進めていく。

評価

卒業論文または卒業制作への取り組み80%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】前回からの進捗についてまとめておく。
- 【事後学修】自分の計画に従って研究を進める。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】使用しない
- 【推薦書】木下是雄、理科系の作文技術、中公新書
- 【参考図書】教室で紹介する

科目名	卒業研究		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアはよく「第4権力」と言われるが、この言葉の響きを必ずしもマイナスイメージだけでなく「国会・行政・司法」という3権をより成熟して自由な民主主義社会に導くための大切なもの」と捉えたい。そのためにはメディアが日々の活動を通して生み出す「コンテンツの自由と質」と「メディアの屋台骨を支えるビジネス（いわばメディア産業論的視点）」の二面性（ロマンとソロバン）の吟味が欠かせないのであり、より実際に即して、その具体的な理解を図る。

折々に新聞社やテレビ局等マスメディアの現場にも出向くことにより、卒業研究はもとより、就職活動の参考にも資する。

内容

本ゼミでは、上記の基本的認識に立って、旧マスコミ4媒体（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌）及びこれと関わるニューメディア等の企業のリアルな動静を学び「メディアのコンテンツ制作の現場体験学習」等を行う。

3年のゼミでは、「新聞などの旧メディア」「広告コンテンツ」等、各自が関心を持つメディアの展開について「まとめ・提言」をゼミ内で行ったが、これら（新テーマも含め）を「卒業研究」に仕上げる。卒業研究の内容を重厚なものとするため、新聞社やテレビ局、出版社等の見学を通してマスメディアで働く人の肉声に触れる。このほかフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として関わり、社会で問われるコミュニケーション能力（書く力・読む力・話す力・聞く力）を向上させる。大学時代にこれをやった、と誇ることのできる「集中的な知的作業の達成感」は社会に巣立つ時の大事な評価である。

社会で競争に勝つ文章力 バランス感覚豊かな編集力から生まれる企画力 人間洞察と数字に裏打ちされた交渉力 日程を踏まえた確かな段取りの力 をゼミ生が常に頭を働かせる環境下の能動的な授業を通して総合的に磨き上げ、「卒業研究」の完成自体も、「就職力・就業力」に収斂させていく。

評価

授業に対する取り組み姿勢と授業を踏まえて自分で考え行う力を評価。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の時に提示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究を作成するために、調査や文献講読、発表などを行う。

科目の概要

- 1) 卒業研究に必要な資料収集、データ収集、レジュメ作成、発表、討論の方法や、レポート作成技法などについて学ぶ。
- 2) インタビューをしてさまざまな文化現象に関わる人たちと交流し、文献や映像資料を集めて内容を分析することを通じて、社会のなかで、文化やメディアがどのように機能しているかを学ぶ。
- 3) 自分自身の研究対象について書かれた本や関連する資料 (雑誌、映像、サイトなど) を読み、調査してきた内容とつぎ合わせながら、レジュメをまとめ、最終的に、ひとつの論文にまとめていく。

学修目標

みなさんが興味を持っている現代社会のさまざまな文化現象を、メディアとの関係を中心に調査したり討論したりしていく。実際に街に出てインタビューをしたり、さまざまな文化現象に関わる人たちとの交流を通じて、社会のなかで文化やメディアがどのように機能しているかを学び、コミュニケーション能力、交渉力や調整能力を高めていくことがこのゼミの目標になる。

内容

15回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

- (1) イントロダクション
- (2) 調査 1
- (3) 調査 2
- (4) 調査 3
- (5) 調査 4
- (6) 発表 1
- (7) 発表 2
- (8) 発表 3
- (9) 発表 4
- (10) 分析 1
- (11) 分析 2
- (12) 分析 3
- (13) 分析 4
- (14) まとめ 1
- (15) まとめ 2

評価

平常点（25%）授業への参加（25%）提出物や課題（50%）

授業外学習

【事前予習】使用する文献を読みレジユメを作成すること

【事後学修】ゼミでの議論を受けて論文を作成すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示

科目名	卒業研究		
担当教員名	大西 正行、池間 里代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

前年度の演習で学んだ「日本の四季」(食・自然・旅等)をもとに、各自がテーマを設定し、日本文化についての研究を進める。

参考文献・先行研究の収集、取材、考察を経て文章化する。

以上のことを通して、日本の文化やこれを伝える日本のメディアに対する理解を深める。

これらの作業の集大成として、各自が論文を執筆する。

論文作成と併せ、前年度から取り組んでいる日本語能力アップや各種資格取得にも積極的に取り組み、就職はもとより、大学院進学の実現できるよう指導する。

内容

留学生からみた日本文化を考察し、異文化理解の視点からテーマを設定する。既に3年次の演習においても、テレビの料理番組の日中比較や女性ファッション誌の日中比較などに関心を深めている学生も少なくなく、さらにゼミ生が具体的なテーマを精査し、中間報告会などを設定し、論文化へのきめ細かな作業を進める。

互いの報告を聞き、批評し合うことにより、テーマへのアプローチを確かなものとする。

テーマがゼミ生全員が共有すべき内容として評価される場合や、テーマの深化がゼミ生全員の知的陶冶に結びつく場合は、共同で調査研究を進めることも展望する。

留学生という立場を踏まえた就職相談、大学院への進学相談の機会を多く持ち、希望する進路に少しでも近づける道筋を教員とゼミ生と一緒に探る。

評価

授業に対する取り組み姿勢と、授業を踏まえ自分で考え行う力を評価。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の時に提示。